

西ノ辻遺跡第28・29次発掘調査報告

1991. 9

財団法人 東大阪市文化財協会

は し が き

東大阪市内に所在する埋蔵文化財包蔵地は百数十ヶ所を数え、包蔵地での土木・建築工事は毎年増加の一途をたどっております。工事に先だって緊急発掘調査も急増している状況にあります。

今回、西ノ辻遺跡でビルおよび住友銀行石切支店建築工事が実施されることになり、これに先だって発掘調査をする運びとなりました。当遺跡は、昭和61年に開通した近鉄東大阪線の新石切駅があり、その便のよさや駅前開発によってビルや住宅などの建築が急増しております。

西ノ辻遺跡は古くより弥生時代後期の標式遺跡として著名な遺跡であります。また、近鉄東大阪線建設工事に伴って大規模な発掘調査が実施され、縄文時代から中世に至る遺構、遺物が発見されております。今回の調査では弥生時代中期の方形周溝墓や古墳時代以降の井戸、土坑墓、溝など多量の遺物を検出し、当遺跡を考える上で貴重な資料を得ることができました。しかし、今回の調査は、当遺跡の一端を見たにすぎず、今後、発掘調査によってその全貌の解明に努力していきたいと思っております。

最後に、調査および報告書作成にあたって御協力・御指導をいただいた方々に厚くお礼申し上げますとともに、本書が歴史研究をはじめ、広く活用されることを心から願うものであります。

平成3年9月

財団法人 東大阪市文化財協会
理事長 森 分 最

例 言

1. 本書は、株式会社中野興産が予定しているビル建築および住友銀行が予定している住友銀行石切支店建築工事に伴って実施した西ノ辻遺跡第28・29次の調査報告書である。
2. 現地調査および遺物整理は、財団法人東大阪市文化財協会が株式会社中野興産（第28次調査）と住友銀行（第29次調査）の委託を受けて実施した。現地調査は、第28次が平成元年11月14日～平成2年1月27日まで、第29次が平成2年2月8日～平成2年3月30日まで、遺物整理を平成2年4月1日～平成3年9月30日まで実施した。
3. 調査・整理は次の事務局体制により進めた。（平成3年9月30日現在）

理事長	森分 最（東大阪市教育委員会教育長）
事務局長	池田和幸（東大阪市教育委員会文化財課課長）
事務局付	小寺健夫（東大阪市教育委員会文化財課課長代理）
調査部長	原田 修（東大阪市教育委員会文化財課主幹）
庶務部長	下村晴文（東大阪市教育委員会文化財課主査）
調査副部長	福永信雄（東大阪市教育委員会文化財課主任）
調査副部長	勝田邦夫（東大阪市教育委員会文化財課主任）
庶務副部長	芋本隆裕（東大阪市教育委員会文化財課主任）
調査部	上野節子（財団法人東大阪市文化財協会）
庶務部	大林 亨（財団法人東大阪市文化財協会）
庶務部	朝田直美（財団法人東大阪市文化財協会）
調査担当	才原金弘（東大阪市教育委員会文化財課）
調査補助	井上伸一 米谷昌憲 島村和宏 栄富也 上江大誠 本田けい子 植村博美 三浦一己 牛島千恵子 西宮圭子 竹田昌代 西川福美
4. 本書の執筆と編集は才原がおこなった。
5. 図版に収めた遺構写真は才原と補助員が撮影し、遺物写真はスタジオ・G.F.プロに委託した。
6. 調査における二色名は、農林省農林水産技術会議事務所監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準じた。
7. 調査の実施にあたっては、株式会社中野興産中野祐次氏、住友銀行十河敏氏の御協力をいただいた。記してお礼申し上げます。

本文目次

はしがき

例言

I. 調査に至る経過	1
II. 位置と環境	2
III. 第28次調査概要	5
1. 層位	5
2. 遺構	6
3. 出土遺物	20
IV. 第29次調査概要	67
1. 層位	67
2. 遺構	68
3. 出土遺物	71
V. まとめ	76

挿図目次

第1図 遺跡周辺図	3
第2図 調査地点位置図	4
第3図 北壁断面実測図	5
第4図 遺構実測図	7・8
第5図 井戸1・5実測図	10
第6図 井戸2・4実測図	11
第7図 井戸3、土壇1・4実測図	12
第8図 1号方形周溝墓実測図	14
第9図 2号方形周溝墓実測図	15
第10図 1号方形周溝墓出土土器実測図	21
第11図 1号方形周溝墓出土土器実測図	23
第12図 1号方形周溝墓出土土器実測図	24
第13図 1号方形周溝墓出土土器実測図	25
第14図 1号方形周溝墓出土土器実測図	27
第15図 溝10出土土器実測図	30
第16図 溝10出土土器実測図	31
第17図 溝1出土土器実測図	33
第18図 溝1出土土器実測図	34

第19図	溝1出土製塩土器拓影	35
第20図	2号方形同溝墓、溝2、土埴2・14出土土器実測図	38
第21図	土埴4出土土器実測図	40
第22図	井戸1～5出土土器実測図	43
第23図	ピット出土土器実測図	46
第24図	包含層出土土器実測図	50
第25図	包含層出土土器実測図	52
第26図	包含層出土土器実測図	53
第27図	包含層出土土器実測図	55
第28図	包含層出土土器実測図	57
第29図	製塩土器・埴輪拓影	58
第30図	木製品実測図	60
第31図	石製品・金属製品実測図	63
第32図	土製品実測図	64
第33図	瓦拓影	66
第34図	東壁断面実測図	67
第35図	遺構実測図	69
第36図	土埴墓実測図	70
第37図	土埴10・1、土埴墓、溝1、落ち込み1出土土器実測図	72
第38図	落ち込み1、包含層出土土器実測図・製塩土器拓影	73
第39図	土製品実測図	75

表 目 次

第1表	ピット計測表	16～19
第2表	土錘一覧表	65

図 版 目 次

図版1	遺構(第28次調査)	1. 遺構全景(第1遺構面)	2. 遺構全景(第1遺構面)
図版2	遺構(第28次調査)	1. 井戸1	2. 井戸2
図版3	遺構(第28次調査)	1. 井戸2・3	2. 井戸2・3
図版4	遺構(第28次調査)	1. 井戸4	2. 井戸5
図版5	遺構(第28次調査)	1. 土埴1	2. 土埴4
図版6	遺構(第28次調査)	1. 土埴2、溝1	2. 溝2・3
図版7	遺構(第28次調査)	1. 遺構全景(第2遺構面)	2. 溝10、土埴14
図版8	遺構(第28次調査)	1. 溝10内土器出土状況	2. 溝10内土器出土状況

- 図版9 遺構(第28次調査) 1. 土城9 2. 土城15
- 図版10 遺構(第28次調査) 1. 1号方形周溝墓 2. 1号方形周溝墓南周溝(溝7)
- 図版11 遺構(第28次調査) 1. 1号方形周溝墓南周溝(溝7)内土器出土状況
2. 1号方形周溝墓南周溝(溝7)内土器出土状況
- 図版12 遺構(第28次調査) 1. 1号方形周溝墓南周溝(溝7)東壁断面
2. 2号方形周溝墓
- 図版13 遺物(第28次調査) 1号方形周溝墓出土土器
- 図版14 遺物(第28次調査) 1号方形周溝墓出土土器
- 図版15 遺物(第28次調査) 1・2号方形周溝墓出土土器
- 図版16 遺物(第28次調査) 1. 1号方形周溝墓出土土器 2. 1号方形周溝墓出土土器
- 図版17 遺物(第28次調査) 1. 1号方形周溝墓出土土器 2. 1号方形周溝墓出土土器
- 図版18 遺物(第28次調査) 1. 1号方形周溝墓出土土器 2. 1号方形周溝墓出土土器
- 図版19 遺物(第28次調査) 1. 1号方形周溝墓出土土器 2. 1号方形周溝墓出土土器
- 図版20 遺物(第28次調査) 溝10出土土器
- 図版21 遺物(第28次調査) 溝10出土土器
- 図版22 遺物(第28次調査) 1. 溝10出土土器 2. 溝10出土土器
- 図版23 遺物(第28次調査) 1. 溝10出土土器 2. 溝10出土土器
- 図版24 遺物(第28次調査) 1. 溝10出土土器 2. 2号方形周溝墓、溝2出土土器
- 図版25 遺物(第28次調査) 溝1出土土器
- 図版26 遺物(第28次調査) 1. 溝1・2出土土器 2. 溝1出土土器
- 図版27 遺物(第28次調査) 1. 溝1出土土器 2. 溝1出土土器
- 図版28 遺物(第28次調査) 1. 溝1出土土器 2. 溝1出土土器
- 図版29 遺物(第28次調査) 1. 溝1出土土器 2. 溝1出土土器
- 図版30 遺物(第28次調査) 土城4出土土器
- 図版31 遺物(第28次調査) 井戸2、ピット20・28・35・164出土土器
- 図版32 遺物(第28次調査) 1. 土城2・14出土土器 2. 土城4出土土器
- 図版33 遺物(第28次調査) 1. 土城4出土土器 2. 土城4出土土器
- 図版34 遺物(第28次調査) 1. 井戸1～3・5出土土器 2. 井戸4出土土器
- 図版35 遺物(第28次調査) 1. ピット20・28・31・35・43・45・53・57・91出土土器
2. ピット65・92・143・144出土土器
- 図版36 遺物(第28次調査) 包含層出土土器
- 図版37 遺物(第28次調査) 1. 包含層出土土器 2. 包含層出土土器
- 図版38 遺物(第28次調査) 1. 包含層出土土器 2. 包含層出土土器
- 図版39 遺物(第28次調査) 1. 包含層出土土器 2. 包含層出土土器
- 図版40 遺物(第28次調査) 1. 包含層出土土器 2. 包含層出土土器

- 図版41 遺物(第28次調査) 1. 包含層出土土器 2. 包含層出土土器
- 図版42 遺物(第28次調査) 1. 包含層出土土器 2. 包含層出土土器
- 図版43 遺物(第28次調査) 1. 包含層出土土器 2. 包含層出土土器
- 図版44 遺物(第28次調査) 1. 包含層出土土器 2. 包含層出土土器
- 図版45 遺物(第28次調査) 1. 包含層出土土器 2. 包含層出土土器
- 図版46 遺物(第28次調査) 1. 埴輪 2. 埴輪
- 図版47 遺物(第28次調査) 1. 瓦 2. 瓦
- 図版48 遺物(第28次調査) 木製品
- 図版49 遺物(第28次調査) 木製品
- 図版50 遺物(第28次調査) 木製品 土製品 金属製品 動物遺体
- 図版51 遺物(第28次調査) 土製品
- 図版52 遺物(第28次調査) 石製品
- 図版53 遺構(第29次調査) 1. 遺構全景(中央区) 2. 遺構全景(中央区)
- 図版54 遺構(第29次調査) 1. 遺構全景(南側区) 2. 遺構全景(南側区)
- 図版55 遺構(第29次調査) 1. 遺構全景(南側区) 2. 遺構全景(東側区)
- 図版56 遺構(第29次調査) 1. 落ち込み1、土壇墓 2. 土壇墓
- 図版57 遺構(第29次調査) 1. 土壇墓 2. 土壇墓
- 図版58 遺構(第29次調査) 1. 溝1・2、土壇2~5 2. 溝1、土壇2
- 図版59 遺構(第29次調査) 1. 溝1・2 2. 溝3
- 図版60 遺構(第29次調査) 1. 土壇1 2. 土壇1東壁断面
- 図版61 遺構(第29次調査) 1. 土壇3 2. 土壇4
- 図版62 遺構(第29次調査) 1. 土壇5 2. 土壇6
- 図版63 遺構(第29次調査) 1. 土壇8 2. 土壇9
- 図版64 遺構(第29次調査) 1. 土壇10、落ち込み2 2. 土壇10
- 図版65 遺物(第29次調査) 土壇墓、土壇10、落ち込み1、包含層出土土器
- 図版66 遺物(第29次調査) 1. 溝1、土壇1・10出土土器 2. 落ち込み1出土土器
- 図版67 遺物(第29次調査) 1. 包含層出土土器 2. 包含層出土土器
- 図版68 遺物(第29次調査) 1. 包含層出土土器 2. 包含層出土土器

I. 調査に至る経過

西ノ辻遺跡は縄文時代～近世に至る複合遺跡である。当遺跡は昭和16年より調査が開始され、弥生時代後期の標式遺跡として学史的にも著名な遺跡である。近年、大阪府教育委員会、東大阪市教育委員会、財団法人東大阪市文化財協会によって近鉄東大阪線建設工事に伴って大規模な調査が実施された。当調査では縄文時代後期～近世に至る各時期の遺構、遺物が出土しており、西ノ辻遺跡の変遷が窺える。縄文時代の遺構は検出されていないが、後期の土器が出土している。弥生時代の遺構は方形周溝墓、雙棺墓、谷筋などが検出されている。方形周溝墓の盛土は中世に削平を受けているが、周溝内には供献土器が残っていた。また、谷筋内には多量の土器が捨てられており、調査地周辺には集落が存在していたと考えられる。古墳時代の遺構は谷筋に造られている石組遺構や木樋などがあり、貯水施設と考えられる。石組遺構は人頭大の石を方形に積み上げたものである。中世の遺構は掘立柱建物、井戸、木棺墓などがある。中世の遺構はほぼ全域に広がっており、集落が点在していたと考えられる。当調査では縄文時代～近世に至る多くの知見が得られた。また、鉄道周辺の開発も進みつつあり、道路、マンション等の建設工事が増加している。

今回、東大阪市西石切町3丁目76-1番地でビル建築工事、また、135-1番地でも住友銀行西石切支店建築工事が実施されることになった。工事予定地は西ノ辻遺跡内にあり、東大阪市教育委員会文化財課が試掘調査を実施した。試掘調査では弥生時代～中世の遺構、遺物の存在が確認され、工事に先だって発掘調査が必要との見解が出された。株式会社中野興産、住友銀行と東大阪市教育委員会文化財課が協議した結果、発掘調査を実施することになった。工事予定地は隣接しており、残土仮置地の確保や期間の短縮などから考えて継続して実施することになった。発掘調査は財団法人東大阪市文化財協会に委託しておこなった。第28次調査地の面積は390㎡であり、平成元年11月14日～平成2年1月27日まで現場作業を実施した。第29次調査地の面積は364㎡であり、平成2年2月8日～3月30日まで現場作業を実施した。



調査地現状(平成3年8月)

Ⅱ．位置と環境

西ノ辻遺跡は奈良県と大阪府の境となる生駒山の西麓に位置する。当遺跡は扇状地上に立地し、標高7～20mを測る。現在の行制区分では東大阪市東山町、弥生町、西石切町3丁目に相当する。近年、開発の進展によって当遺跡の大部分は住宅、工場、商店となっているが、一部は田や畑として残っている。

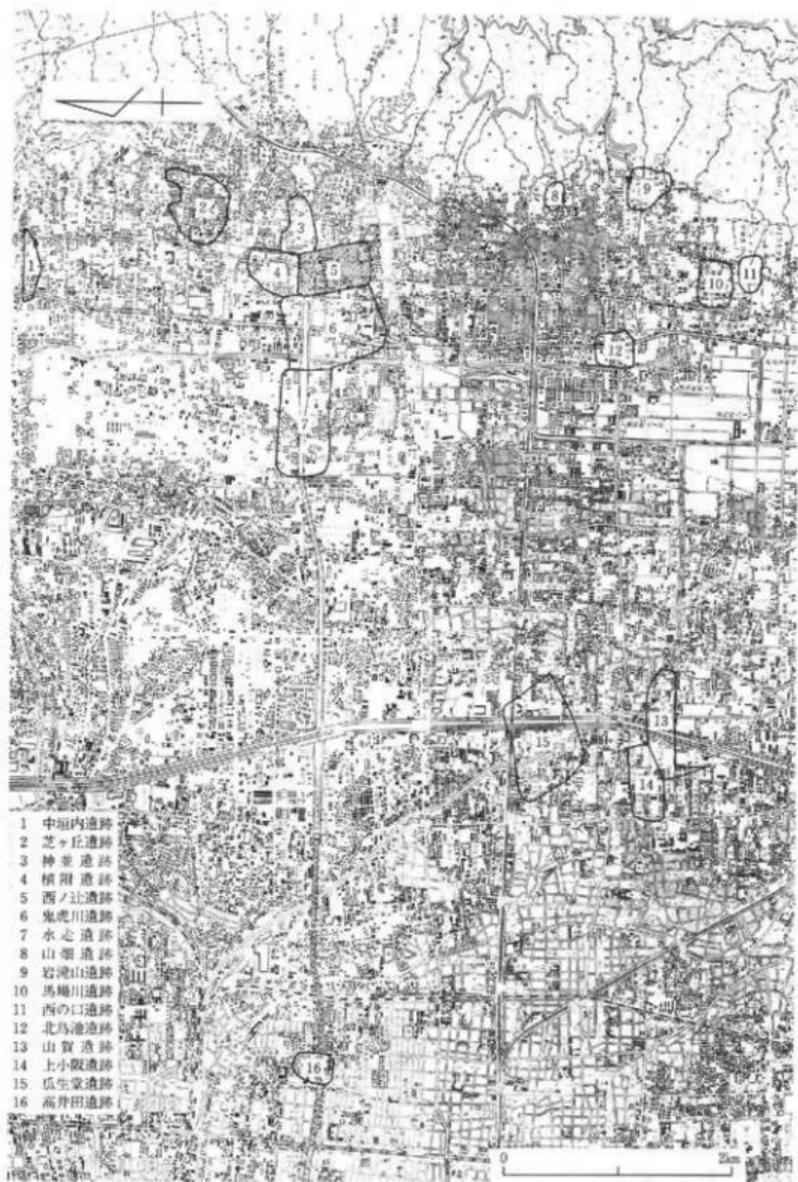
生駒山西麓に遺跡が出現するのは旧石器時代からである。当時代の遺跡は標高100m前後の地点で多く認められ、草香山、芝坊主山、正興寺山遺跡などが知られている。しかし、遺物は採集品であり、遺跡の詳細は不明である。近年、鬼虎川遺跡で発掘調査が実施され、縄文時代前期の海岸線が検出された。海岸線の堆積土よりナイフブレードや翼状剥片が出土しており、近辺に当時代の遺構等が存在すると考えられる。

縄文時代になると当遺跡の東に神並遺跡が出現する。神並遺跡は早期の遺跡であり、集石土壇、焼土壇などの遺構や多量の押型文土器、土偶、石鏃、石匙、有舌尖頭器などが出土している。前・中期の遺跡は前述した鬼虎川遺跡があり、海岸線の堆積土より土器が出土している。後・晩期になると日下、鬼塚、縄手、馬場川遺跡などが出現する。日下遺跡は府下でも数少ない貝塚として著名な遺跡である。近年の調査では環状列墓や竪穴住居も検出されている。縄手遺跡では竪穴住居や石組遺構などが検出されている。当遺跡では谷内より後期の土器が出土している。

弥生時代の遺跡は前代に引き続き扇状地上に立地するもの、標高100m前後の高所に立地するものがある。また、平野部にも出現し、自然堤防上に集落を形成している。前期の遺跡は中垣内、鬼虎川、鬼塚、縄手、瓜生堂、山賀、高井田遺跡などがある。前期に出現した遺跡は中期にも継続し、大集落を形成するものが多い。中期になると新たに当遺跡や植附、山畑遺跡などが出現する。当遺跡では方形周溝墓、甕棺墓、溝、自然河川の谷などが検出されている。当遺跡の西に位置する鬼虎川遺跡でも方形周溝墓や木棺墓などが検出されており、隣接して墓域があったことが明らかになってきた。また、当遺跡は後期に継続するが、新たに北島池、岩滝山、馬場川、西の口、上下阪遺跡などが出現する。後期に出現する遺跡は規模が小さいものが多い。

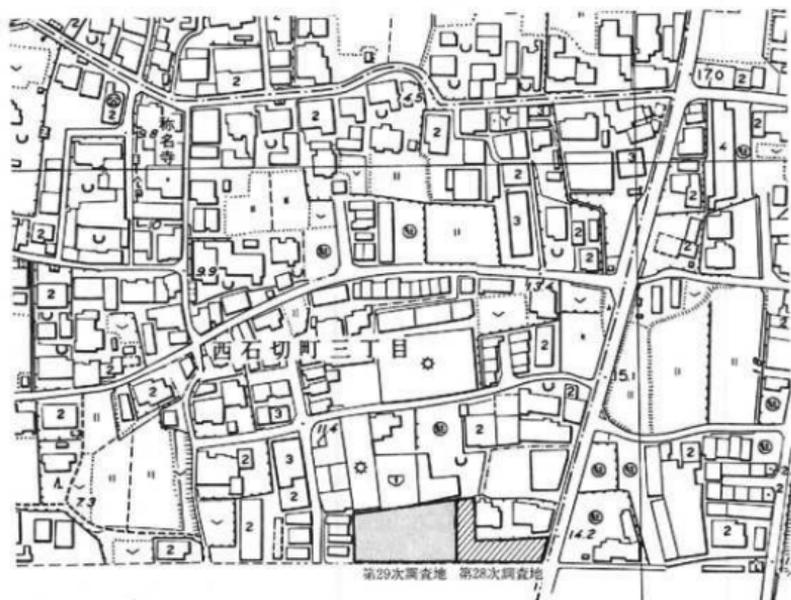
古墳時代の遺跡は芝ヶ丘、神並、鬼塚、縄手、西岩田遺跡などがある。また、生駒山西麓の各尾根筋には古墳が数多く造られている。当遺跡では自然河川の谷に木桶や石組貯水施設などが造られている。神並遺跡では掘立柱建物が発見されている。古墳は中期の時期のものが東大阪市域では最も古く、塚山、えの木塚、大賀世古墳などがある。後期になると群集墳を形成しており、神並、みかん山、出雲井、客坊山、山畑、花草山古墳群などがある。

奈良時代以降になると当遺跡では掘立柱建物、井戸、土壇、土塚墓などが検出されている。当遺跡周辺には神並、水走遺跡などがあり、集落を形成している。また、東には法通寺があり、建物基壇などの遺構が発見されている。



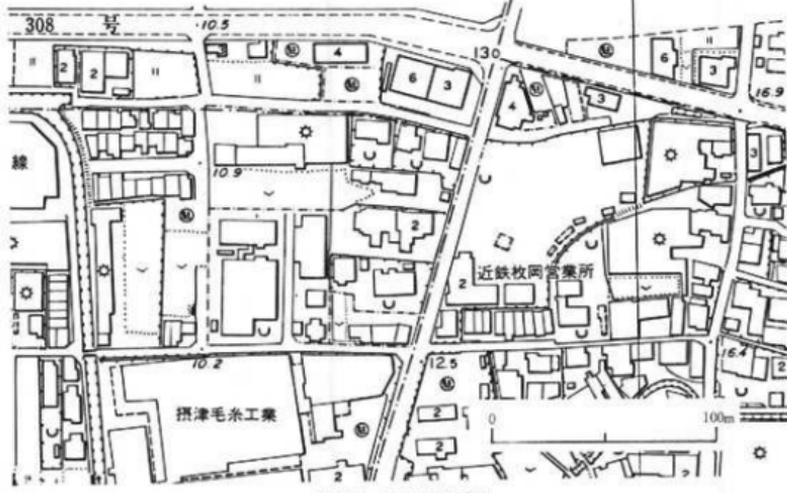
- 1 中垣内道路
- 2 芝ヶ丘道路
- 3 神楽池道路
- 4 榎野池道路
- 5 西ノ辻道路
- 6 鬼虎川道路
- 7 水心池道路
- 8 山郷池道路
- 9 岩塚山道路
- 10 馬場川道路
- 11 西の口道路
- 12 北丸池道路
- 13 山宮池道路
- 14 上小敷池道路
- 15 瓜生堂池道路
- 16 高井田池道路

第1図 道跡周辺図



第29次調査地 第28次調査地

近 鉄 東 大 阪



第2図 調査地点位置図

Ⅲ．第28次調査概要

調査の方法は盛土約0.4mを機械掘削し、下層を人力掘削で精査した。地区割は建設省告示による第Ⅵ座標系を利用した。

1. 層位

断面実測は北壁でおこなった。以下、確認した土層を記す。

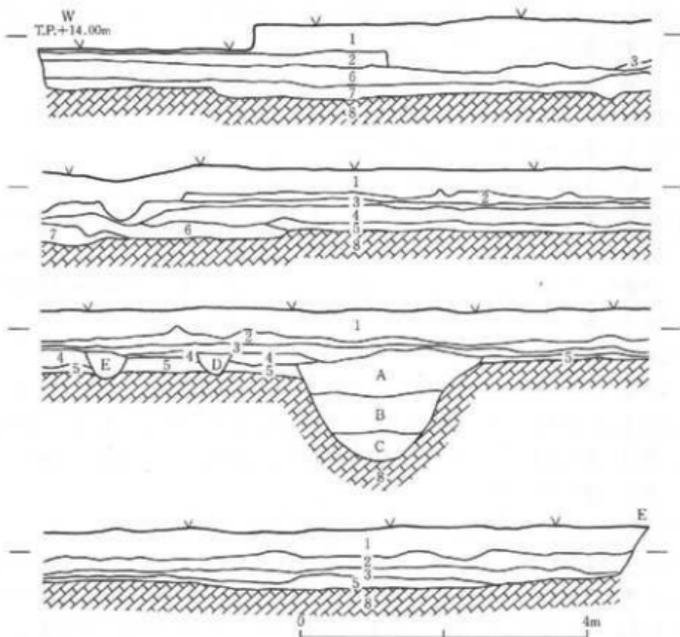
第1層 盛土。層厚5～60cm。

第2層 旧耕土。西側の一部で欠層。層厚5～30cm。

第3層 におい黄褐色(10YR 7/5)シルトに褐色(7.5YR 4/5)シルトがブロック状に混じる層。西側で欠層となる。層厚10～30cm。中世の遺物包含層。

第4層 暗褐色(10YR 4/5)シルト層。西側で欠層となる。層厚5～30cmを測る。中世の遺物包含層及び遺構面。(第1遺構面)

第5層 におい黄褐色(10YR 7/5)シルトに褐色(10YR 4/5)シルトがブロック状に混じる層。西側で欠層となる。層厚10～30cm。中世の遺物包含層及び遺構面。(第1遺構面)



第3図 北壁断面実測図

第6層 褐色(10YR 5/4)シルト層。下部になるにしたがい暗褐色(10YR 2/4)になる。東側で欠層となる。層厚5～30cm。中世の遺物包含層及び遺構面。(第1遺構面)

第7層 褐色(10YR 5/4)シルト質粘土に黄褐色(10YR 5/4)シルト質粘土がブロック状に混じる層。東側で欠層となる。層厚10～30cm。弥生～古墳時代の遺物包含層。中世の遺構面。(第1遺構面)

第8層 黄褐色(10YR 5/4)粘土層。弥生～古墳時代の遺構面。(第2遺構面)

A層 におい黄褐色(10YR 5/4)シルト層。層厚60cm。溝1内の堆積土。

B層 オリーブ黒色(5Y 2/4)シルト質粘土にオリーブ黒色(5Y 2/4)が混じる層。層厚50cm。溝1内の堆積土。

C層 オリーブ黒色(5Y 2/4)粘土層。層厚40cm。溝1内の堆積土。

D層 褐色(10YR 5/4)シルト層。層厚40cm。溝2内の堆積土。

E層 におい黄褐色(10YR 5/4)シルト層。層厚40cm。溝3の堆積土。

2. 遺構

遺構は2面で検出した。第1遺構面では平安～室町時代、第2遺構面では弥生～古墳時代の遺構を確認した。第2遺構面で検出した遺構中に平安～室町時代のものが一部含まれている。本来は第1遺構面より掘られていたと考えられるが上面では確認できなかった。以下、各遺構面ごとに説明を記す。

第1遺構面

井戸5、土壇4、溝6、ピット161を検出した。

井戸1(第5図)

南屑の約4/5が調査地外にある。円形を呈する素掘りの井戸であり、底に向かって径が小さくなる。井戸内のA～D層は埋土であり、E層は堆積土である。径1.6m、深さ4.0mを測る。井戸内より青磁碗、土師器皿、須恵器控鉢、土錘などが出土した。井戸の時期は出土遺物より15世紀と考えられる。

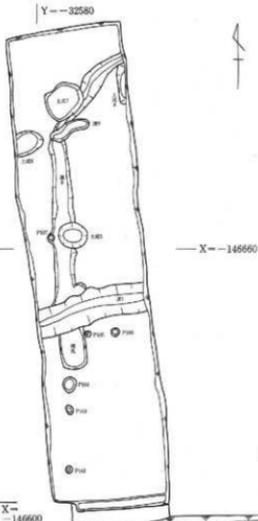
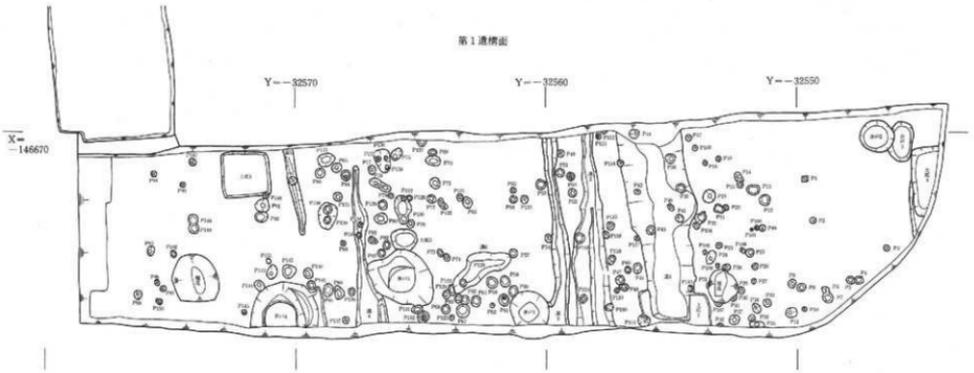
井戸2(第6図)

井戸3の埋った後、掘られた井戸である。円形を呈する素掘りの井戸であり、底に向かって径が小さくなる。井戸内のA・B層は埋土であり、C層は堆積土である。径1.3m、深さ3.6mを測る。井戸内より青磁碗、瓦器摺鉢、土錘、木製品(容器底板・用途不明板)、鹿角などが出土した。井戸の時期は出土遺物より15世紀と考えられる。

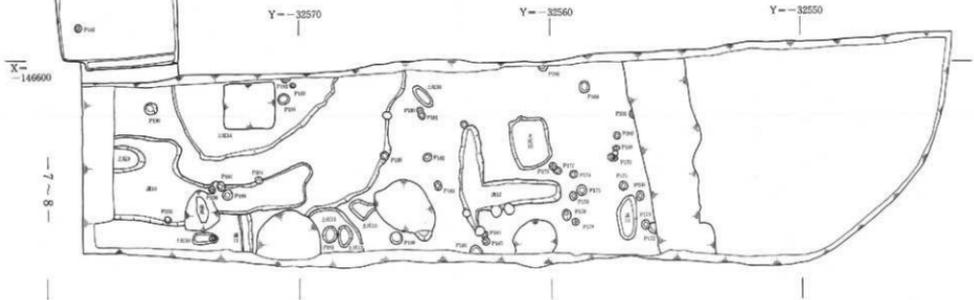
井戸3(第7図)

井戸2によって西屑を切られる。楕円形を呈する素掘りの井戸であり、底に向かって径が小さくなる。井戸内のA・B層は埋土であり、C層は堆積土である。長径1.6m、短径1.0m、深さ3.1mを測る。井戸内より瓦器皿、青磁碗、木製品(曲物容器・容器底板・漆器碗)などが出土した。井戸の時期は出土遺物より13～14世紀と考えられる。

第1透視圖



第2透視圖



第4圖 流轉圖

井戸4(第6図)

南肩の約4/5が調査地外にある。円形を呈する素掘りの井戸であり、上部の肩は3段で落ちる。調査中に壁面崩壊の恐れがあったので断面実測及び底までの完掘はできなかった。上面より約2.4mまでは埋土であり、下層は堆積土である。径3.0m、深さ5.1m以上を測る。井戸内より青磁碗、土師器皿、瓦器羽釜・摺鉢・甕、備前焼、緑釉陶器、弥生土器高杯、土鍾、木製品(釣瓶)などが出土した。井戸の時期は出土遺物より15世紀と考えられる。

井戸5(第5図)

不整形を呈する素掘りの井戸であるが、本来は円形を呈していたと考えられる。肩は2段で落ちる。井戸内のA～E層は埋土であり、F層は堆積土である。長径2.9m、短径2.0m、深さ4.8mを測る。井戸内より土師器皿、瓦器摺鉢などが出土した。井戸の時期は出土遺物より15世紀と考えられる。

土壇1(第7図)

ほぼ正方形を呈する土壇である。肩は垂直に落ちる。土壇内のA～C層は埋土である。長辺1.9m、短辺1.7m、深さ1.0mを測る。土壇内より須恵器、土師器、瓦器などが出土した。土壇の時期は出土遺物より15世紀と考えられる。

土壇2(第4図)

南肩は調査地外にあり、溝1によって北肩を切られている。方形か長方形を呈する土壇と考えられる。1辺2.7m、深さ1.7mを測る。土壇内より土師器杯・皿、黒色土器碗、須恵器杯・鉢・壺、弥生土器甕などが出土した。土壇の時期は出土遺物より9～10世紀と考えられる。

土壇3(第4図)

南肩は井戸5によって切られる。楕円形を呈する土壇である。長径1.1m、短径0.9m、深さ0.3mを測る。土壇内より須恵器、土師器などが出土した。土壇の時期は出土遺物より10～11世紀と考えられる。

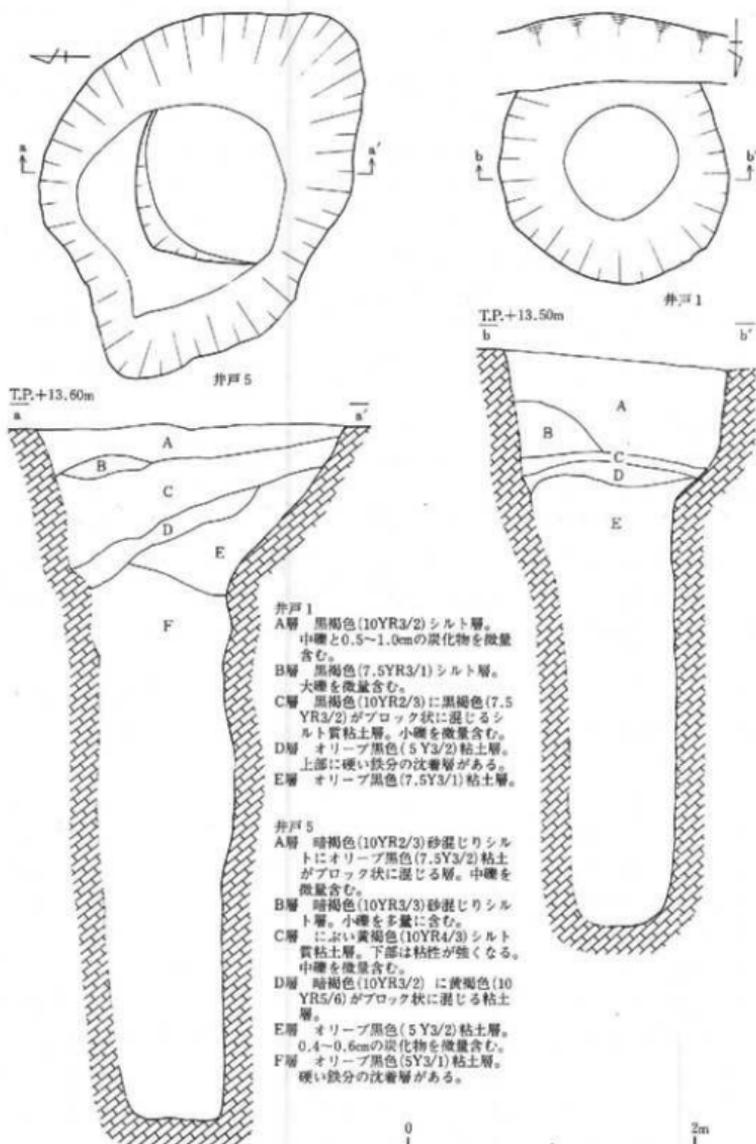
土壇4(第7図)

東肩は調査地外にある。方形か長方形を呈する土壇と考えられる。土壇内のA・B層は埋土であり、C・D層は堆積土である。1辺2.7m、深さ0.9mを測る。土壇内より青磁碗、白磁碗、土師器皿・羽釜、瓦器碗・皿・羽釜、須恵器控鉢、弥生土器などが出土した。土壇の時期は出土遺物より13世紀後半～14世紀初めと考えられる。

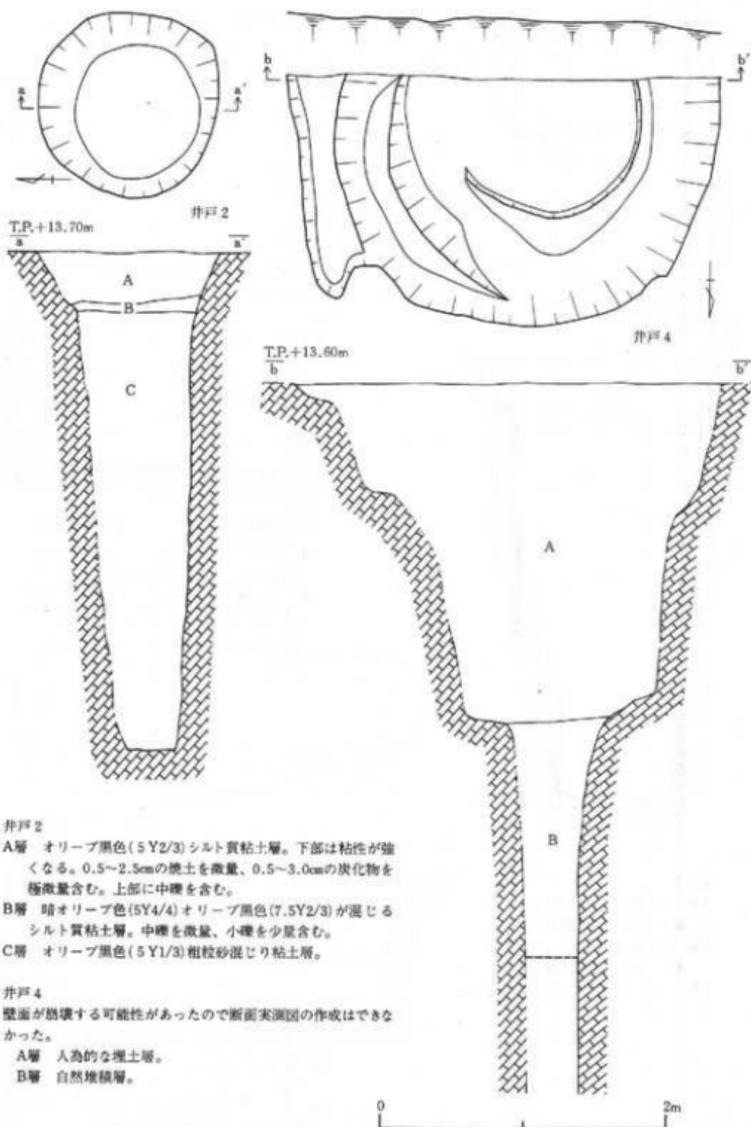
溝1(第4図)

南北方向に伸びる溝であり、断面がU字形を呈する。土壇2を切る。溝内のA・B層は埋土であり、C層は堆積土である。幅1.8～2.8m、深さ1.6mを測る。溝内より土師器羽釜・甕・鋳付鍋・皿・杯・碗、黒色土器碗、須恵器杯・蓋、緑釉碗・皿、瓦器碗・皿、製塩土器、墨書土器、弥生土器壺・甕などが出土した。C層は平安時代の遺物だけであることから溝は9～10世紀に開削され、12世紀に埋ったと考えられる。

溝2(第4図)



第5図 井戸1・5実測図



井戸2

A層 オリーブ黒色(5Y2/3)シルト質粘土層。下部は粘性が強くなる。0.5~2.5cmの焼土を微量、0.5~3.0cmの炭化物を極微量含む。上部に中礫を含む。

B層 暗オリーブ色(5Y4/4)オリーブ黒色(7.5Y2/3)が混じるシルト質粘土層。中礫を微量、小礫を少量含む。

C層 オリーブ黒色(5Y1/3)粗粒砂混じり粘土層。

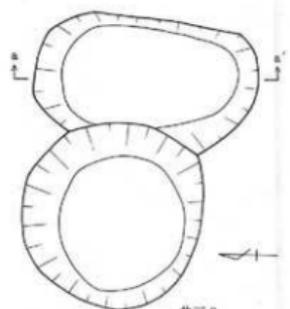
井戸4

壁面が崩壊する可能性があったので断面実測図の作成はできなかった。

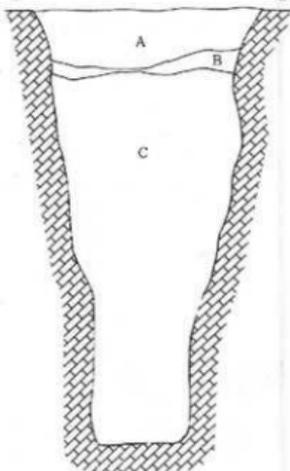
A層 人為的な埋土層。

B層 自然堆積層。

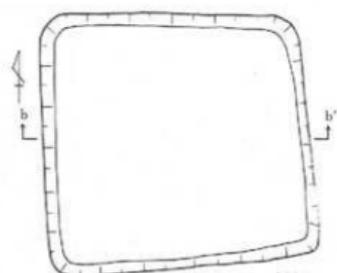
第6図 井戸2・4実測図



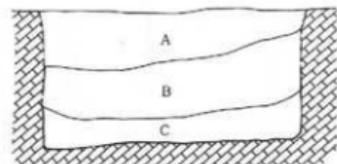
T.P. +13.80m
a a'



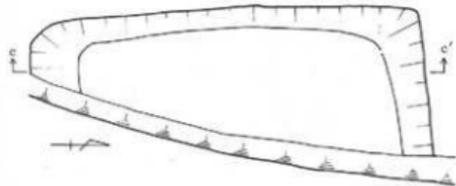
井戸3
A層 黒褐色(10YR3/1)砂混じりシルト層。中〜大礫を微量含む。
B層 黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土層。硬い鉄分の沈着層がある。
C層 オリーブ黒色(5Y2/2)粘土層。



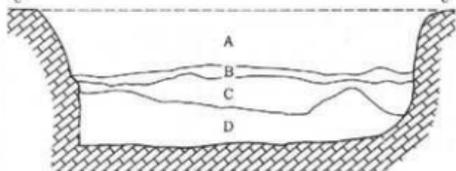
T.P.13.80m
b b'



土壇1
A層 黒褐色(2.5Y3/2)シルト層。中礫を微量、小礫を少量含む。
B層 時オリーブ色(2.5Y3/3)に暗褐色(10YR3/3)がブロック状に混じるシルト質粘土層。中礫との5〜1.0cmの炭化物を微量含む。
C層 細かい黄褐色(10YR4/3)に黒褐色(2.5Y3/2)シルト質粘土がブロック状に混じるシルト質粘土層。中礫を微量、小礫を多量含む。



T.P.13.70m
c c'



土壇4
A層 黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土に暗褐色(10YR3/4)シルトがブロック状に混じる層。中礫を微量、小礫を少量含む。0.5〜1.0cmの炭化物を少量含む。
B層 オリーブ黒色(5Y2/2)粘土層。硬い鉄分の沈着層がある。中礫と植物遺体を微量含む。
C層 オリーブ黒色(10Y3/1)粘土層。中礫と植物遺体を少量含む。
D層 オリーブ黒色(5Y2/2)粘土層。小礫と植物遺体を少量含む。



第7図 井戸3、土壇1・4実測図

南北方向に伸びる溝であり、南側は2段で落ちる。幅0.4~1.5m、深さ0.3mを測る。溝内より黒色土器椀、陶器、土師器皿・壺・甕・羽釜、瓦器皿などが出土した。溝の時期は出土遺物より12~14世紀と考えられる。

溝3(第4図)

南北方向に伸びる溝であり、断面がU字形を呈する。幅0.4~0.7m、深さ0.2mを測る。溝内より、須恵器、土師器、瓦器などが出土した。溝の時期は出土遺物より15世紀と考えられる。

溝4(第4図)

南北方向に伸びる溝であり、調査地北側より始まる。幅0.3~1.3m、深さ0.2mを測る。溝内より、須恵器、土師器、瓦器などが出土した。溝の時期は出土遺物より15世紀と考えられる。

溝5(第4図)

南北方向に伸びる溝であり、調査地南側より始まる。幅0.4m、深さ0.1mを測る。溝内より須恵器、土師器、瓦器などが出土した。溝の時期は出土遺物より12~14世紀と考えられる。

溝6(第4図)

南西から北東方向に伸びる溝である。全長2.7m、幅0.7m、深さ0.2mを測る。溝内より遺物は出土しなかったので詳細な時期は不明である。

ピット(第4図)

円形、楕円形、方形を呈するピット1~161がある。規模等の詳細については表1に記す。ピットの時期は10~15世紀である。

第2遺構面

土壇12、溝3、方形周溝墓2、ピット43を検出した。

土壇5(第8図)

円形を呈する土壇である。溝8を切る。径1.2m、深さ0.4mを測る。土壇内より須恵器、土師器、瓦器、陶器などが出土した。土壇の時期は出土遺物より12~14世紀と考えられる。

土壇6(第4図)

楕円形を呈する土壇である。西肩が調査地外にある。長径1.1m以上、短径0.9m、深さ0.2mを測る。土壇内より土師器が出土した。土壇の時期は出土遺物より12~14世紀と考えられる。

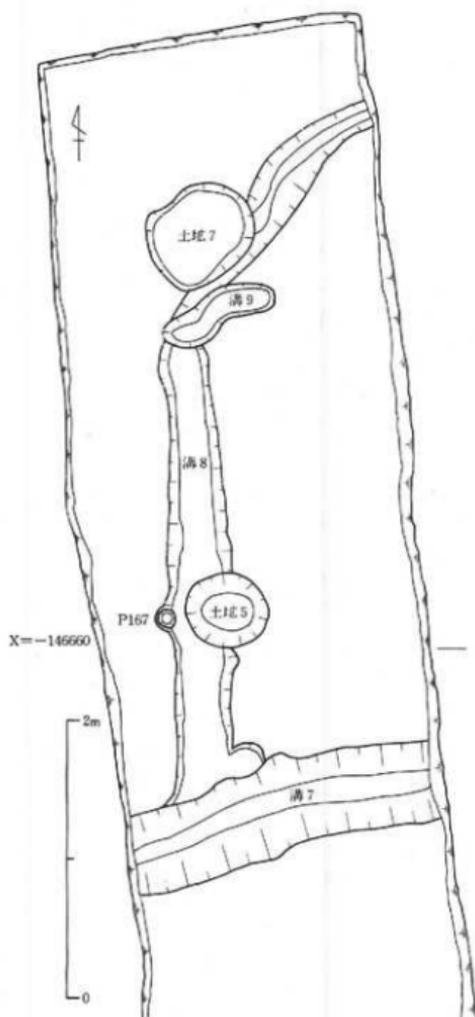
土壇7(第8図)

やや不整形を呈する土壇である。溝8を切る。長径1.6m、短径1.3m、深さ0.1mを測る。土壇内より須恵器、土師器、瓦器などが出土した。土壇の時期は出土遺物より12~14世紀と考えられる。

土壇8(第4図)

東肩が調査地外にあり、形状は不明の土壇である。径1.6m、深さ0.1mを測る。土壇内より弥生土器が出土した。土壇の時期は出土遺物より弥生時代中期と考えられる。

土壇9(第4図)



第8図 1号方形周溝墓実測図

mを測る。土坑内より須恵器杯が出土した。土坑の時期は出土遺物より6世紀初頭と考えられる。

土坑15(第4図)

楕円形を呈する土坑と考えられる。西厨が調査地外にある。長径1.3m以上、短径1.0m、深さ0.3mを測る。土坑内より土師器が出土した。土坑の時期は出土遺物より5世紀後半～6世紀前半と考えられる。

土坑10(第4図)

楕円形を呈する土坑である。長径1.0m、短径0.5m、深さ0.1mを測る。土坑内より遺物は出土しなかったので詳細な時期は不明である。

土坑11(第4図)

南厨が調査地外にあるので形状は不明である。井戸4に切られる。土坑内より須恵器、土師器などが出土した。土坑の時期は出土遺物より5世紀後半～6世紀前半と考えられる。

土坑12(第4図)

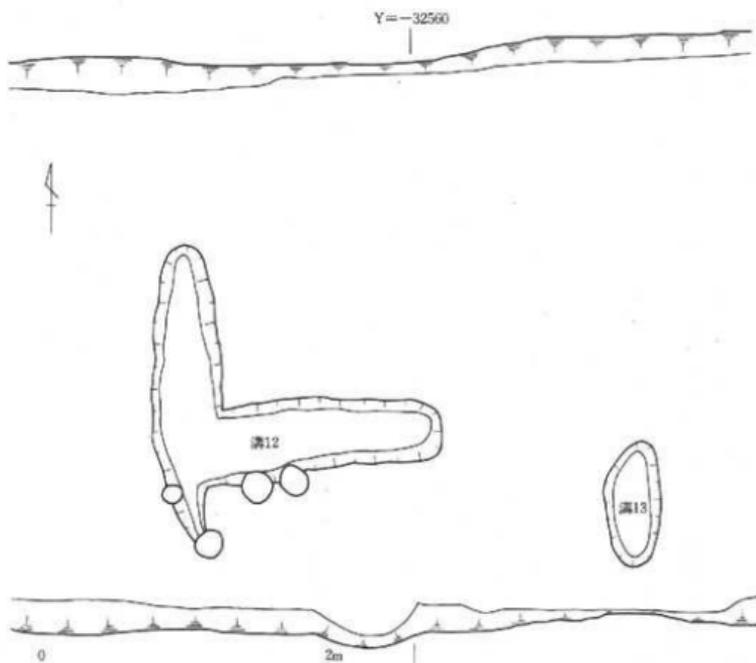
楕円形を呈する土坑である。長径0.9m、短径0.3m、深さ0.2mを測る。土坑内より須恵器、土師器などが出土した。土坑の時期は出土遺物より5世紀後半～6世紀前半と考えられる。

土坑13(第4図)

不整形を呈する土坑である。井戸5に切られる。長辺1.0m、短辺0.7m、深さ0.1mを測る。土坑内より遺物が出土しなかったため詳細な時期は不明である。

土坑14(第4図)

北厨が調査地外にあり、形状は不明の土坑である。長径6.6m以上、深さ0.1



第9図 2号方形周溝墓実測図

隅丸長方形を呈する土坑である。長辺2.0m、短辺1.5m、深さ0.1mを測る。土坑内より弥生土器が出土した。土坑の時期は弥生時代中期と考えられる。

土坑16(第4図)

楕円形を呈する土坑である。長径1.1m、短径0.5m、深さ0.1mを測る。土坑内より遺物が出土しなかったので詳細な時期は不明である。

溝9(第8図)

東西方向に伸びる溝である。溝8を切る。全長1.7m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。溝内より遺物が出土しなかったので詳細な時期は不明である。

溝10(第4図)

東西方向に伸びる溝であり、やや不整形を呈する。幅1.1~3.3m、深さ0.1mを測る。溝内より須恵器蓋、土師器高杯・壺・甕・把手付鍋・甌、製塩土器、弥生土器鉢などが出土した。溝の時期は出土遺物より5世紀後半と考えられる。

溝11(第4図)

南北方向に伸びる溝である。溝10に切られる。幅0.4m、深さ0.1mを測る。溝内より遺物が出土しなかったので詳細な時期は不明である。

第1表 ビット計測表

番号	形態	径・一辺	深さ	備考	出土遺物
No. 1	方形	長22 短20	30		土師器、瓦器
2	円形	径22	21		
3	円形	径28	19		土師器、瓦器
4	円形	径32	17	5と切り合う	
5	円形	径29	16	4と切り合う	土師器
6	円形	径26	46	7と切り合う	土師器
7	楕円形	長36 短30	47	6と切り合う	土師器、瓦器
8	円形	径32	26		弥生土器
9	円形	径35	9		土師器、瓦器
10	円形	径20	14		
11	楕円形	長50 短44	46		瓦器、土師器
12	楕円形	長43 短37	12		
13	楕円形	長48 短40	16		土師器
14	不整形	長42 短17	20	15と切り合う	
15	円形	径21	12	14と切り合う	須恵器、土師器、瓦器
16	円形	径22	25		
17	円形	径27	19		須恵器、土師器、瓦器
18	円形	径22	11		土師器
19	円形	径50	18		土師器
20	円形	径23	18	21と切り合う	⑤須恵器、土師器、瓦器
21	不整形	長42 短30	8	20と切り合う	
22	不整形	長53 短40	20	104と切り合う	土師器、瓦器、製塩土器(奈)
23	円形	径26	27		
24	楕円形	長53 短37	10		土師器
25	円形	径33	12	108と切り合う	土師器
26	円形	径25	8		
27	円形	径20	5		
28	円形	径30	30		⑥土師器、瓦器、陶器
29	円形	径26	8		土師器
30	円形	径28	7	攪乱によって半分が消失	土師器
31	円形	径27	17	*	④土師器、瓦器
32	円形	径14	9		
33	円形	径31	10		瓦
34	楕円形	長37 短28	14		
35	方形	長54 短25	21		⑨土師器、瓦器、白磁
36	円形	径28	26		土師器、瓦器
37	円形	径43	13		土師器、瓦器
38	円形	径40	20	溝1境没後に掘削	土師器、瓦器、黒色土器
39	楕円形	長38 短30	38	*	須恵器、土師器、瓦器、黒色土器、製塩土器(奈)、粘土塊
40	楕円形	長30 短20	15	*	土師器、瓦器
41	円形	径32	35	*	須恵器、土師器、瓦器
42	楕円形	長24 短16	15	*	須恵器、土師器
43	円形	径38	20	*	③須恵器、土師器
44	円形	径40	25	*	須恵器、土師器、瓦器、黒色土器、製塩土器(奈)
45	円形	径34	28		⑤須恵器、土師器、瓦器
46	楕円形	長28 短24	30		土師器、瓦器、弥生土器
47	楕円形	長34 短30	25	48と切り合う	土師器、瓦器、弥生土器
48	楕円形	長35 短26	26	47と切り合う	弥生土器
49	円形	径24	23		土師器、機土塊
50	円形	径30	32		須恵器、土師器、黒色土器
51	円形	径39	25		
52	円形	径31	28		土師器、瓦器

第1表 つづき

番号	形態	径・一辺	高さ	備 考	出 土 遺 物
No. 53	楕円形	長44 短38	24	溝2を切る	⑩須恵器、土師器、瓦器、製塩土器(奈)、粘土塊
54	楕円形	長28 短24	29		土師器、瓦器、弥生土器
55	円形	径25	32		土師器
56	円形	径30	41		土師器、瓦器
57	円形	径28	37		⑫土師器、瓦器、弥生土器
58	円形	径45	25		土師器、瓦器、弥生土器
59	円形	径45	33	溝4埋没後に掘削	須恵器、土師器
60	楕円形	長48 短44	22		土師器、瓦器
61	楕円形	長48 短41	30		須恵器、土師器
62	円形	径17	18		
63	楕円形	長44 短38	36		土師器、黒色土器
64	円形	径43	28		土師器
65	円形	径33	24	66・67と切り合う	⑬土師器、瓦器、焼土塊
66	円形	径30	31	65と切り合う	土師器、焼土塊
67	円形	径50	27	*	土師器
68	円形	径38	18		土師器、瓦器
69	円形	径29	19	70と切り合う	土師器
70	楕円形	長63 短40	21	69と切り合う	須恵器、土師器、粘土塊
71	楕円形	長45 短41	36		土師器、瓦器
72	円形	径31	21		須恵器、土師器、粘土塊
73	楕円形	長35 短30	18		土師器
74	円形	径25	17		須恵器、土師器
75	楕円形	長50 短45	28		土師器
76	円形	径28	28	130と切り合う	
77	楕円形	長38 短32	14		
78	不整形	長50 短33	34	133と切り合う	
79	円形	径23	29		土師器
80	楕円形	長46 短42	35		須恵器、土師器
81	不整形	長35 短18	22		土師器、製塩土器(古)
82	円形	径33	22		土師器、製塩土器(古)
83	円形	径30	23		
84	円形	径34	33		
85	円形	径39	33		土師器
86	円形	径35	27		
87	円形	径29	35	溝5を切る	土師器
88	円形	径20	16		土師器、製塩土器(古)
89	不整形	長50 短30	23		土師器
90	楕円形	長47 短38	27		須恵器、土師器、瓦器、製塩土器
91	楕円形	長54 短45	36	92・146と切り合う	⑭須恵器、土師器、瓦器、黒色土器
92	楕円形	長50 短38	26	91と切り合う	⑮土師器、瓦器
93	円形	径25	37		土師器、弥生土器
94	円形	径28	17		土師器、瓦器、製塩土器(奈)
95	楕円形	長38 短27	14		土師器、製塩土器(古)
96	円形	径24	25		弥生土器
97	円形	径26	28		須恵器、土師器、瓦器、陶器、弥生土器
98	楕円形	長36 短31	10		
99	円形	径25	9	100と切り合う	土師器
100	円形	径22	4	99と切り合う	
101	円形	径11	8		
102	円形	径26	14		
103	円形	径22	17		
104	楕円形	長24 短17	10	22と切り合う	

第1表 つづき

番号	形態	径・一辺	深さ	備考	出土遺物
No. 105	楕円形	長20 短17	17		
106	楕円形	長20 短16	10		
107	円形	径30	12	擾乱によって半分が消失	土師器
108	楕円形	長33 短24	11	25と切り合う	
109	円形	径24	23		土師器、製塩土器
110	円形	径26	30	溝1に切られる	土師器、瓦器
111	楕円形	長50 短41	30	土域2と切り合う	土師器、瓦器
112	円形	径30	6		土師器、瓦器、黒色土器
113	楕円形	長21 短19	13		土師器
114	円形	径29	24	溝1埋没後に掘削	土師器
115	円形	径31	24		
116	楕円形	長37 短32	17	溝2と切り合う	須恵器、土師器
117	円形	径20	13		
118	楕円形	長38 短30	28		土師器、瓦器、黒色土器
119	円形	径20	21		
120	円形	径31	27		土師器
121	円形	径26	40		
122	不整形	長51 短22	15		土師器、焼土塊
123	楕円形	長35 短25	15	124と切り合う	土師器
124	円形	径33	18	123と切り合う	
125	円形	径20	16		
126	円形	径35	35	溝6埋没後に掘削	
127	不整形	長29 短24	16		須恵器、土師器、焼土塊
128	円形	径24	30	152と切り合う	土師器
129	円形	径29	24		
130	円形	径43	32	76と切り合う	土師器、焼土塊
131	楕円形	長44 短33	29		土師器、焼土塊
132	楕円形	長50 短43	42		土師器、焼土塊
133	円形	径33	39	78と切り合う	土師器
134	円形	径17	15	溝4埋没後に掘削	
135	楕円形	長70 短56	28		須恵器、土師器、製塩土器(奈)
136	円形	径25	31		
137	円形	径26	20		
138	楕円形	長37 短30	23	139と切り合う	
139	円形	径27	20	138と切り合う	
140	楕円形	長38 短32	33		土師器
141	円形	径35	24		土師器
142	不整形	長55 短50	38		須恵器、土師器、製塩土器(古)
143	楕円形	長53 短41	51		④須恵器、土師器、瓦器
144	楕円形	長66 短32	26	井戸4と切り合う	④土師器、弥生土器
145	円形	径23	31		弥生土器
146	円形	径24	10	91・土域4と切り合う	土師器、瓦器
147	円形	径26	8		
148	楕円形	長67 短39	20	149と切り合う	
149	楕円形	長53 短27	21	148と切り合う	土師器
150	楕円形	長50 短24	17		
151	円形	径20	22		土師器
152	円形	径24	21	138と切り合う	土師器、瓦器
153	円形	径37	20	溝2に切られる	土師器
154	円形	径32	15	*	土師器、瓦器
155	円形	径36	30		
156	円形	径20	21	157・158と切り合う	

第1表 つづき

番号	形態	径・一辺	深さ	備 考	出 土 遺 物
No. 157	円 形	径23	20	156・158と切り合う	
158	円 形	径20	18	156・157と切り合う	
159	円 形	径25	23		
160	円 形	径20	35	溝2に切られる	土師器、弥生土器
161	円 形	径14	7		
162	楕円形	長30 短24	25		
163	楕円形	長36 短24	12		
164	楕円形	長62 短50	16		⑧須恵器
165	円 形	径24	24		
166	円 形	径32	16		
167	円 形	径26	23	溝7と切り合う	
168	楕円形	長50 短40	27		土師器
169	楕円形	長28 短22	17		土師器
170	楕円形	長40 短26	17		土師器
171	円 形	径32	15		
172	円 形	径40	9	溝1に切られる	
173	円 形	径30	12	172と切り合う	土師器
174	円 形	径28	12		
175	円 形	径38	23	177と切り合う	弥生土器
176	楕円形	長32 短27	21		土師器
177	楕円形	長36 短27	19	175と切り合う	
178	楕円形	長40 短32	15		
179	円 形	径24	20		
180	円 形	径24	14	181と切り合う	
181	楕円形	長32 短24	10	180と切り合う	
182	楕円形	長30 短24	10		
183	楕円形	長34 短26	25		焼土塊
184	円 形	径24	13	185と切り合う	
185	円 形	径28	20	184と切り合う	
186	円 形	径50	12		
187	円 形	径66	21		
188	円 形	径48	8		
189	円 形	径30	7		
190	円 形	径48	4		
191	楕円形	長66 短56	18	土球11に切られる	
192	円 形	径36	8		
193	円 形	径20	18		
194	円 形	径42	27		
195	円 形	径26	15		
196	円 形	径36	14		
197	不整形	長36 短30	29	溝10と切り合う	
198	円 形	径26	29	溝10に切られる	
199	円 形	径42	36	*	
200	楕円形	長34 短28	26		
201	円 形	径30	21	東西の半分を溝1に削られる	
202	円 形	径26	21		
203	不整形	径26	13	溝10に切られる	
204	円 形	径30	20	溝10と切り合う	
205	円 形	径28	16		
206	円 形	径22	27		

1号方形周溝墓(第8図)

溝7、8によって区画された方形周溝墓である。溝8の隅はやや丸く出る。また、溝7は第29次調査地へ伸びる。溝7は幅1.2m、深さ0.6m、溝8は幅0.4~0.9m、深さ0.2mを測る。墳丘は8.5m以上である。主体部は検出できなかった。周溝内より弥生土器壺・甕・鉢・高杯・壺蓋・甕蓋などが出土した。土器は溝7の上、中層に多く含まれていた。方形周溝墓の時期は出土遺物より弥生時代中期と考えられる。

2号方形周溝墓(第9図)

溝12、13によって区画された方形周溝墓である。溝12はL字形、溝13は楕円形を呈する。上部は削平を受けている。溝12、13の隅は陸橋と考えられる。溝12は幅1.0m、深さ0.2m、溝13は全長1.8m、幅0.8m、深さ0.2mを測る。墳丘は5.6mである。主体部は検出できなかった。周溝内より弥生土器壺・甕・鉢・高杯・水差形土器などが出土した。溝12の上層に多く含まれていた。方形周溝墓の時期は弥生時代中期と考えられる。

ピット(第4図)

円形、楕円形を呈するピット162~206がある。規模等の詳細については表1に記す。ピットの時期は弥生~古墳時代である。

3. 出土遺物

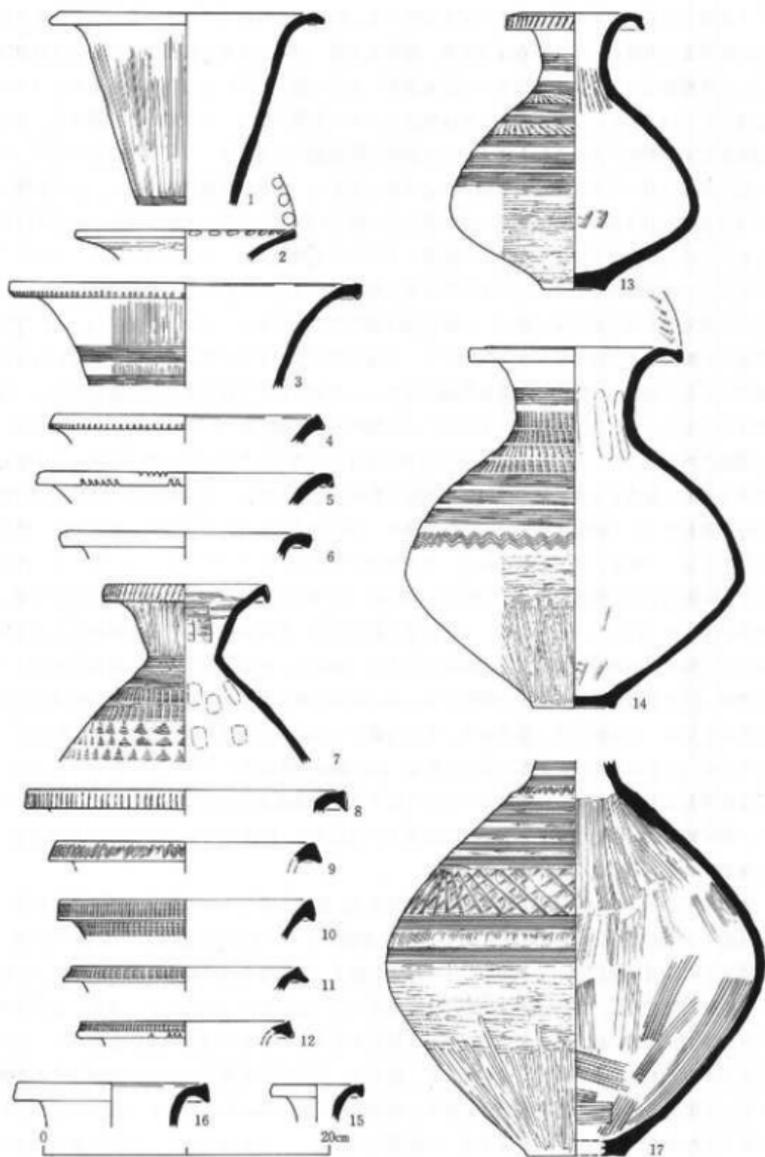
今回の調査で出土した遺物は弥生時代~中世に至る時期のものがある。遺物は方形周溝墓、溝、井戸、土坑などの遺構と遺物包含層より出土した。遺物は土器、埴輪、木製品、石製品、金属製品、土製品、瓦、動物遺体がある。土器は各遺構と遺物包含層に分けて説明を記す。他の遺物は各製品ごとにまとめて説明を記す。

土器

1号方形周溝墓(第10~14図)

弥生時代中期の土器が出土した。壺、鉢、高杯、壺蓋、甕蓋、甕の器種がある。

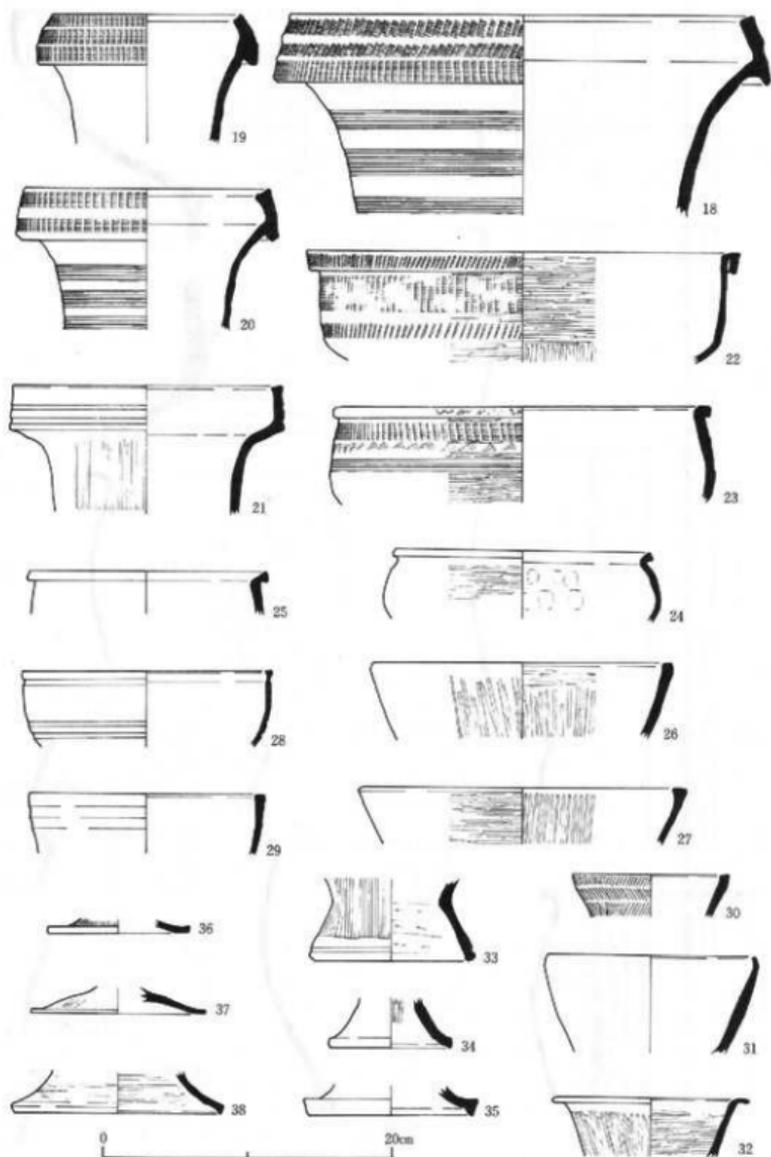
壺 1~21は壺である。1は漏斗状を呈する頸部より口縁部が下方へ折れ曲る。口縁端部は丸く終る。頸部外面は縦方向のハケメ調整する。内面は風化が著しく調整法は不明。口縁部はヨコナデ調整する。頸部外面に楕描直線文を施す。非河内産。2は口頸部が大きく外上方へ伸び、口縁端部が丸く面をもつ。口頸部外面はハケメの後ヨコナデ調整、内面はヨコナデ調整する。口縁部内面に円形浮文を貼り付ける。胎土中に石英、長石、角閃石、雲母、クサリ礫(以下、生駒西麓産)を含む。3~6は大きく外上方へ伸びる口頸部より口縁端部を下方へやや拡張する。3は頸部外面を縦方向のハケメ調整する。内面は風化が著しく調整法は不明。口縁部内外面はヨコナデ調整する。頸部外面に楕描直線文、口縁端部下端にキザミ目を施す。非河内産。4~6は口縁部内外面をヨコナデ調整する。4は口縁端部下端、5は口縁端部両端にキザミ目を施す。4~6は非河内産である。7~12は大きく外上方へ伸びる口頸部より口縁端部を下方へ拡張する。口縁部断面が三角形を呈する。7は体部内外面をナデ調整、頸部外面を縦方向のハ



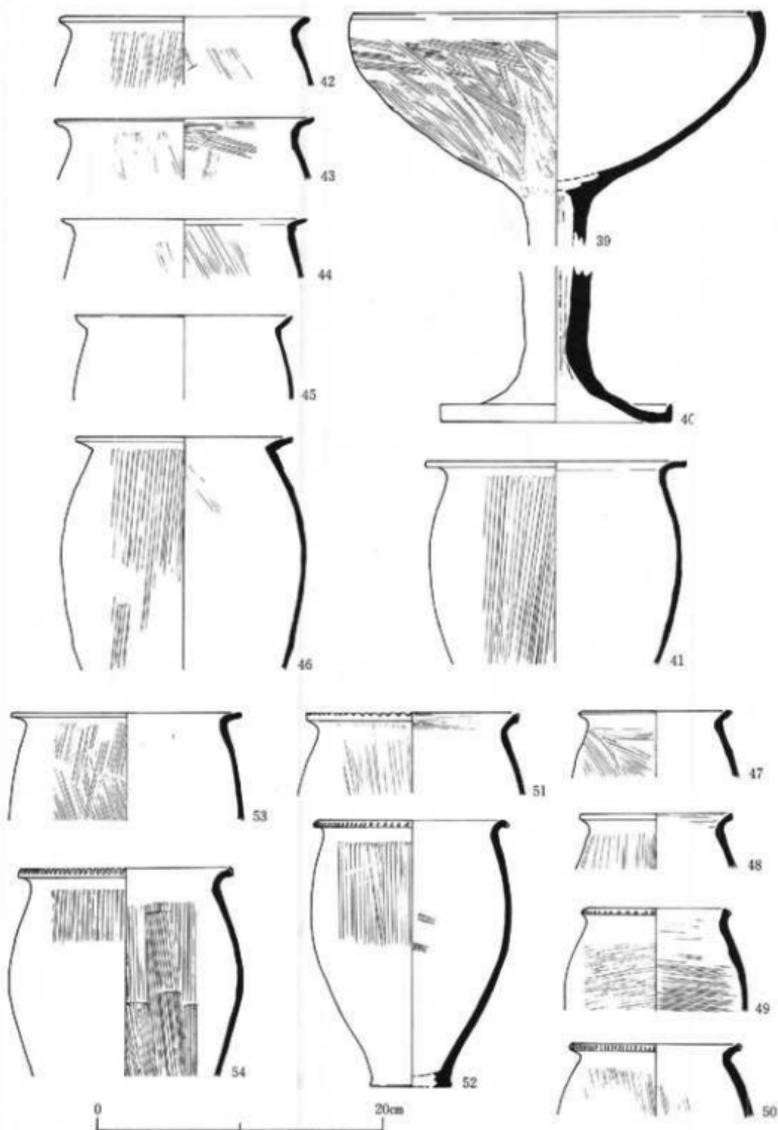
第10图 1号方形周溝墓出土土器实测图

ケメ調整、内面をハケメの後ヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。体部外面に櫛描文様を施し、上より直線文2帯、簾状文2帯、扇形文3帯を描く。文様帯間は研磨する。口縁端部は列点文、下端はキザミ目を施す。非河内産。8~12は口縁部内外面をヨコナデ調整する。口縁端部に文様を施す。8は列点文、9は櫛描波状文、10・11は櫛描簾状文、12は櫛描簾状文と下端にキザミ目を施す。10は頸部に櫛描簾状文を施す。8・9は生駒西麓産。10~12は非河内産である。13は底部がやや上げ底を呈する。体部は算盤珠形を呈し、最大腹径が口縁部より $\frac{2}{3}$ の位置にある。頸部は細く外上方へ伸び口縁部を下方へ拡張する。口縁端部は面をもつ。体部外面は下半をヘラミガキ調整、上半をナデ調整する。体部内面はハケメの後ナデ調整する。口頭部内外面はヨコナデ調整する。頸部から体部上半の外面に櫛描文様を施し、7帯の直線文と2者の扇形文を描く。口縁端部は櫛描列点文を施す。生駒西麓産。14~16は筒状を呈する頸部より口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや上下に肥厚し、面をもつ。14は底部がやや上げ底を呈する。体部は算盤珠形を呈し、最大腹径が口縁部より $\frac{2}{3}$ の位置にある。体部外面の下半はヘラミガキ調整、上半はナデ調整する。体部内面はハケメの後ナデ調整する。口頭部内外面はヨコナデ調整する。頸部から体部上半の外面には櫛描文様を施す。直線文4帯、簾状文4帯、波状文1帯を描く。口縁部内面に櫛描列点文を描く。生駒西麓産。15・16は口頭部内外面をヨコナデ調整する。15は生駒西麓産。16は非河内産。17は口頭部を欠損する。体部は卵形を呈し、中位に最大腹径がある。体部外面の下半はヘラミガキ調整、上半はハケメ調整する。体部内面は縦方向のハケメ調整する。体部上半の外面には櫛描文様を施す。直線文9帯、斜格子文1帯、波状文1帯を描く。文様帯間は研磨する。非河内産。18~20は筒状を呈する頸部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は上下へ拡張し、幅広の面をもつ。頸部内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。18は頸部外面に3帯の櫛描直線文、口縁端部に櫛描列点文2帯、櫛描簾状文1帯を施す。生駒西麓産。19は口縁端部に櫛描簾状文を3帯施す。非河内産。20は頸部外面に3帯の櫛描直線文、口縁端部に櫛描簾状文を2帯施す。生駒西麓産。21は筒状を呈する頸部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は上方へ拡張し、幅広の面をもつ。頸部外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。口縁端部に2条の凹線文を施す。非河内産。

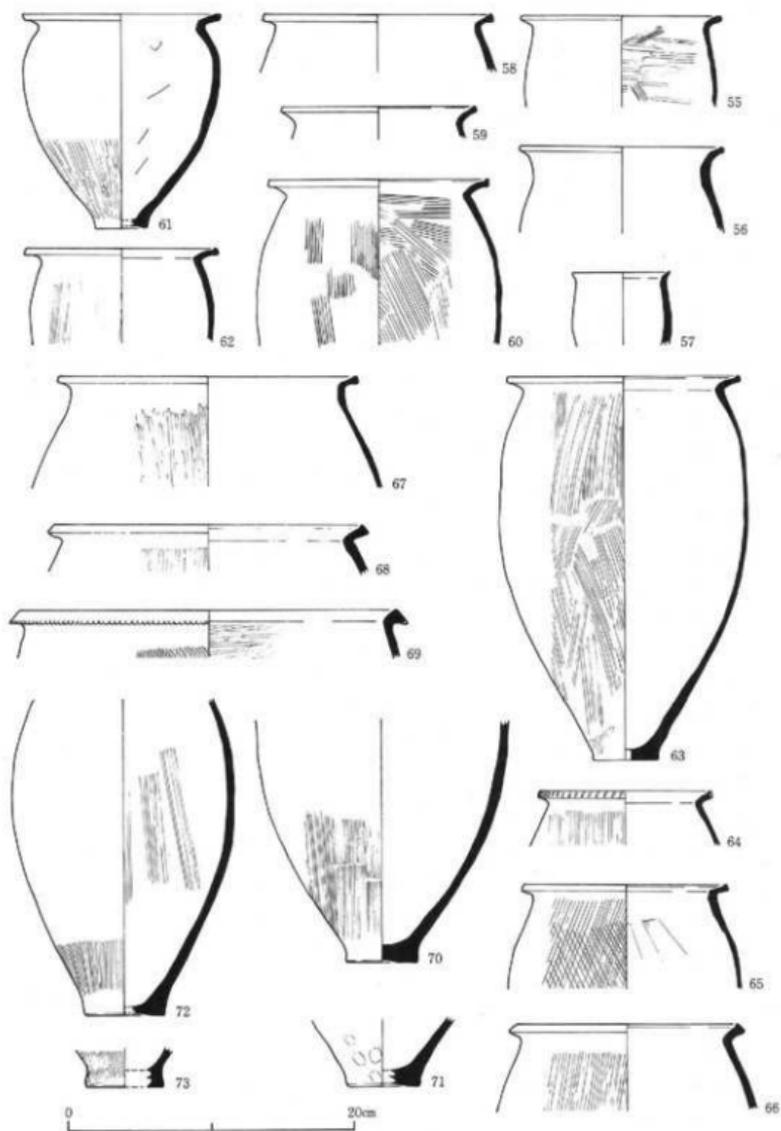
鉢 22~32は鉢である。22は器高の低い鉢である。体部上半が上方へ伸び、口縁部が下方へ折れ曲り、段を呈する。体部内外面はヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。体部上半の外面に櫛描簾状文と列点文を1帯ずつ施す。文様帯間は研磨する。口縁端部に1帯の櫛描列点文を施す。生駒西麓産。23~25は器高の低い鉢である。体部上半が内傾し、口縁部が短く外反する。口縁端部は面をもつ。23は体部下半をヘラミガキ調整、他は風化が著しく調整法は不明。体部上半の外面に櫛描簾状文、扇形文、直線文を1帯ずつ施す。文様帯間は研磨する。口縁端部に1帯の櫛描波状文を施す。非河内産。24・25は無文である。24は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。25は体部内外面をナデ調整、口縁部内外面をヨコナデ調整する。非河内産。26~30は深い碗状を呈



第11图 1号方形周冢出土土器实测图



第12图 1号方形周溝墓出土土器实测图



第13图 1号方形周溝墓出土土器实测图

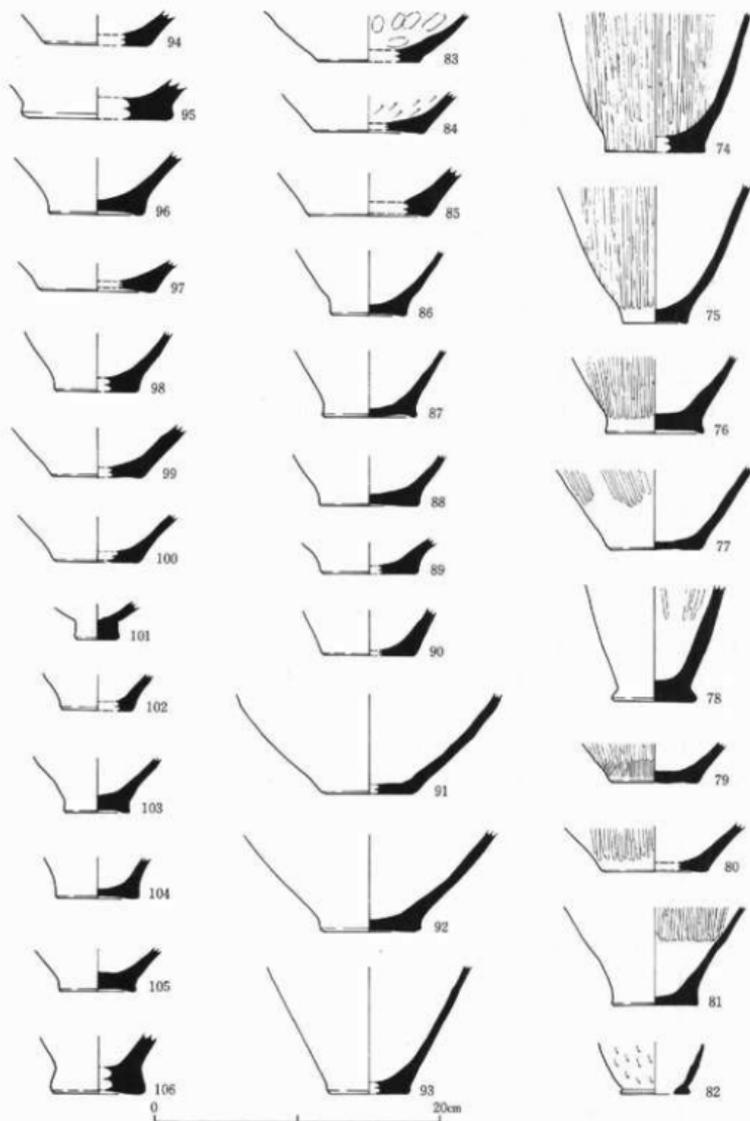
する鉢である。体部が外上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部は面をもつ。26・27は体部内外面をヘラミガキ調整する。生駒西麓産。28・29は風化が著しく調整法は不明。体部外面は3条の凹線文を施す。非河内産。30は体部内外面をナデ調整、口縁部内外面をヨコナデ調整する。体部外面に櫛描列点文を施し、羽状文を描く。生駒西麓産。31は体部が外上方へ伸び、口縁端部が内弯する。口縁端部は丸く終る。体部内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。32は体部が外上方へ伸び、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終る。体部内外面はヘラミガキ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。

高杯 33～35・39・40は高杯である。39は浅い椀状を呈する高杯であり、口縁部が内弯する。口縁端部は面をもつ。体部外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。非河内産。33～35・40は脚部である。33・34は台付鉢などの可能性がある。裾部の立ち上がり強い。33は裾部外面を縦方向のハケメ調整、内面をヘラケズリ調整する。裾部内外面はヨコナデ調整する。裾部外面に1条の凹線文を施す。生駒西麓産。34は風化が著しく調整法は不明。非河内産。35・40は高杯の脚部である。35は裾端部が内側へ肥厚する。風化が著しく調整法は不明。非河内産。40は柱状部が中空であり、裾部がゆるく広がる。裾端部は上方へ拡張する。風化が著しく調整法は不明。裾部内面に煤が輪状に付着しており、燻蓋として転用したと考えられる。非河内産。

燻蓋 36・37は燻蓋である。体部はゆるやかに立ち上がる。口縁端部は面をもつ。36は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。口縁部内外面をヨコナデ調整する。生駒西麓産。37は体部外面をハケメの後ナデ調整、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。

燻蓋 38は燻蓋である。体部の立ち上がり強い。口縁端部は面をもつ。体部内外面は横方向のハケメ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。

甕 41～69は甕である。41～57は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る41～43・53・55～57、尖り気味に終る44・45、面をもつ47～50・54、下方へ肥厚する52がある。41・43・46・50・52・53は体部外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整かハケメの後ナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。50・52は口縁端部にキザミ目を施す。41・46・47は生駒西麓産。他は非河内産。42・44・54は体部内外面を縦方向のハケメ調整、口縁部内外面をヨコナデ調整する。54は口縁端部にキザミ目を施す。生駒西麓産。48・51は体部外面を縦方向のハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。51は口縁端部にキザミ目を施す。生駒西麓産。49は体部外面をヘラミガキ調整、内面を横方向のハケメ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。口縁端部にキザミ目を施す。生駒西麓産。55は体部外面をナデ調整、内面をハケメの後ヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。非河内産。56・57は体部内外面をナデ調整、口縁部内外面をヨコナデ調整する。生駒西麓産。45は風化が著しく調整法は不明。生駒西麓産。58～62は体部の張りが強く、口縁部がく字形に外反する。口縁端部は面をもつ58～61、上方へ



第14图 1号方形周溝墓出土土器実測図

やや拡張する62～66がある。60・65は体部内外面を縦方向のハケメ調整、口縁部内外面をヨコナデ調整する。非河内産。61は体部外面をヘラミガキ調整、内面をハケメの後ヨコナデ調整する。生駒西麓産。62～64・66は体部外面を縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部をヨコナデ調整する。64は口縁端部にキザミ目を施す。65は非河内産。他は生駒西麓産。67～69は大形の甕である。体部の張りは大きく、口縁部がく字形に外反する。67は口縁端部がやや面をもつ。体部外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。68は口縁端部を上方へやや拡張する。体部外面は縦方向のハケメ調整、内面は風化が著しく調整法は不明。口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。69は口縁端部を下方へ拡張する。断面形が三角形を呈する。体部外面は縦方向のハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。口縁端部にキザミ目を施す。生駒西麓産。

底部 70～105は壺、甕などの底部である。平底を呈するものとやや上げ底を呈するものがある。体部内外面はナデ調整、ハケメ調整、ヘラミガキ調整、ヘラケズリ調整する。74は内面に赤色塗料が残る。72・77・84・85・90～92・97・100・104・105は非河内産。他は生駒西麓産。

2号方形周溝墓(第20図)

弥生中期の土器が出土した。壺、甕、鉢、高杯、水差形土器の器種がある。

壺 212は壺である。漏斗状を呈する頸部より口縁部が下方へ拡張する。口縁部断面が三角形を呈する。風化が著しく調整法は不明。口縁端部に稀描列点文を施す。生駒西麓産。

甕 213は甕である。体部の張りは少なく、口縁部はゆるく外反する。口縁端部は面をもつ。体部外面は縦方向のハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。生駒西麓産。

鉢 214は鉢である。体部は深い碗状を呈し、口縁部がやや内湾する。口縁端部に面をもつ。体部外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。

高杯 215は高杯である。杯部は浅い碗状を呈し、口縁部がやや内湾する。口縁端部は面をもつ。柱状部は中実である。裾部はゆるやかに広がり、裾端部を上方へ拡張する。杯部内外面はヘラミガキ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。脚部外面はヘラミガキ調整、内面は横方向のハケメ調整する。裾端部外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。

水差形土器 216は水差形土器である。底部は平底であり、体部が算盤珠形を呈する。最大腹径が口縁部より殆ど位置にある。口頸部は外上方へ伸び、口縁端部は面をもつ。口縁端部は浅いU字形に切り取る。頸部と体部の境に把手がつく。体部外面は上半をナデ調整、下半をヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。口頸部より体部上半の外面に稀描文様を施す。上部に2帯の列点文、下部に6帯の麗状文を描く。生駒西麓産。

溝10(第15・16図)

古墳時代の須恵器、土師器、製塩土器と弥生土器が出土した。

須恵器 須恵器は蓋の器種がある。107～109は蓋である。天井部はやや丸く、口縁部が八字形に伸びる。口縁部と天井部の境に明瞭な稜がつく。口縁端部は面をもつ107・108と丸く終る109がある。天井部外面の約分は回転ヘラケズリ調整する。天井部内面はナデ調整する。他は回転ナデ調整する。

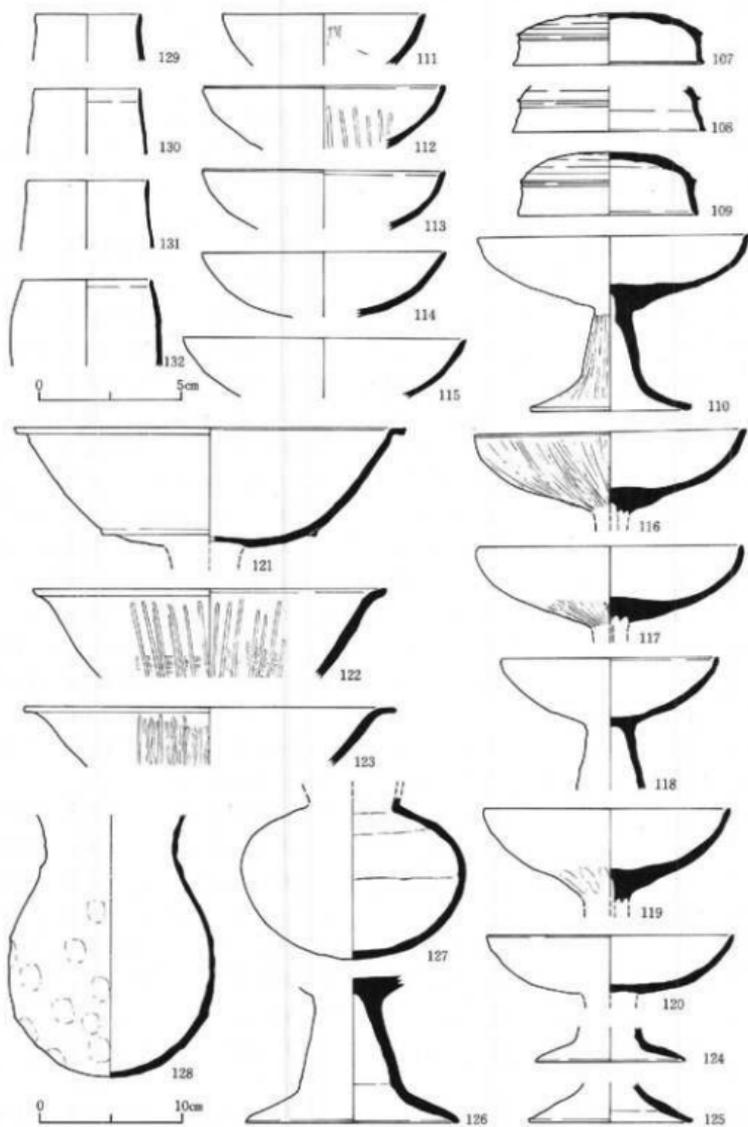
土師器 土師器は高杯、壺、甕、把手付鍋、甗、鉢の器種がある。

高杯 110～126は高杯である。110～120は杯部が浅い椀状を呈する。口縁部が外上方へ伸びるものとやや内弯するものがある。口縁端部は丸く終る。脚部は柱状部が八字形に伸び、裾部がゆるく広がる。裾端部は面をもつ。110は杯部内外面をナデ調整、口縁部内外面をヨコナデ調整する。脚部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。裾端部内外面はヨコナデ調整する。116・117は杯部外面を縦方向のハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。112は杯部外面をナデ調整、内面を放射状のヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。他は杯部内外面をナデ調整、口縁部内外面をヨコナデ調整する。生駒西麓産。121～123は杯部が大きく外上方へ伸び、口縁部が外反する。口縁端部は面をもつ121と丸く終る122・123がある。121は杯部下半に断面形が三角形を呈する凸帯を貼り付ける。杯部内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。122は杯部内外面をハケメの後、放射状のヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。123は杯部外面をハケメの後、放射状のヘラミガキ調整する。内面は風化が著しく調整法は不明。口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。124～126は高杯の脚部である。柱状部が八字形に伸び、裾部がゆるく広がる。裾端部は丸く終る124・126とやや面をもつ125がある。脚部内外面はナデ調整、裾端部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。

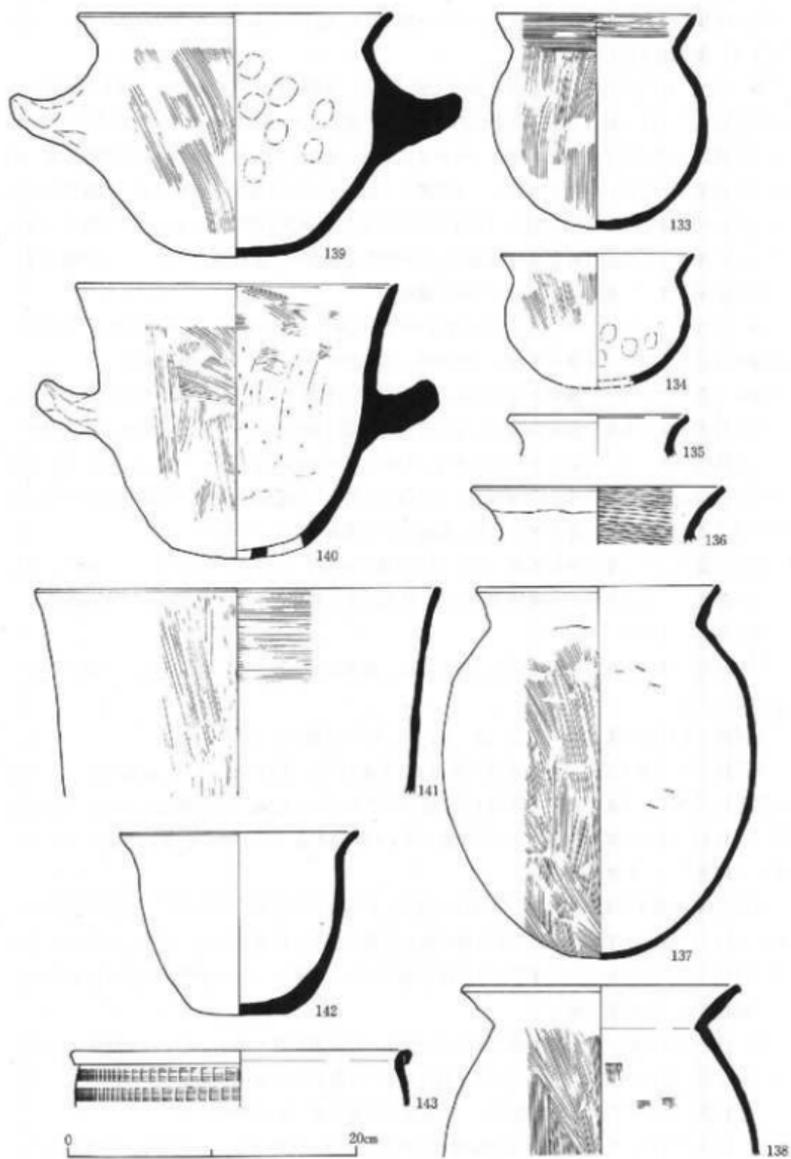
壺 127は口縁部を欠損するが壺である。底部は丸底であり、体部がやや扁球形を呈する。体部外面は風化が著しく調整法は不明。内面はナデ調整する。接合痕が残る。

甕 133～138は甕である。133～135は小形の甕である。底部は丸底であり、体部が球形を呈する。口縁部はゆるく外反し、口縁端部が丸く終る133・134と上方へ肥厚する135がある。133は体部外面を縦方向のハケメ調整する。内面は風化が著しく調整法は不明。口縁部内外面は横方向のハケメ調整する。134は体部外面を縦方向のハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。135は口縁部内外面をヨコナデ調整する。133・134は生駒西麓産。136～138は大形の甕である。底部は丸底であり、体部が長胴の球形を呈する。口縁部は大きく外反し、口縁端部が面をもつ。136は口縁部外面をヨコナデ調整、内面を横方向のハケメ調整する。137・138は体部外面を縦方向のハケメ調整、内面をハケメの後ナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。136は生駒西麓産。

把手付鍋 139は把手付鍋である。底部は平底に近い丸底であり、体部が球形を呈する。口縁部は大きく外反し、口縁端部は丸く終る。体部上半の相対する位置に1対の把手を施す。把手



第15图 高家湾出土陶器实测图



第16图 濠10出土土器尖测图

は角状を呈する。体部外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部はヨコナデ調整する。生駒西麓産。

甌 140・141は甌である。140は底部が丸底であり、体部が外上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部は尖り気味に終る。底部中央に円孔を1孔、周囲に楕円孔を4孔穿つ。体部中位の相対する位置に1対の把手を施す。把手は角状を呈する。体部外面は縦方向のハケメ調整する。内面は下部をナデ調整、中位をヘラケズリ調整、上部をハケメの後ナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。141は体部が外上方に伸びて口縁部に至る。口縁端部は面をもつ。口縁部から体部の外面は縦方向のハケメ調整、内面の上部は横方向のハケメ調整する。下部は風化が著しく調整法は不明。生駒西麓産。

鉢 142は鉢である。平底の底部より体部が内弯気味に立ち上がる。口縁部はゆるく外反し、口縁端部は丸く終る。体部内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。

製塩土器 128～132は製塩土器である。128は大形の製塩土器である。口縁部を欠損する。底部は丸底であり、体部が長胴の球形を呈する。口縁部はゆるく外反する。体部外面は指オサエによる凹凸が著しい。内面はナデ調整する。129～132は小形の製塩土器である。体部の張りは少なく、口縁部が内傾する。口縁端部は尖り気味に終る。体部内外面をナデ調整する。他に細片ではあるが、体部外面をタタキ調整、内面をナデ調整するものがある。

弥生土器 弥生土器は中期の鉢がある。143は鉢である。体部の張りは少なく、口縁部を下方へ折り曲げる。風化が著しく調整法は不明。体部外面に櫛描籬状文を2帯施す。非河内産。

溝1(第17～19図)

平安時代以降の土師器、黒色土器、緑釉陶器、須恵器、黒書土器、製塩土器、瓦器と弥生土器が出土した。

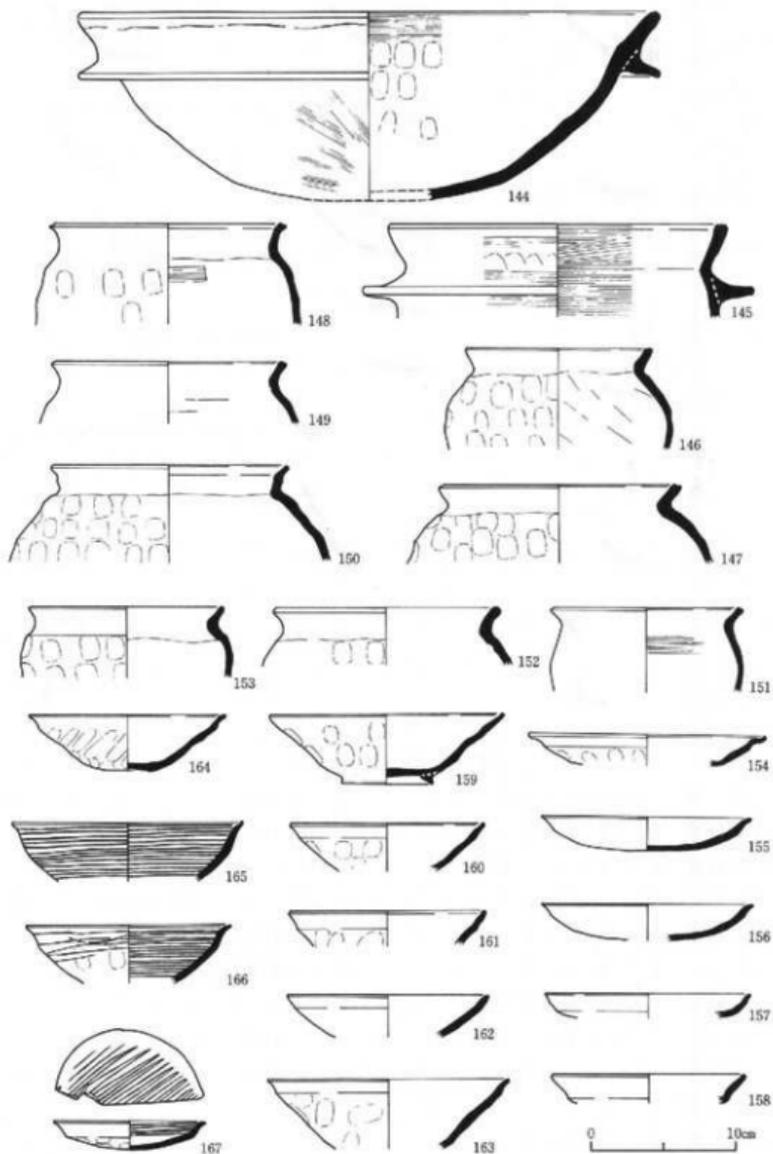
土師器 土師器は鈔付鍋、羽釜、甕、皿、椀、杯の器種がある。

鈔付鍋 144は鈔付鍋である。丸底の底部より体部が大きく外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。口縁部直下に鈔が付く。鈔はやや下方に伸びる。鈔端部は丸く終る。体部外面はハケメの後ナデ調整、内面はナデ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。生駒西麓産。

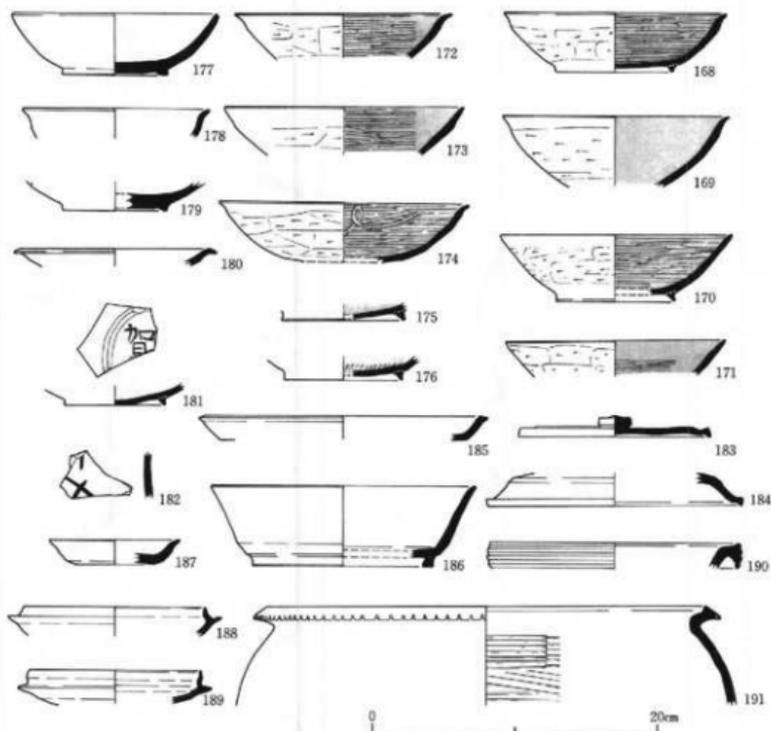
羽釜 145は羽釜である。体部の張りは少なく、口縁部がく字形に外反する。口縁端部はやや面をもつ。口縁部と体部の境に水平方向に伸びる鈔が付く。鈔端部は丸く終る。体部内外面は横方向のハケメ調整する。口縁部外面は横方向のハケメの後ヨコナデ調整、内面は横方向のハケメ調整する。生駒西麓産。

甕 146～153は甕である。体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面をもつ146～149・151と丸く終る150・152・153がある。体部外面は指オサエかナデ調整する。内面はナデ調整かハケメの後ナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

皿 154～158に皿である。154は口縁端部が外反した後、内弯する。口縁端部は内側へ巻き込むように肥厚する。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調



第17图 汉1出土土器实测图



第18図 溝1出土土器実測図

整する。155～157は口縁部がゆるく外反し、口縁端部が丸く終る。底部外面と見込みはナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。158は口縁部がゆるく外反し、口縁端部が丸く終る。口縁部と体部の境に段がつく。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

碗 159は碗である。体部が大きく逆ハ字形に伸び口縁部に至る。口縁端部は内側へやや肥厚する。底部は断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。体部外面は指オサエ、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。見込みはナデ調整する。

杯 160～164は杯である。碗の可能性もあるものも含む。やや上げ底を呈する底部より、体部が大きく逆ハ字形に伸びる。口縁部はゆるく外反する。口縁端部はわずかに内側へ肥厚する。160・161と丸く終る162～164がある。体部外面は指オサエ、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

黒色土器 黒色土器は碗と杯の器種がある。

碗 168～173・175・176は碗である。器高は低い。体部は大きく逆ハ字形に伸びる。口縁部は



第19圖 漢1出土製埴土器拓影

外反する168・169・172と外上方へ伸びる170・171がある。口縁端部は丸く終る。底部は断面形が三角形を呈する高台を貼り付ける。体部外面はヘラケズリ調整、内面はヘラミガキ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。内面は黒色を呈する。

杯 174は杯である。体部が大きく逆八字形に伸び、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。体部外面はヘラケズリ調整、内面はヘラミガキ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。内面に退化した連結輪状の暗文を施す。内面は黒色を呈する。

緑釉陶器 緑釉陶器は椀と皿の器種がある。

椀 177～179は椀である。177は体部が内弯気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。底部はわずかに削り出しており、高台の断面が逆台形を呈する。内外面はロクロナデ調整。底部裏面は無施釉。他は施釉。釉は淡黄緑色を呈する。178は口縁部がゆるく外反し、口縁端部は丸く終る。内外面はロクロナデ調整。全面に施釉。釉は暗緑灰色。179は底部がわずかにくぼむ。内外面はロクロナデ調整。全面に施釉。釉は暗緑灰色～淡緑色。胎土は軟質であり、京都産と考えられる。

皿 180は皿である。口縁部は強く外反し、口縁端部は丸く終る。口縁部内外面はロクロナデ調整。全面に施釉。釉は淡黄緑色。胎土は軟質であり、京都産と考えられる。

須恵器 須恵器は蓋、皿、杯の器種がある。

蓋 183・184は蓋である。183は扁平な天井部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は内側へ肥厚する。天井部中央に円形を呈するつまみがつく。天井部内面はナデ調整、他は回転ナデ調整する。184は器高がやや高い。口縁部はゆるく外反し、口縁端部が内側へ肥厚する。内外面は回転ナデ調整する。

皿 185は皿である。口縁部が外上方へ伸びる。口縁端部は面をもつ。内外面は回転ナデ調整する。

杯 186～189は杯である。186は平底の底部より体部が大きく外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。底部は断面形が台形を呈する高台がつく。内外面は回転ナデ調整する。187は皿状を呈する。口縁部はゆるく外反し、口縁端部が丸く終る。内外面は回転ナデ調整する。188・189は受部が水平方向に伸びる。口縁部は短く外反し、口縁端部が丸く終る。内外面は回転ナデ調整する。

墨書土器 181・182は墨書土器である。181は黒色土器椀の底部裏面に「賀」の可能性のある文字を書く。182は須恵器に書かれているが文字の判読は不明である。

製塩土器 194～210は製塩土器である。器形の判明するものはない。器壁は厚く、体部内外面の調整法が2種類に分けられる。194～198は体部外面を指オサエ、内面をナデ調整する。200～210は体部外面を指オサエ、内面は布圧痕を残す。

弥生土器 弥生土器は中期のものがある。壺、甕の器種がある。

壺 190は壺である。口縁部は下方へ折れ曲り、口縁端部が幅広の面をもつ。口縁部内外面はヨコナデ調整する。口縁端部に3条の凹線文を施す。生駒西麓産。

甕 191は甕である。体部の張りは強く、口縁部がく字形に外反する。口縁端部は上下へ拡張し、幅広の面をもつ。体部外面は風化が著しく調整法は不明。内面は横方向のハケメ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。口縁端部にキザミ目を施す。生駒西麓産。

溝2(第20図)

平安時代以降の黒色土器、陶器、土師器、瓦器が出土した。

黒色土器 黒色土器は椀の器種がある。体部が外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。体部外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。内面は黒色を呈する。

陶器 陶器は底部がある。218は平底の底部より体部が外上方へ伸びる。体部内外面はロクロナデ調整。体部外面にヘラ記号を施す。淡紫褐色を呈する。

土師器 土師器は壺、皿、羽釜、甕の器種がある。

壺 219は壺である。扁球形を呈する体部より口縁部が内傾する。口縁端部は面をもち、中央がわずかにくぼむ。体部内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。

皿 大皿と小皿がある。220は大皿である。平底に近い丸底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。底部外面と見込みはナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。221・222は小皿である。221はやや上げ底を呈する底部より口縁部が2段で外反する。口縁端部は面をもつ。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。222の形態、調整法は220と同様である。

羽釜 223は羽釜である。口縁部は外反し、口縁端部を内側へ巻き込む。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

甕 224は甕である。張りの少ない体部より口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終る。体部外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。

瓦器 瓦器は皿の器種がある。225は皿である。平底に近い丸底の底部より口縁部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。見込みに平行線の暗文を施す。

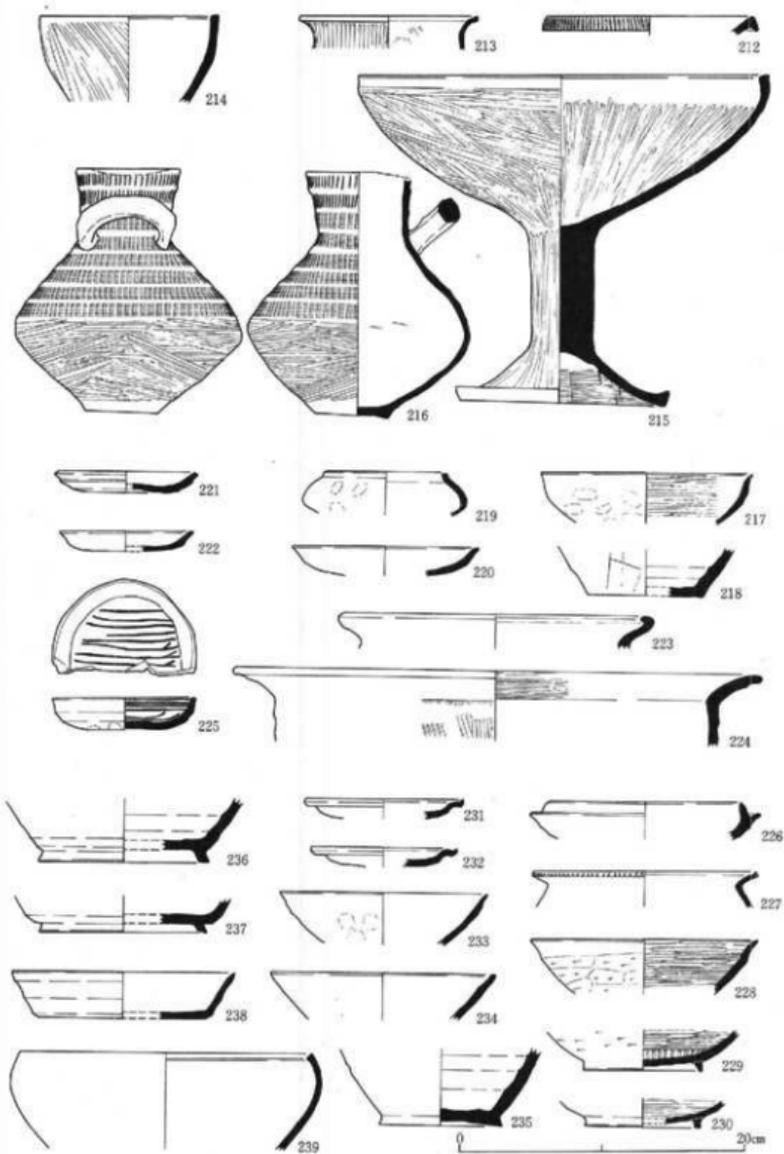
土壇14(第20図)

古墳時代の須恵器が出土した。杯の器種がある。226は杯である。受部が外上方へ伸び、口縁部が短く内傾する。口縁端部は丸く終る。内外面は回転ナデ調整する。

土壇2(第20図)

平安時代以降の黒色土器、土師器、須恵器と弥生土器が出土した。

黒色土器 黒色土器は椀の器種がある。228・229は椀である。228は体部が外上方へ伸び、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。体部外面はヘラケズリ調整、内面はヘラミガキ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。内面は黒色を呈する。228は底部である。断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。体部外面はヘラケズリ調整、内



第20图 2号方形周溝墓、溝2、土壇2·14出土土器実測図

面はヘラミガキ調整する。見込みはナデ調整の後、平行線の暗文を施す。内面は黒色を呈する。229は生駒西麓産。

土師器 土師器は椀、皿、杯の器種がある。

椀 230は椀の底部である。断面形が台形を呈する高台を貼り付ける。体部外面はナデ調整、内面と見込みはヘラミガキ調整する。

皿 231・232は皿である。底部は平底に近い丸底である。口縁部は強く外反した後、内弯する。口縁端部は内側へ巻き込む。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

杯 233・234は杯である。233は体部が外上方へ伸び、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。体部外面は指オサエ、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。234は体部が外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。体部内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。

須恵器 須恵器は壺、杯、鉢の器種がある。

壺 235・236は壺の底部である。235は上げ底を呈する底部より体部が外上方へ伸びる。体部内外面は回転ナデ調整する。底部は糸切りである。236は断面形が長方形を呈する高台がつく。体部は外上方へ伸びる。体部内外面は回転ナデ調整する。

杯 237・238は杯である。237は断面形が長方形を呈する高台がつく。体部は内弯気味に立ち上がる。体部内外面は回転ナデ調整、見込みはナデ調整する。238は平底の底部より体部が外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。体部内外面は回転ナデ調整、見込みはナデ調整する。

鉢 239は鉢である。体部が外上方へ伸び、口縁部が内弯する。口縁端部は内傾して面をもつ。内外面は回転ナデ調整する。

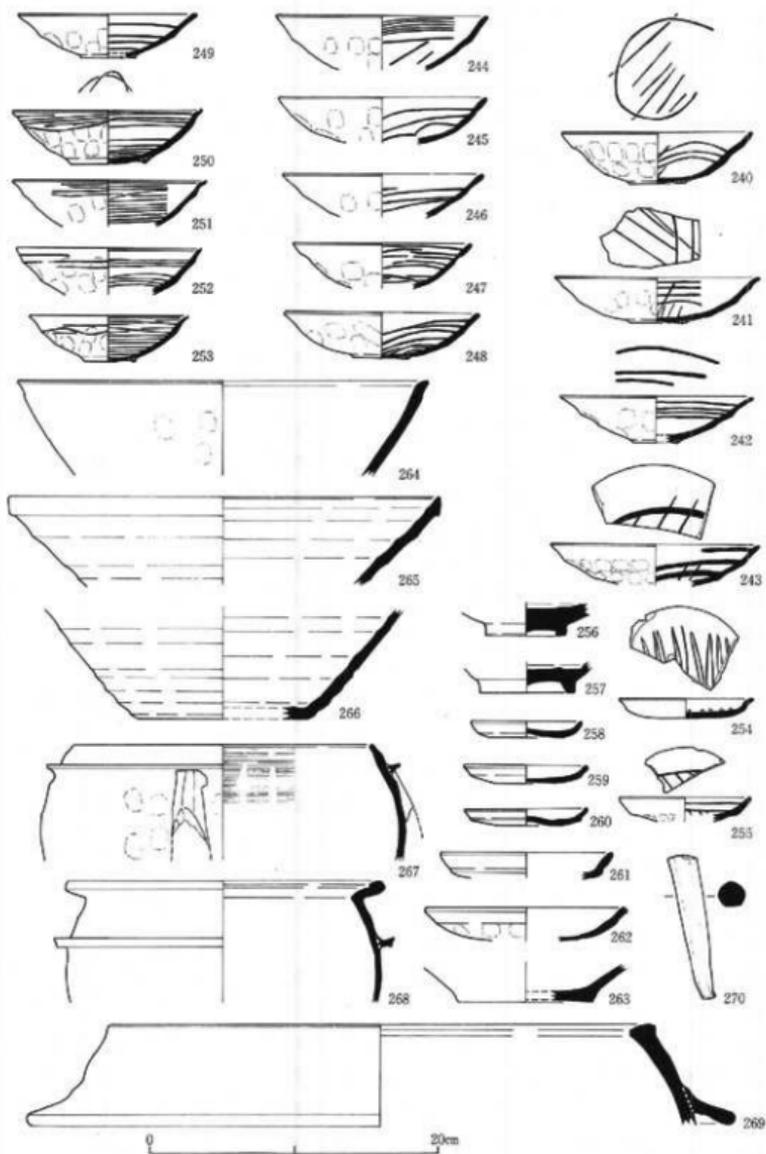
弥生土器 弥生土器は中期の甕がある。227は甕である。体部の張りは強く、口縁部がく字形に外反する。口縁端部はわずかに上方へ拡張する。風化が著しく調整法は不明。口縁端部にキザミ目を施す。生駒西麓産。

土坑4(第21図)

中世の瓦器、磁器、土師器、須恵器と弥生土器が出土した。

瓦器 瓦器は椀、皿、摺鉢、羽釜の器種がある。

椀 240～253は椀である。240～247は体部が浅く外上方へ伸び、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。底部に断面形が逆三角形や逆台形を呈する高台を貼り付ける。体部外面は指オサエ、内面は粗いヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。見込みは数条の平行線の暗文を施す。248・249は240と同じ形態・調整であるが見込みの暗文は消失する。250～253は体部が浅く外上方へ伸び、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は内傾し、一条の沈線を施す。底部に断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。外面は体部が指オサエ、口縁部がヨコナデの後、粗いヘラミガキ調整する。内面はやや密なヘラミガキ調整する。見込みは



第21图 土坑4出土土器夹器图

連結輪状の暗文を施す。

皿 254・255は皿である。254は平底に近い丸底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。体部外面は指オサエ、見込みはナデ調整の後、ジグザグ状の暗文を施す。口縁部内外面はヨコナデ調整する。255は平底に近い丸底の底部より口縁部が内弯気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整の後、平行線の暗文を施す。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヨコナデの後、粗いヘラミガキ調整する。

摺鉢 264は摺鉢である。体部は大きく外上方へ伸び、口縁部はゆるく外反する。口縁端部はやや尖り気味に終る。体部外面はナデ調整、内面は風化が著しく調整法は不明。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

羽釜 265・270は羽釜である。267は体部の張りは少なく、口縁部が内傾する。口縁端部はやや面をもつ。鈔は外上方へ短く伸び、端部がやや面をもつ。鈔の直下に脚を貼り付ける。体部外面は指オサエ、内面は上部を横方向のハケメ調整、下部をナデ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面は横方向のハケメ調整する。270は脚部である。脚端部がL字形を呈する。外面はナデ調整する。

磁器 磁器は青磁と白磁の碗がある。256は青磁碗の底部である。断面形が方形を呈する高台を削り出す。内外面はロクロナデ調整。底部裏面は無施釉。他は施釉。釉は灰緑色を呈する。257は白磁碗の底部である。断面形が逆台形を呈する高台を削り出す。内外面はロクロナデ調整する。外面及び内面の体部と見込み部の境は無施釉。他は施釉。釉は暗灰白色を呈する。

土師器 土師器は皿と羽釜の器種がある。

皿 258～262は皿である。258～260は小皿、261は中皿、262は大皿である。258は上げ底の底部より口縁部が外上方へ伸びる。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。259は平底に近い丸底の底部より口縁部が外反する。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。260は上げ底を呈する底部より口縁部が外上方へ伸びる。口縁端部は丸く終る。底部と口縁部の境に段がつく。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。261の形態・調整は260と同様。262の形態・調整は259と同様。

羽釜 268・269は羽釜である。268は体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は内側へ肥厚する。鈔は水平方向に短く伸び、端部が面をもつ。体部外面は多量の煤が付着し調整法は不明、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。269は体部が内傾し、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は肥厚する。鈔はやや外下方へ伸び、端部は丸く終る。内外面はヨコナデ調整する。

須恵器 須恵器は摺鉢の器種がある。265・266は摺鉢である。265は体部が大きく外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部はやや下方へ拡張し、幅広の面をもつ。内外面は回転ナデ調整。266は平底の底部より体部が大きく外上方へ伸びる。内外面は回転ナデ調整する。

弥生土器 弥生土器は中期の底部がある。263は平底の底部である。風化が著しく調整法は不

明。

井戸1(第22区)

中世の磁器、土師器、須恵器が出土した。

磁器 青磁の椀がある。271は椀の底部である。断面形が長方形を呈する高台を削り出す。高台は高い。内外面はロクロナデ調整する。底部裏面は無施釉。他は施釉。釉は暗緑灰色を呈する。

土師器 土師器は皿の器種がある。272・273は小皿である。272は平底に近い丸底の底部より口縁部が外上方へ伸びる。口縁端部は内側へやや肥厚する。底部と口縁部の境に段がつく。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。273は口縁部が逆ハ字形に大きく伸びる。口縁端部は丸く終る。内外面はヨコナデ調整する。

須恵器 須恵器は捏鉢の器種がある。274は捏鉢である。体部が外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は上方へやや拡張する。内外面は回転ナデ調整する。

井戸2(第22区)

中世の磁器、瓦器が出土した。

磁器 青磁の椀がある。275は椀である。底部は断面形が逆台形を呈する高台を削り出す。高台は高い。体部は内弯気味に立ち上がり、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。体部下半の外面は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ調整する。底部裏面は無施釉。他は施釉。釉は暗緑青色を呈する。

瓦器 瓦器は摺鉢の器種がある。276は摺鉢である。体部が内弯気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は内傾してやや面をもつ。体部外面は指オサエの後、部分的なハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部外面は横方向のハケメの後ヨコナデ調整、内面はヨコナデ調整する。体部内面におろし目を施す。6本残存する。

井戸3(第22区)

中世の瓦器と磁器が出土した。

瓦器 瓦器は皿の器種がある。277は皿である。口縁部はゆるく外反し、口縁端部が丸く終る。外面はヨコナデ調整、内面はヨコナデの後、粗いヘラミガキ調整する。

磁器 磁器は青磁の椀がある。278は椀の底部である。断面形が方形を呈する高台を削り出す。高台は低い。内外面はロクロナデ調整する。底部裏面は無施釉。他は施釉。釉は緑灰色を呈する。

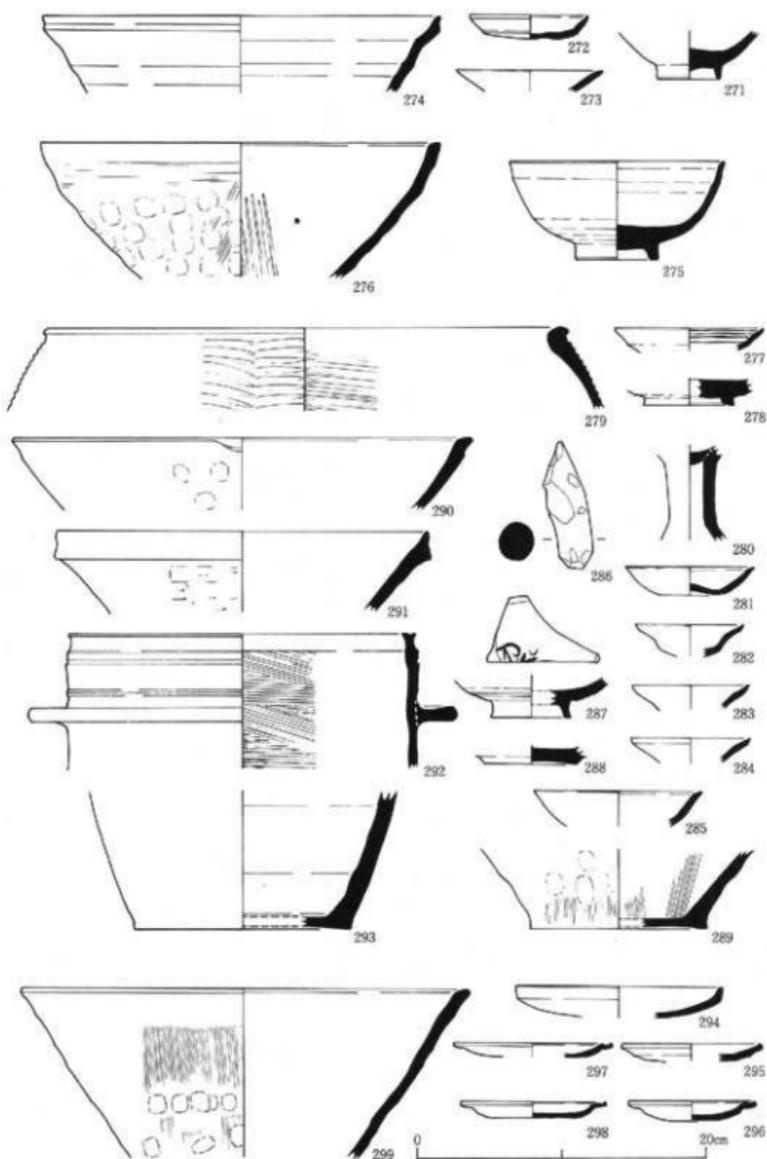
井戸4(第22区)

中世の瓦器、土師器、磁器、緑釉陶器、陶器と弥生土器が出土した。

瓦器 瓦器は甕、摺鉢、羽釜の器種がある。

甕 279は甕である。内傾する体部より口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終る。体部外面はタタキ調整、内面は横方向のハケメ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

摺鉢 289-291は摺鉢である。289は平底の底部より体部が外上方へ伸びる。体部外面は指



第22图 井戸1~5出土土器実測図

オサエの後ハケメ調整、内面はナデ調整する。内面におろし目を施す。9本残存する。290は体部が外上方へ伸び、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。口縁部に片口が残る。体部外面は指オサエ、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。291は体部が外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は上方へ拡張し、幅広い面をもつ。体部外面はヘラケズリ調整、口縁部外面はヨコナデ調整する。内面は使用による磨り減りが著しく調整法は不明。

羽釜 286・291は羽釜である。286は脚部である。外面はナデ調整する。292は体部が上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は面をもつ。鋳は水平方向に伸び、端部が丸く終る。口縁部外面に3条の沈線を施す。体部外面はナデ調整、内面は横方向のハケメ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

土師器 土師器は皿の器種がある。281～284は小皿、285は中皿である。281は上げ底の底部より口縁部がわずかに外反する。口縁端部は丸く終る。底部外面と見込みはナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。282～284は口縁部が大きく逆八字形に伸び、口縁端部が丸く終る。内外面はヨコナデ調整する。285の形態・調整は281と同様。

磁器 磁器は青磁の碗がある。287は碗の底部である。断面形が長方形を呈する高台を削り出す。高台は高い。内外面はロクロナデ調整する。見込みにヘラ描文様を施す。底部裏面は無施釉。他は施釉。釉は淡緑灰色を呈する。

緑釉陶器 288は緑釉陶器の底部である。やや上げ底を呈する。内外面はロクロナデ調整する。内外面は施釉する。釉は淡緑色を呈する。胎土は軟質であり、京都産と考えられる。

陶器 陶器は備前焼がある。293は備前焼の壺か甕の底部である。やや上げ底を呈する底部より体部が外上方へ伸びる。内外面はロクロナデ調整する。暗紫灰色を呈する。

弥生土器 弥生土器は中期の高杯がある。280は高杯の脚部である。柱状を呈し、中空である。風化が著しく調整法は不明。生駒西麓産。

井戸5(第22図)

中世の土師器、瓦器が出土した。

土師器は皿の器種がある。294は大皿、295～298は小皿である。294は平底に近い丸底の底部より口縁部が上方へ立ち上がる。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。295は平底に近い丸底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面をもつ。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。296～298は平底に近い丸底の底部より口縁部が強く外反した後、内弯する。口縁端部は内側へ巻き込む。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

瓦器 瓦器は摺鉢の器種がある。299は摺鉢である。体部が大きく外上方へ伸び、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は丸く終る。体部外面は指オサエの後、縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

ピット20(第23図)

中世の瓦器、土師器が出土した。

瓦器 瓦器は椀の器種がある。300は椀である。体部が浅く外上方へ伸び、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面をもち、沈線を施す。底部は断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。高台は低い。体部外面は指オサエ、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。内面に渦巻状の暗文を施す。

土師器 土師器は皿の器種がある。301は小皿である。平底に近い丸底の底部より口縁部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

ビット35(第23図)

中世の瓦器、磁器、土師器が出土した。

瓦器 瓦器は椀の器種がある。302は椀である。体部が浅く外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は面をもち、沈線を施す。底部は断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。高台は低い。体部外面は指オサエ、内面はヘラミガキ調整する。口縁部外面はヘラミガキ調整する。

磁器 磁器は白磁の皿がある。303は皿である。口縁部が強く外反し、口縁端部はやや面をもつ。内外面はロクロナデ調整する。外面下半は無施釉。他は施釉。釉は淡灰白色を呈する。

土師器 土師器は皿の器種がある。304は小皿である。平底に近い丸底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面をもつ。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

ビット28(第23図)

中世の瓦器、土師器が出土した。

瓦器 瓦器は椀の器種がある。305は椀の底部である。体部は内湾気味に立ち上がる。底部は断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。高台はやや高い。体部外面は指オサエ、内面は密なヘラミガキ調整する。見込みは連結輪状の暗文を施す。

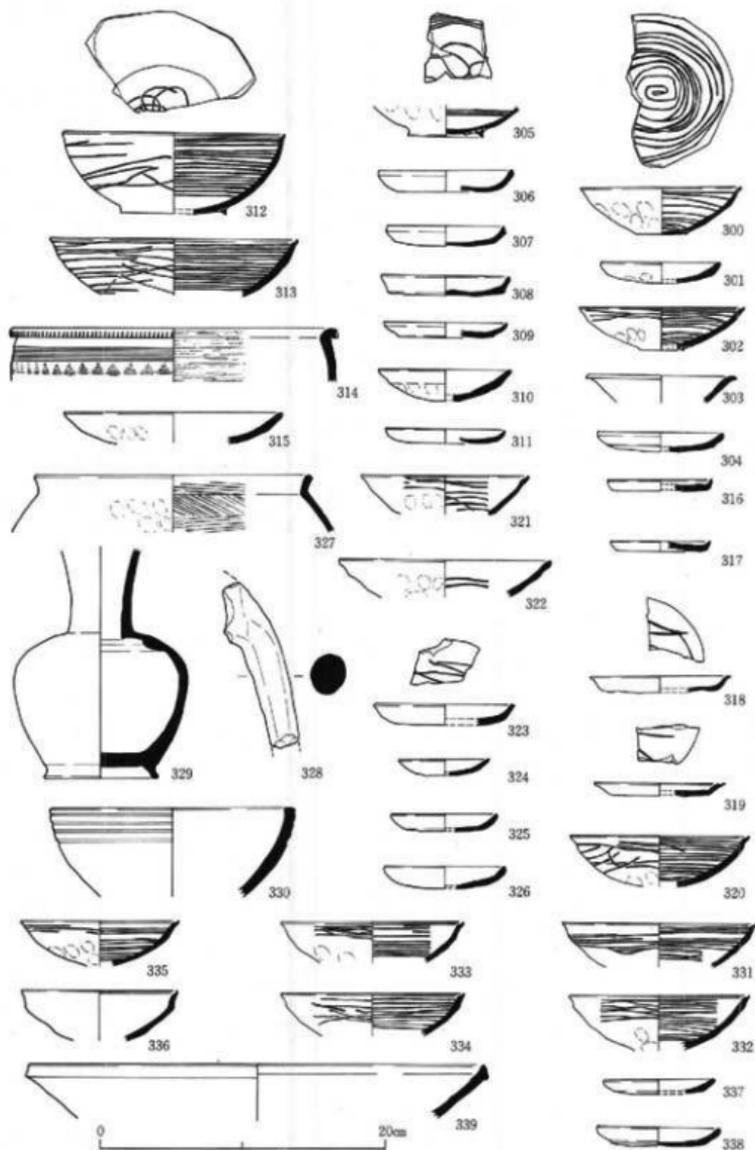
土師器 土師器は皿の器種がある。306～308は小皿である。306・307は平底に近い丸底の底部より口縁部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は面をもつ。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。308は平底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は尖り気味に終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

ビット45(第23図)

中世の土師器が出土した。土師器は皿の器種がある。309は小皿である。平底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は尖り気味に終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

ビット53(第23図)

中世の土師器が出土した。土師器は皿の器種がある。310は小皿である。丸底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口



第23図 ビット出土土器実測図

縁部内外面はヨコナデ調整する。

ビット65(第23図)

中世の土師器が出土した。土師器は皿の器種がある。311は小皿である。上げ底を呈する底部より口縁部が内弯気味に立ち上がる。口縁端部は尖り気味に終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

ビット31(第23図)

中世の瓦器が出土した。瓦器は碗の器種がある。312・313は碗である。体部は深く、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は面をもち、沈線を施す。底部は断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。高台はやや高い。体部外面は指オサエの後、粗い分割のヘラミガキ調整する。体部内面は密なヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヘラミガキ調整する。見込みはナデ調整の後、連結輪状の暗文を施す。

ビット57(第23図)

弥生土器が出土した。弥生土器は鉢の器種がある。314は鉢である。張りの少ない体部より口縁部が強く外反する。口縁端部は面をもつ。外面は風化が著しく調整法は不明。内面はヘラミガキ調整する。口縁部外面に櫛描列点文、体部外面に櫛描直線文と扇形文を施す。非河内産。

ビット43(第23図)

中世の土師器が出土した。土師器は皿の器種がある。315は大皿である。平底に近い丸底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

ビット91

中世の土師器、瓦器が出土した。

土師器 土師器は皿の器種がある。316・317は小皿である。やや上げ底を呈する底部より口縁部が内弯気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

瓦器 瓦器は皿と碗の器種がある。

皿 318・319は皿である。318は平底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は尖り気味に終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。見込みに平行線の暗文を施す。319は平底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面をもち、沈線を施す。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。見込みに平行線の暗文を施す。

碗 320は碗である。体部は浅く、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面をもち、沈線を施す。体部外面は指オサエの後、粗いヘラミガキ調整する。内面はやや密なヘラミガキ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。

ビット92(第23図)

中世の瓦器、土師器が出土した。

瓦器 椀、皿、羽釜の器種がある。

椀 321・322は椀である。321は体部が浅く、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面をもち、沈線を施す。体部外面は指オサエ、内面は粗いヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヘラミガキ調整する。322は体部が浅く、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。体部外面は指オサエ、内面はナデの後、粗いヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

皿 323は皿である。平底に近い丸底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。見込みにジグザグ状の暗文を施す。

羽釜 328は羽釜の脚である。外面はナデ調整する。

土師器 土師器は皿、甕の器種がある。

皿 324～326は小皿である。平底に近い丸底の底部より口縁部が内弯気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終る。体部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

甕 327は甕である。張りのある体部より口縁部がく字形に外反する。口縁端部は丸く終る。体部外面はナデ調整、内面は横方向のハケメ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

ビット164(第23図)

平安時代の須恵器が出土した。須恵器は壺の器種がある。329は壺である。口縁部を欠損する。肩部の張りが強く、頸部は細く上方へ伸びる。底部は断面形が逆台形を呈する高台がつく。高台は高い。内外面は回転ナデ調整する。

ビット144(第23図)

弥生時代中期の鉢が出土した。330は鉢である。体部が内弯気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部はやや面をもつ。風化が著しく調整法は不明。口縁部外面に4条の凹線文を施す。生駒西麓産。

ビット143(第23図)

中世の瓦器、土師器、須恵器が出土した。

瓦器 瓦器は椀の器種がある。331～336は椀である。331～334は口径がやや大きい。体部がやや深く、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面をもち、沈線を施す。外面は体部を指オサエ、口縁部をヨコナデ調整の後、粗いヘラミガキ調整する。内面は密なヘラミガキ調整する。335・336は口径がやや小さい。形態は331と同様であるが、ヘラミガキ調整がやや粗い。336は内外面に煤が付着しており調整法は不明。

土師器 土師器は皿の器種がある。337・338は小皿である。平底に近い丸底の底部より口縁部が内弯気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

須恵器 須恵器は捏鉢の器種がある。339は捏鉢である。口縁部が大きく外上方へ伸び、口

縁端部が面をもつ。内外面は回転ナデ調整する。

包含層出土の土器

包含層内より弥生時代～中世に至る土器が出土した。弥生土器、古墳時代の土器、奈良時代以降の土器に分けて説明を記す。

弥生土器(第24図)

弥生土器は中期のものがある。器種は甕、高杯、壺蓋、甕蓋、鉢がある。

甕 355～358は甕である。355は張りのある体部より口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へやや肥厚する。風化が著しく調整法は不明。生駒西麓産。356は張りのある体部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面をもつ。風化が著しく調整法は不明。生駒西麓産。357・358は張りの少ない体部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は357がやや下方へ肥厚し、358が面をもつ。風化が著しく調整法は不明。口縁端部にキザミ目を施す。生駒西麓産。

高杯 359～361は高杯の脚部である。柱状部は中空であり、裾部がゆるく広がる。裾端部は面をもつ。359は外面をヘラミガキ調整、内面をヘラケズリ調整する。裾端部はヨコナデ調整する。360・361は風化が著しく調整法は不明。359は生駒西麓産。360・361は非河内産。

壺蓋 362は壺蓋である。体部はゆるく立ち上がり、口縁端部を上方へ拡張する。風化が著しく調整法は不明。生駒西麓産。

甕蓋 363は甕蓋である。体部の立ち上がりが強く、口縁端部が面をもつ。体部外面は縦方向、内面は横方向のハケメ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。口縁部内面に帯状の煤が付着する。生駒西麓産。

鉢 364～366は鉢である。364は椀状を呈する。口縁部は外上方へ伸び、口縁端部が面をもつ。内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。365・366は張りの少ない体部より口縁部を下方へ折り曲げる。口縁端部が段上を呈する。風化が著しく調整法は不明。366は口縁端部に楕圓状文、体部外面に列点文と襷状文を施す。生駒西麓産。

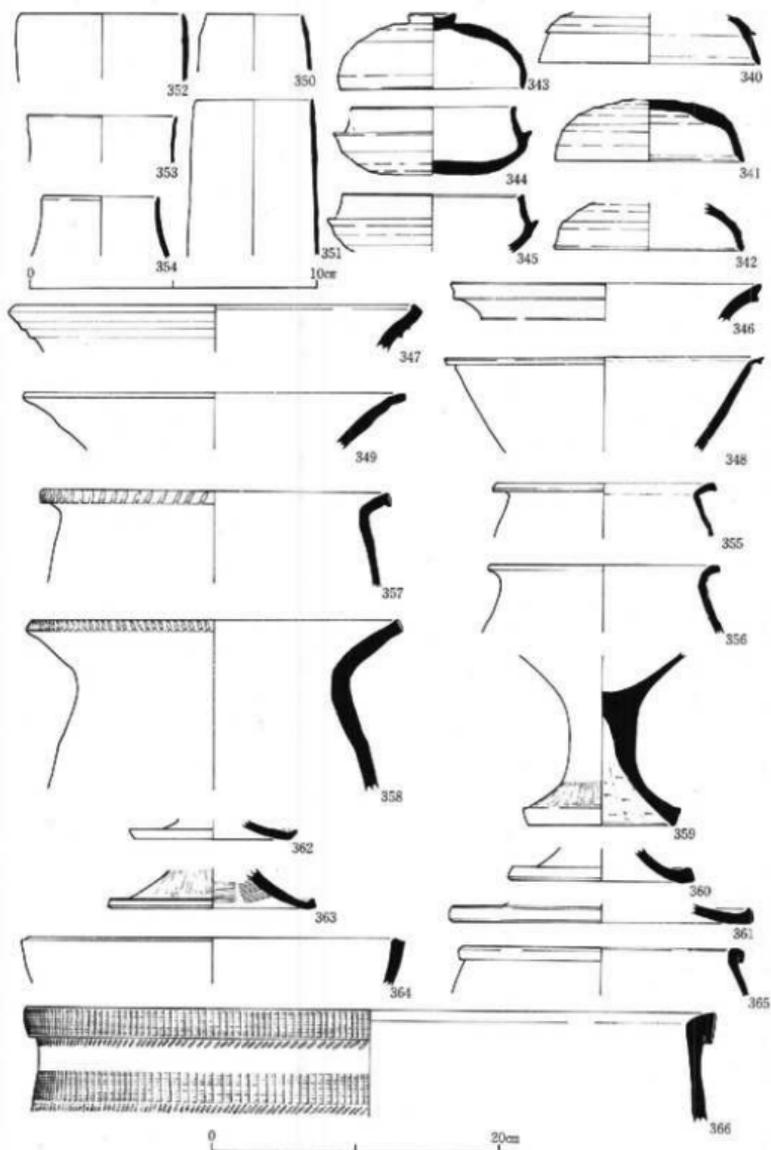
古墳時代の土器(第24図)

古墳時代の土器は須恵器、土師器、製塩土器がある。

須恵器 須恵器は蓋、杯、甕の器種がある。

蓋 340～343は蓋である。口縁部は内傾し、口縁端部が面をもつ。天井部と口縁部の境に明瞭な稜がつく。天井部外面は回転ヘラケズリ調整、他は回転ナデ調整する。341・342は天井部がやや丸く、口縁部が内傾する。天井部と体部の境は不明瞭である。341は口縁端部がやや面をもち、浅い沈線を施す。342は口縁端部が丸く終る。天井部外面は回転ヘラケズリ調整、内面はナデ調整する。他は回転ナデ調整する。343は天井部が丸く、口縁部が内湾する。天井部と口縁部の境は不明瞭である。口縁端部は丸く終る。天井部中央に円形のつまみがつく。つまみの中央はくぼむ。天井部外面は回転ヘラケズリ調整、内面はナデ調整する。他は回転ナデ調整する。

杯 344・345は杯である。体部は丸味をもち、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は344が



第24图 包含层出土土器实测图

丸く終り、345が面をもつ。受部は水平方向に伸び、端部が丸く終る。底部外面は回転ヘラケズリ調整、内面はナデ調整する。他は回転ナデ調整する。

甕 346・347は甕である。口縁部が外上方へ伸びる。346は口縁端部が面をもつ。外面に1条の凸帯を施す。内外面は回転ナデ調整する。347は口縁端部が内側へやや肥厚する。外面に2条の凸帯を施す。内外面は回転ナデ調整する。

土師器 土師器は高杯の器種がある。348・349は高杯である。348は杯部が外上方へ伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部は面をもつ。杯部内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。349は杯部が外上方へ伸び、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面をもつ。内外面はヨコナデ調整する。

製塩土器 350～354は小形の製塩土器である。器壁は薄い。体部の張りは少なく、口縁部が上方へ伸びるものとやや内湾するものがある。口縁端部は尖り気味に終る。体部内外面はナデ調整する。他に細片ではあるが、体部外面をタタキ調整、内面をナデ調整するものがある。

奈良時代以降の土器(第25～28図)

奈良時代以降の土器は瓦器、須恵器、土師器、緑釉陶器、黒色土器、磁器、陶器、製塩土器がある。

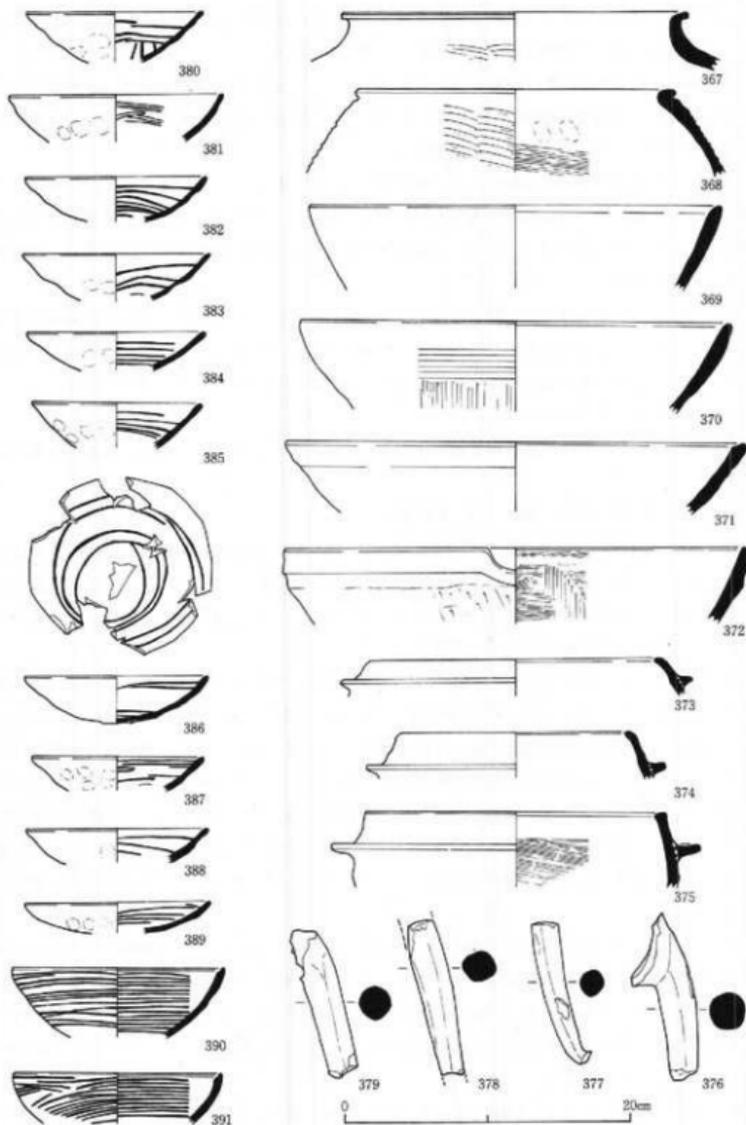
瓦器 瓦器は甕、摺鉢、羽釜、椀、皿の器種がある。

甕 367・368は甕である。367は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面をもつ。体部外面はタタキ調整、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。368は張りのある体部より口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終る。体部外面はタタキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

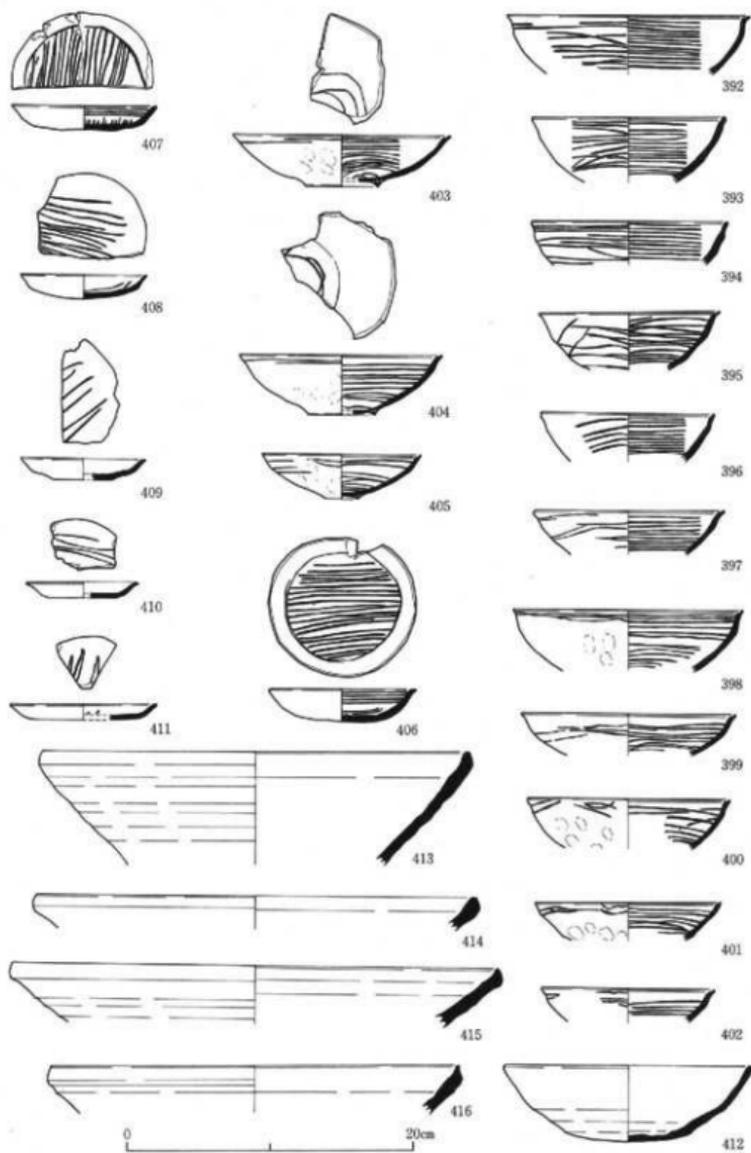
摺鉢 369～372は摺鉢である。369～371は体部が大きく外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は369が丸く終り、370・371がやや内傾する面をもつ。371は体部と口縁部の境に段がつく。369・371は体部外面をナデ調整する。内面は使用による磨り減りが著しく調整法は不明。口縁部内外面はヨコナデ調整する。370は体部外面を縦方向のハケメの後、部分的に横方向のハケメ調整する。内面はヨコナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。372は口縁部が外上方へ伸び、口縁端部を上方へ拡張し幅広い面をもつ。外面は体部をヘラケズリ調整、口縁部をヨコナデ調整する。内面は横方向のハケメ調整する。内面におろし目を施す。16本残存する。

羽釜 373～379は羽釜である。373・374は口縁部が内傾し、口縁端部を内側へ拡張する。鈚は短く水平方向に伸びる。鈚端部は丸く終る。内外面はヨコナデ調整する。375は張りの少ない体部より口縁部が内傾する。口縁端部は面をもつ。体部外面はナデ調整、内面は横方向のハケメ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。376～379は脚部である。端部がL字形を呈する。外面はナデ調整する。

椀 380～405は椀である。口縁端部が丸く終る380～389と面をもち、沈線を施す390～405がある。380～389は体部がやや浅く、口縁部がゆるく外反するか上方へ伸びる。底部は断面形が



第25图 包含层出土土器类图



第26图 包含层出土土器实测图

逆三角形を呈する高台を貼り付ける。高台は低い。体部外面は指オサエ、内面は粗いヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。380は見込みに平行線の暗文を施す。390・391は体部が深く、口縁部が上方へ伸びる。内外面は密なヘラミガキ調整する。392～397は体部が深く、口縁部がゆるく外反する。外面は指オサエの後やや粗いヘラミガキ調整、内面は密なヘラミガキ調整する。398～404は392とほぼ同形態であるが体部はやや浅い。断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。高台は低い。外面は指オサエの後、粗いヘラミガキ調整、内面はやや粗いヘラミガキ調整する。見込みに連結輪状の暗文を施す。405は体部が浅く、口縁部がゆるく外反する。底部は断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。体部外面は指オサエの後、粗いヘラミガキ調整する。内面はやや粗いヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。見込みの暗文は消失する。

皿 406～411は皿である。丸底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部はわずかに下方へ肥厚する。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。見込みはジグザグ状の暗文を施す。408・409は平底に近い丸底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は下方へわずかに肥厚する。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。見込みに408は平行線、409はジグザグ状の暗文を施す。410・411は平底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は下方へわずかに肥厚する。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。見込みは410が平行線、411がジグザグ状の暗文を施す。

須恵器 須恵器は碗、捏鉢、杯、皿、蓋、壺の器種がある。

碗 412は碗である。丸底に近い平底の底部より体部が外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部はやや面をもつ。内外面は回転ナデ調整する。底部は糸切りである。

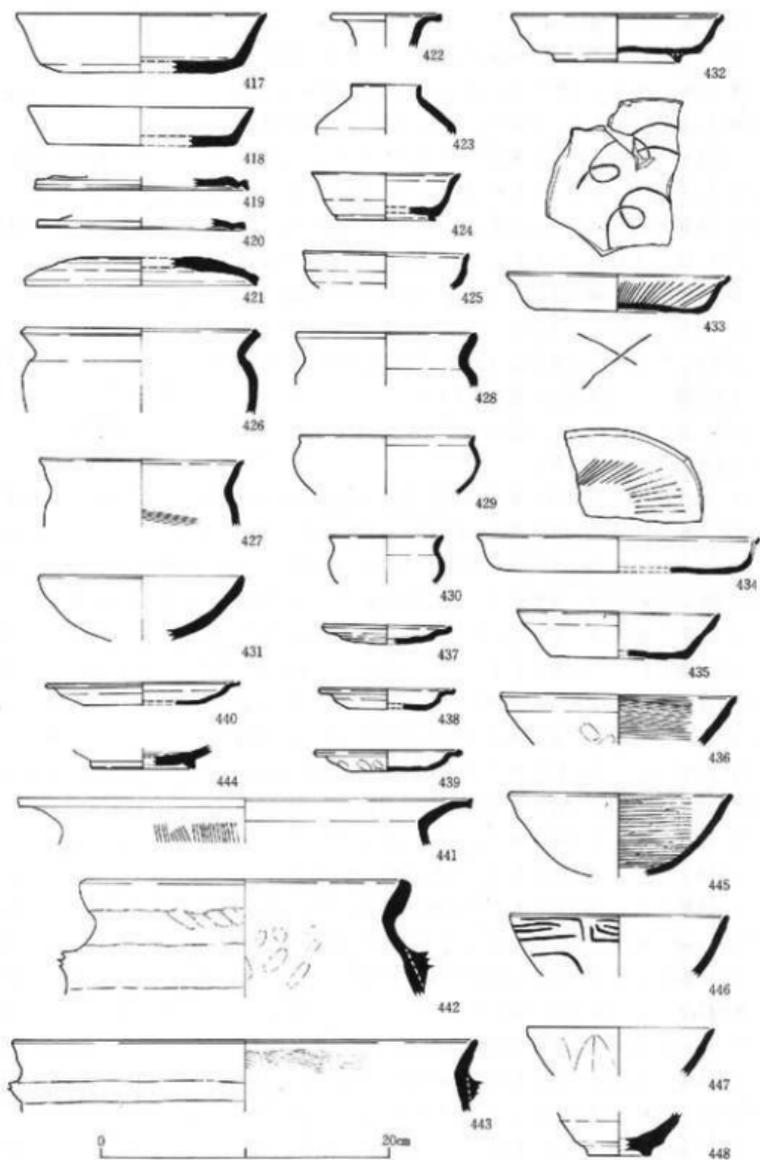
捏鉢 413～416は捏鉢である。体部が大きく外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は上方へやや拡張し面をもつ。内外面は回転ナデ調整する。

杯 417・424・425は杯である。417は平底の底部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。内外面は回転ナデ調整する。424は平底の底部より体部が外上方へ伸びる。口縁部はゆるく外反し、口縁端部が丸く終る。底部は断面形が逆台形を呈する高台がつく。内外面は回転ナデ調整する。425は内弯気味に立ち上がる体部より口縁端部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。内外面は回転ナデ調整する。

皿 418は皿である。平底の底部より口縁部が外上方へ伸びる。口縁端部は丸く終る。内外面は回転ナデ調整する。

蓋 419～421は蓋である。419・420は低い天井部より口縁部が強く外反する。口縁端部は内側へ肥厚する。内外面は回転ナデ調整する。421はやや丸味をもつ天井部より口縁部が内弯する。口縁端部は面をもつ。内外面は回転ナデ調整する。

壺 422・423は壺である。422は口頸部が大きく外反し、口縁端部を上方へ拡張する。内外面は回転ナデ調整する。423は張りの強い体部より口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終る。



第27图 包含层出土土器实测图

内外面は回転ナデ調整する。

土師器 土師器は甕、壺、高杯、杯、椀、皿、羽釜の器種がある。

甕 426～428・441は甕である。426・428は張りの少ない体部より口縁部が強く外反する。口縁端部は426が面をもち、428が丸く終る。体部と口縁部の境に明瞭な段がつく。426は体部外面を指オサエ、内面をナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。428は風化が著しく調整法は不明。427は張りの少ない体部より口縁部が大きく外反する。口縁端部は尖り気味に終る。体部外面は指オサエ、内面はハケメの後ナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。441は口縁部が大きく外反し、口縁端部は上方へやや拡張する。体部外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

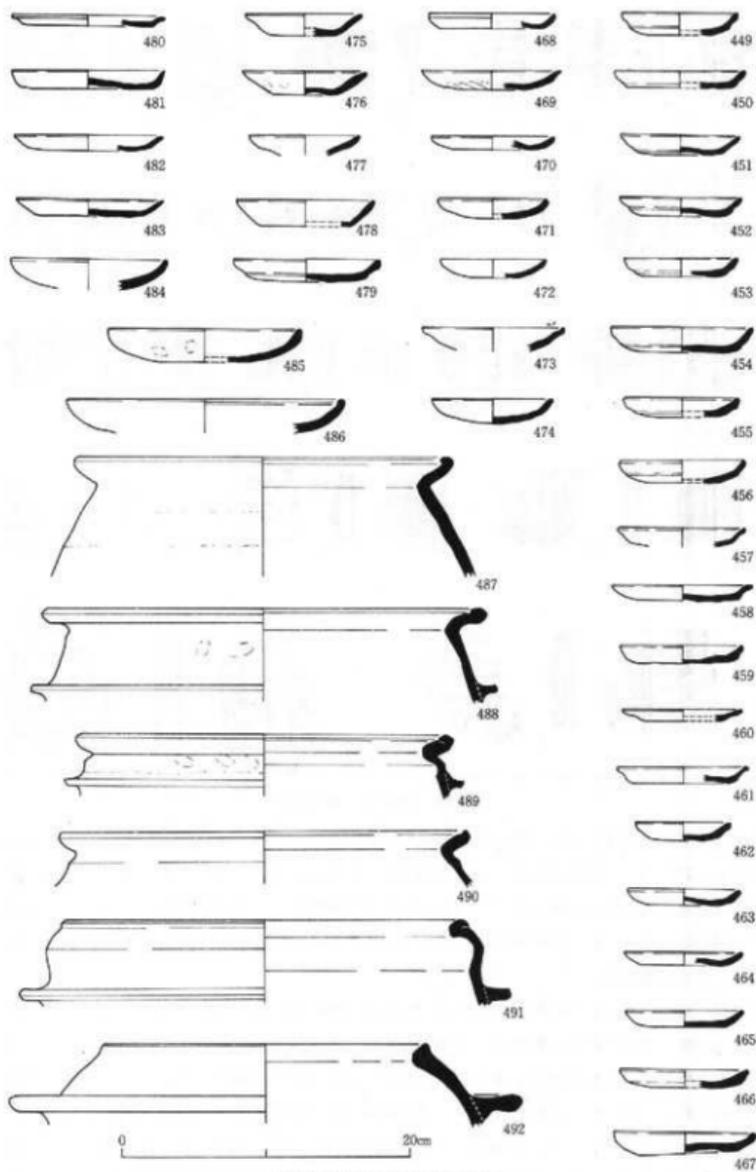
壺 429・430は壺である。429は球形の体部より口縁部が短く外折する。口縁端部は尖り気味に終る。風化が著しく調整法は不明。430は球形の体部より口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終る。風化が著しく調整法は不明。

高杯 431は高杯である。体部が内湾気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。風化が著しく調整法は不明。

杯 432～435は杯である。432は底部に断面形が逆台形を呈する高台を貼り付ける。口縁部はゆるく外反し、口縁端部は内側へ肥厚する。風化が著しく調整法は不明。433・434は平底の底部より口縁部が短く外反する。口縁端部は内側へ肥厚する。433は底部外面をヘラケズリの後ナデ調整、見込みをナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。体部内面に放射状、見込みに2帯の連結輪状の暗文を施す。底部裏面はX状のヘラ記号を施す。434は底部外面と見込みをナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。見込みに放射状の暗文を施す。435はやや上げ底を呈する底部より体部が外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。体部外面は指オサエ、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

椀 436は椀である。体部が外上方へ伸び、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。体部外面は指オサエ、内面は横方向のハケメ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

皿 437～440・449～486は皿である。437・438は小皿である。平底に近い丸底の底部より口縁部が強く外反した後、内湾する。口縁端部は内側へ巻き込む。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁端部はヨコナデ調整する。439・440は437と同様の形態、調整であり、439は中皿、440は大皿である。449～453・455・456は小皿である。平底に近い丸底の底部より口縁部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終るかやや面をもつ。底部と口縁部の外面の境に明瞭な段がつく。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。454・479は449と同様の形態、調整の中皿である。457～462は小皿である。平底に近い丸底の底部より口縁部が外反する。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。480～483は457と同様の形態、調整の中皿である。463～474は小皿である。平底に近い丸底の底部より口縁部が外上方へ立ち上がる。口縁端部は丸く終るかやや尖り気味に終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内



第28图 包含层出土土器实测图



第29図 製塩土器・埴輪拓影

外面はヨコナデ調整する。484・485は463と同様の形態、調整であり、484は中皿、485は大皿である。475～478は小皿である。平底の底部より口縁部が大きく逆八字形に伸びる。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。486は大皿である。口縁部は内弯気味に立ち上がり、口縁端部が内側へ肥厚する。内外面はヨコナデ調整する。

羽釜 442・443・487～492は羽釜である。442は張りの大きい体部より口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終る。鏝は付くが形状は不明。体部内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。443は張りの少ない体部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終る。鏝は付くが形状は不明。体部内外面はナデ調整する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はハケメの後ヨコナデ調整する。生駒西麓産。487・488・490は張りの大きい体部より口縁部が強く外反する。口縁端部は内側へ巻き込む。鏝は水平方向に伸び、端部がやや面を

もつ。体部内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。489は張りの少ない体部より口縁部が強く外反する。口縁端部は内側へ巻き込む。銚はやや外下方へ伸び、端部が面をもつ。体部内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。491は口縁部が外反した後、内湾する。口縁端部は下方へ折れ曲る。銚は水平方向に伸び、端部は丸く終る。内外面はヨコナデ調整する。492は張りの大きい体部より口縁部が短く外反する。口縁端部は内側へ肥厚する。体部内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。

緑釉陶器 444は緑釉陶器の底部である。断面形が逆三角形を呈する高台を削り出す。内外面は回転ナデ調整する。全面に施釉する。釉は暗緑色を呈する。胎土は軟質であり、京都産と考えられる。

黒色土器 445は黒色土器の碗である。体部が内湾気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は面をもち、沈線を施す。外面は風化が著しく調整法は不明。内面は密なヘラミガキ調整する。内外面は黒色を呈する。

磁器 446・447は青磁碗である。体部は内湾気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。内外面はロクロナデ調整する。外面に雷文を施す。全面に施釉する。釉は緑色を呈する。447は体部が外上方へ伸び、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は尖り気味に終る。内外面はロクロナデ調整する。外面に蓮弁文を施す。全面に施釉する。釉は暗黄緑色を呈する。

陶器 448は唐津焼の碗である。断面形が逆台形を呈する高台を削り出す。内外面はロクロナデ調整する。外面の上部と内面に施釉する。釉は褐灰色を呈する。

製塩土器 493～503は製塩土器である。器形の判明するものはない。器壁は厚く、体部内外面の調整法が2種類に分けられる。493～498は体部外面を指オサエ、内面をナデ調整する。499～503は体部外面を指オサエ、内面は布圧痕を残す。

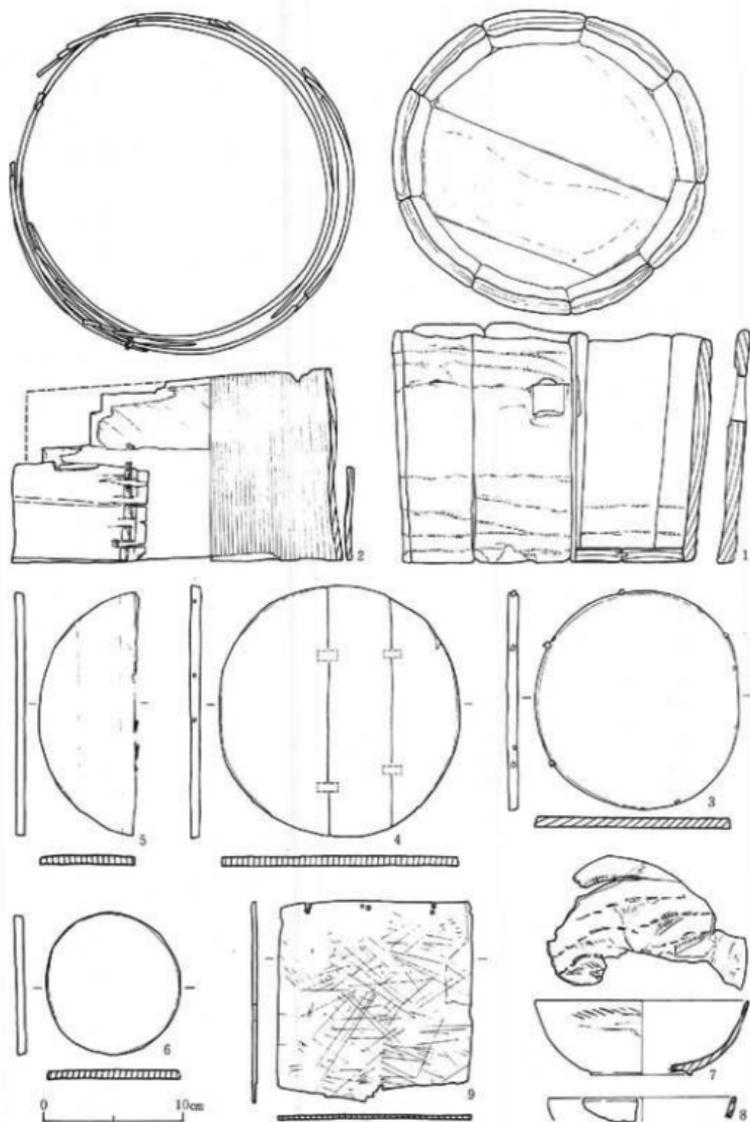
埴輪(第29図)

円筒埴輪が出土した。すべて破片であり、全形は不明である。タガは低く、断面形が台形を呈する。外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。色調は灰白色を呈する504～506と淡茶褐色を呈する507がある。504～506は遺物包含層、507は溝1より出土。6世紀後半と考えられる。

木製品(第30図)

今回の調査で出土した木製品で図化したものは釣瓶、曲物容器、容器底板、漆器碗、用途不明板がある。図化しなかった木製品は板材、角材がある。量は少ない。木製品はすべて井戸内より出土した。以下、各製品について説明を記すが、挿図の横断面に描かれた弧は、木の年輪を模式的に表わしており、木取りを示す。材は広葉樹、針葉樹を識別しているが、同定したのではなく、著者の肉眼観察によるものである。

1は釣瓶である。側板9枚と底板3枚よりなる組み合せ式のものであるが、底板の1枚は残っていない。また、紐掛の横木も残っていない。側板は長方形を呈するが、上部を幅広につくっている。横断面は内側に向かって弯曲し、ゆるいU字形を呈する。上端より約1/3の位置に横



第30图 木製品実測图

木を通す柄穴を穿つ。柄穴は相対する位置に2ヶ所穿ち、縦約2.5cm、横約2cmを測る。側板の外面にはタガをはめる凹みを帯状に削っており、上下2ヶ所に認められる。底板は3枚を組み合せると円形になるようにつくる。側縁に小孔を2孔穿ち、木釘によって止める。口径22.2cm、底径20.4cm、器高17.0cmを測る。側板、底板とも板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。井戸4より出土。15世紀。

2は曲物容器の側板である。上端の一部を欠損する。長方形の板材を2重に曲げており、小口は薄く削っている。小口に紐穴を穿っており、板の榫によって止める。5ヶ所残る。内面に縦方向の切り込みを約5mm間隔で入れており、曲物を曲げやすくしている。径24.0cmを測るが、曲物のとめがはずれており、本来の径は小さい。器高13.8cmを測る。板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。井戸3より出土。13～14世紀。

3は容器底板である。一木を円形に削り出してつくる。円周部には側板と組み合わせるための小孔を12孔穿ち、孔内に木釘が残る。長径15.5cm、短径14.1cm、最大厚0.8cmを測る。柁目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。井戸3より出土。13～14世紀。

4は容器底板である。3枚の板材を円形に削り出し、組み合せ式のものである。側縁に柄穴を2孔穿ち、木釘によって止める。円周部には側板と組み合わせるための小孔を9孔穿ち、一部の孔内には木釘が残る。長径17.7cm、短径16.7cm、最大厚0.7cmを測る。柁目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。井戸3より出土。13～14世紀。

5は容器底板であるが、約 $\frac{1}{2}$ を欠損する。形態は3と同様であるが、円周部に小孔は認められない。残存径17.2cm、残存幅6.7cm、最大厚0.6cmを測る。柁目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。井戸2より出土。15世紀。

6は容器底板である。形態は3と同様であるが、円周部に小孔は認められない。長径10.0cm、短径9.4cm、最大厚0.6cmを測る。柁目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。井戸2より出土。15世紀。

7は漆器碗である。平底の底部より体部が内弯気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。高台は逆台形に低く削り出す。内外面は黒漆を塗った後、赤漆で木の絵を描く。復原口径15.0cm、器高5.3cm、復原底径7.2cmを測る。材は針葉樹と考えられる。井戸3より出土。13～14世紀。

8は漆器碗である。口縁端部が内弯気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終る。口縁部内外面に黒漆を塗った後、上に赤漆を塗る。口縁端部は黒漆で終る。復原口径13.1cm、残存高1.6cmを測る。材は針葉樹と考えられる。井戸3より出土。13～14世紀。

9は用途不明板である。側縁の2縁を欠損する。1側縁に2ヶ1対の小孔を3ヶ所に穿つ。孔内には板の榫が残る。表面には黒漆を塗る。また、刃物痕が無数に残る。残存長14.2cm、残存幅13.5cm、最大厚0.3cmを測る。柁目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。井戸3より出土。13～14世紀。

石製品(第31図)

石製品は弥生時代～中世に至る時期のものが出土した。磨製石器と打製石器がある。遺構と遺物包含層より出土した。

1～3は石彫丁である。完形になるものはないが、全体を研磨する。3は斜めに切りとった二次加工が認められる。1は残存長4.2cm、残存幅4.4cm、最大厚0.5cm、2は残存長3.2cm、残存幅3.1cm、最大厚0.4cm、3は残存長5.5cm、最大幅4.6cm、最大厚0.5cmを測る。1・2は遺物包含層、3は溝1より出土。弥生時代中期。

4・5は砥石である。長方形を呈する。4面を使用しており、磨り減りが著しく認められる。4は残存長4.8cm、最大幅3.6cm、最大厚1.3cmを測る。井戸4より出土。15世紀。5は全長25.7cm、最大幅16.3cm、最大厚7.5cmを測る。溝10より出土。5世紀後半。

6は用途不明の石製品である。約半を欠損するが、全周を研磨する。残存長8.2cm、残存幅4.2cm、残存厚1.6cmを測る。遺物包含層より出土。時期不明。

7・8は滑石製の白玉である。両小口を平坦に削り、円周部を丸く研磨する。身の中央に小孔を1孔穿つ。7は径0.7cm、最大厚0.6cm、8は径0.5cm、残存厚0.3cmを測る。遺物包含層より出土。古墳時代。

9・10は打製の石鏃である。9は先端部は欠損する。9は平基式、10は凸基有基式である。9は残存長2.4cm、最大幅1.1cm、最大厚0.4cm、10は全長4.0cm、最大幅1.5cm、最大厚0.5cmを測る。遺物包含層より出土。弥生時代中期。

11は先端部を欠損するが石錐である。残存長4.6cm、最大幅2.2cm、最大厚1.5cmを測る。遺物包含層より出土。弥生時代中期。

12は石小刀である。J字形を呈する。全長8.5cm、最大幅1.8cm、最大厚0.8cmを測る。遺物包含層より出土。弥生時代中期。

13は不定形石器である。木葉状を呈し、部分的に細部調整する。全長5.5cm、最大幅3.1cm、最大厚0.6cmを測る。遺物包含層より出土。弥生時代中期。

金属製品(第31図)

金属製品は銭貨と鉄釘がある。

14は銭貨である。紹聖元宝。北宋銭であり、初鑄造は紹聖元年(1094年)である。外径24mm、郭丸6mm、厚さ1mm、重さ2.7gを測る。遺物包含層より出土。

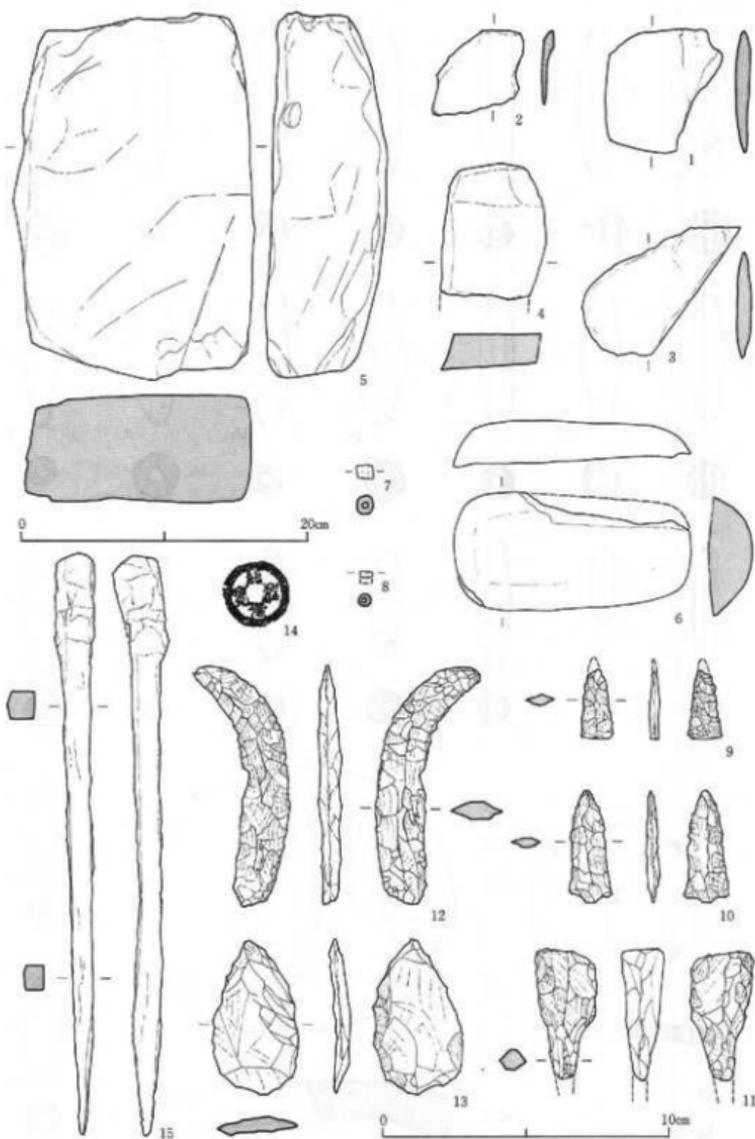
15は鉄釘である。上部がやや瘤状を呈し、先端に向かって細く尖る。横断面が方形を呈する。全長20.6cmを測る。遺物包含層より出土。詳細な時期は不明であるが中世と考えられる。

土製品(第32図)

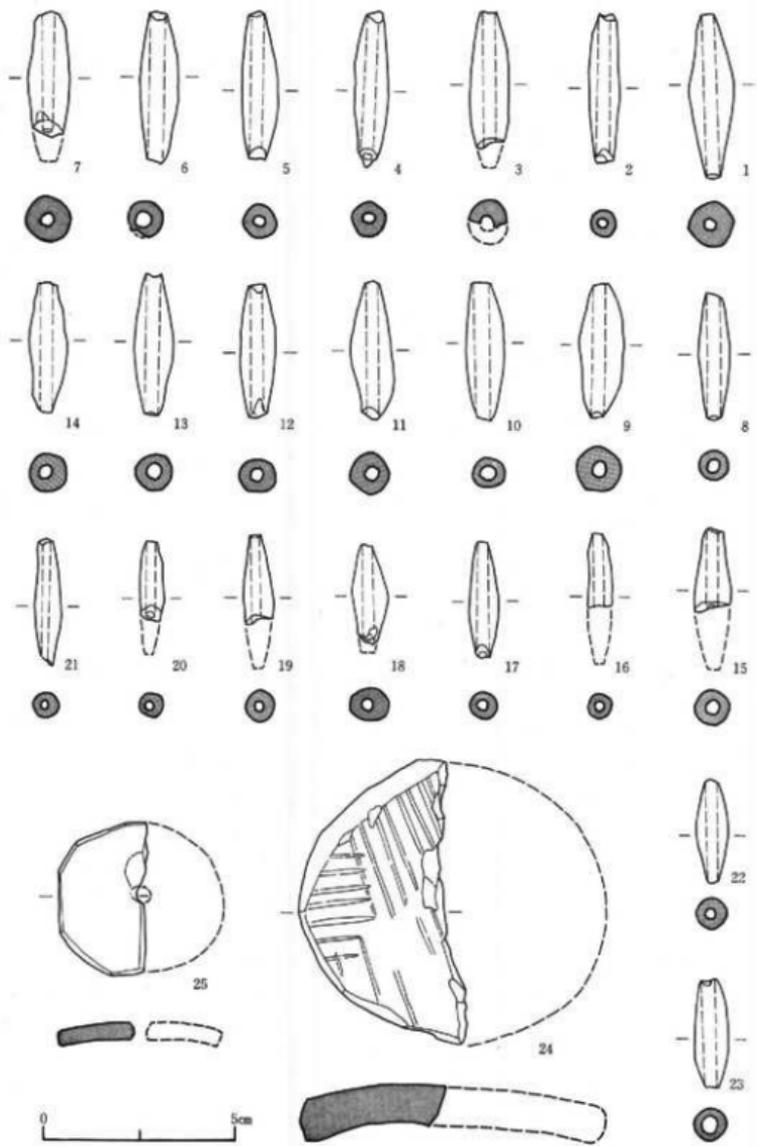
土製品は土鍾、円板状土製品、紡錘車がある。土鍾は多量に出土した。

1～23は土鍾である。両小口で径が最も小さく、中央部に最大径を有する。長軸に小孔を貫通させる。時期に中世である。詳細については表2に記す。

24は円板状土製品である。瓦を転用しており、円周部を研磨する。最大径7.5cm、最大厚1.1



第31图 石製品・金属製品実測図



第32图 土製品実測図

第2表 土鍾一覧表

番号	出土地	全長 (cm)	最大径 (cm)	孔径 (mm)	重量 (g)	残存状況	胎土・色調
1	遺物包含層	4.5	1.2	2	4.6	一部欠損	精良・淡褐色
2	遺物包含層	4.0	0.8	3	2.8	一部欠損	砂粒を含む・淡赤灰色
3	遺物包含層	3.7	1.0	3	2.4	裏の約1/4欠損	精良・灰褐色
4	遺物包含層	4.2	0.9	2	3.8	一部欠損	砂粒を含む・桃灰色
5	遺物包含層	3.9	1.0	3	3.4	一部欠損	砂粒を含む・淡赤灰色
6	遺物包含層	4.0	1.0	2	3.5	完形	精良・淡灰桃色
7	井戸 1	3.4	1.1	2	3.9	一部欠損	精良・淡灰橙色
8	遺物包含層	3.3	0.8	3	1.8	完形	砂粒を含む・淡赤灰色
9	遺物包含層	3.6	1.2	3	4.1	完形	精良・淡灰橙色
10	遺物包含層	3.6	1.0	4	3.3	一部欠損	砂粒を含む・淡赤灰色
11	遺物包含層	3.7	1.1	3	3.7	一部欠損	精良・明灰赤色
12	遺物包含層	3.6	0.9	3	3.0	一部欠損	精良・灰赤色
13	遺物包含層	3.9	1.0	4	3.0	一部欠損	極めて精良・橙灰色
14	遺物包含層	3.5	1.0	3	3.0	一部欠損	砂粒を含む・暗橙灰色
15	遺物包含層	1.9	0.9	3	1.6	約1/4欠損	精良・明赤灰色
16	井戸 2	2.0	0.6	2	0.8	約1/4欠損	精良・橙褐色
17	遺物包含層	3.0	0.7	2	1.8	一部欠損	精良・暗赤褐色
18	遺物包含層	2.6	0.9	2	1.4	一部欠損	精良・桃褐色
19	土塚 1	2.3	0.8	2	1.2	約1/4欠損	極めて精良・明橙褐色
20	井戸 4	2.1	0.6	2	1.0	約1/4欠損	砂粒を含む・暗灰橙色
21	土塚 1	3.4	0.7	2	1.4	一部欠損	精良・赤褐色
22	遺物包含層	2.8	0.8	2	1.7	完形	砂粒を含む・明茶灰色
23	遺物包含層	2.8	0.9	4	1.9	一部欠損	精良・明橙灰色

cmを測る。遺物包含層より出土。詳細な時期は不明であるが中世と考えられる。

25は紡錘車である。土器を転用する。円周部は打ち欠いた後、研磨する。中央には小孔を穿つ。最大径2.0cm、最大厚0.4cmを測る。遺物包含層より出土。弥生時代中期。

瓦(第33図)

瓦は軒丸瓦、平瓦、丸瓦が出土した。

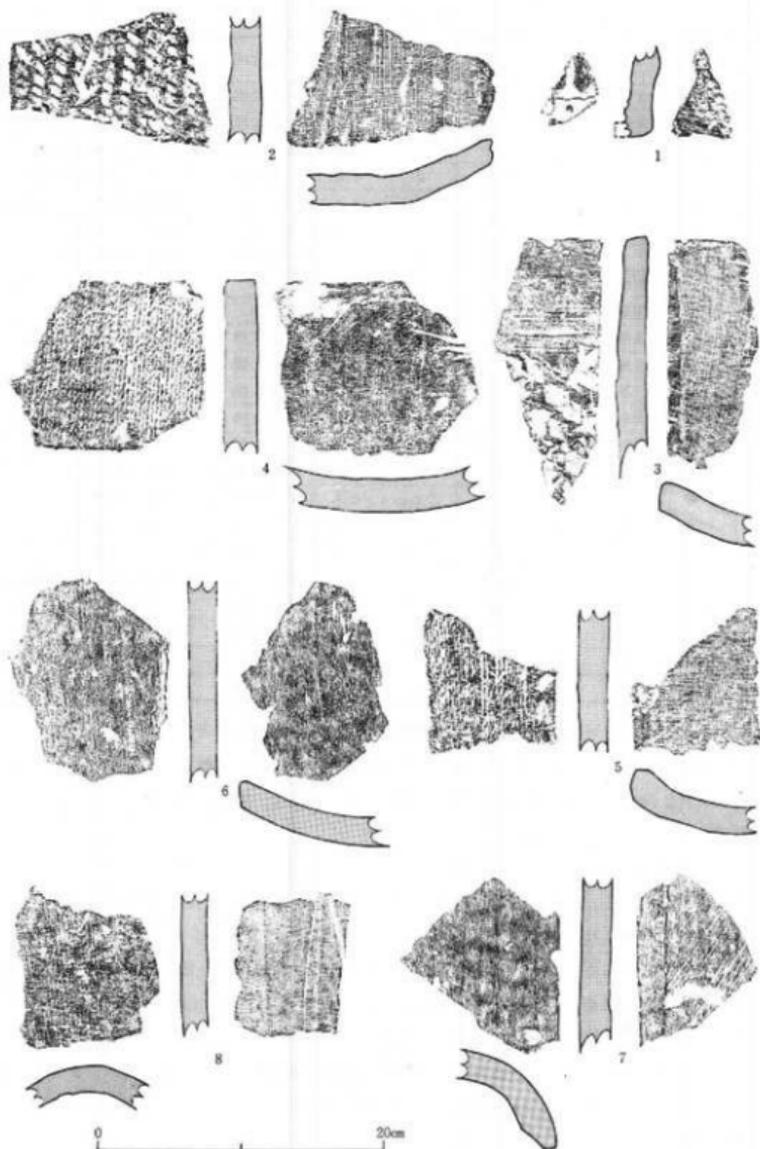
1は軒丸瓦である。内区は蓮弁文を施し、外区に珠文を配する。内区と外区の境に間線を有する。遺物包含層より出土。

2～6は平瓦である。2・3は凸面を斜格子のタタキ、凹面は布圧痕を残す。4・5は凸面を縄目のタタキ、凹面は布圧痕を残す。6は凸面をヘラケズリ、凹面は布圧痕をナゲ消す。2・6は遺物包含層、3は土塚4、4・5は土塚2より出土。

7・8は丸瓦である。7は凸面をナゲ、凹面は布圧痕を残す。8は凸面を縄目のタタキの後ナゲ、凹面は布圧痕を残す。7・8は遺物包含層より出土。

動物遺体(図版50)

動物遺体は鹿の角がある。井戸2より出土。



第33圖 瓦拓影

IV. 第29次調査概要

調査の方法は盛土約0.2mを機械掘削し、下層を人力掘削で精査した。地区割は建設省告示による第Ⅵ座標系を利用した。

1. 層位

断面実測は東壁でこなった。以下、確認した土層を記す。

第1層 盛土。層厚10～20cm。

第2層 旧耕土。層厚10～20cm。

第3層 黒褐色(10YR 5/2)シルトに褐色(10YR 4/2)シルトがブロック状に混じる層。小礫を少量、植物遺体を微量含む。北側で欠層となる。層厚10～15cm。弥生時代～中世の遺物包含層。

第4層 にぶい黄褐色(10YR 5/3)シルトに褐色(10YR 4/2)シルトがブロック状に混じる層。小礫を少量含む。北側で欠層となる。層厚10～15cm。弥生時代～中世の遺構面。

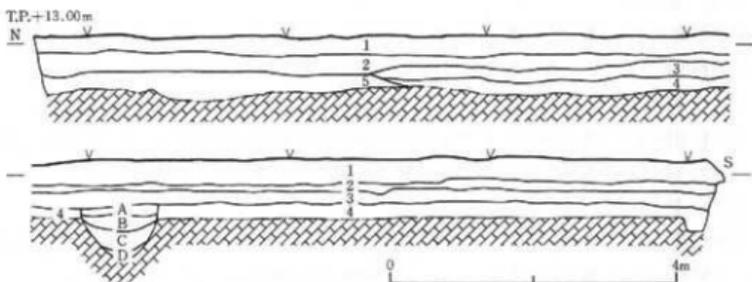
第5層 黒褐色(10YR 5/2)シルトに褐色(10YR 4/2)シルトがブロック状に混じる層。上層に中礫を少量、大礫を微量含む。層厚30cm以上。弥生時代～中世の遺構面。

A層 褐色(10YR 4/2)シルト層。中礫と植物遺体を微量含む。土壇1内の堆積土。層厚5～10cm。平安時代の遺物を含む。

B層 暗褐色(10YR 3/2)シルト層。小礫と炭化物を微量含む。土壇1内の堆積土。層厚5～10cm。平安時代の遺物を含む。

C層 暗褐色(10YR 3/2)シルト質粘土層。小礫、中礫、炭化物を微量含む。土壇1内の堆積土。層厚20cm。平安時代の遺物を含む。

D層 黒褐色(10YR 3/2)粘土層。小礫を微量含む。土壇1内の堆積土。層厚5cm。平安時代の遺物を含む。



第34図 東壁断面実測図

2. 遺構

削平及び攪乱を受けている所が多いが、弥生時代～近世の遺構を確認した。土壇10、落ち込み2、溝3、土壇墓1、ピット11がある。

土壇1(第35図)

東肩の約4mが調査地外にある。円形を呈する土壇と考えられる。径1.4m、深さ0.7mを測る。土壇内より土師器羽釜、瓦器椀などが出土した。土壇の時期は出土遺物より11～12世紀と考えられる。

土壇2(第35図)

円形を呈する土壇である。溝1を切る。径0.8m、深さ0.1mを測る。土壇内より土師器が出土した。土壇の時期は出土遺物より中世と考えられる。

土壇3(第35図)

楕円形を呈する土壇である。長径1.1m、短径0.9m、深さ0.4mを測る。土壇内より遺物が出土しなかったので詳細な時期は不明である。

土壇4(第35図)

南肩が調査地外にある。隅丸方形か隅丸長方形を呈する土壇と考えられる。1辺1.7m、深さ0.1mを測る。土壇内より土師器、瓦器などが出土した。土壇の時期は出土遺物より12～14世紀と考えられる。

土壇5(第35図)

不整形を呈する土壇である。長径2.0m、短径1.6m、深さ0.1mを測る。土壇内より須恵器、土師器、瓦器、磁器などが出土した。土壇の時期は出土遺物より12～14世紀と考えられる。

土壇6(第35図)

北肩が調査地外にある。楕円形を呈すると考えられる土壇である。長径0.9m以上、短径0.8m、深さ0.1mを測る。土壇内より須恵器、土師器、瓦器などが出土した。土壇の時期は出土遺物より12～14世紀と考えられる。

土壇7(第35図)

北肩が調査地外にあり、形状は不明の土壇である。径0.6m以上、深さ0.3mを測る。土壇内より遺物が出土しなかったので詳細な時期は不明である。

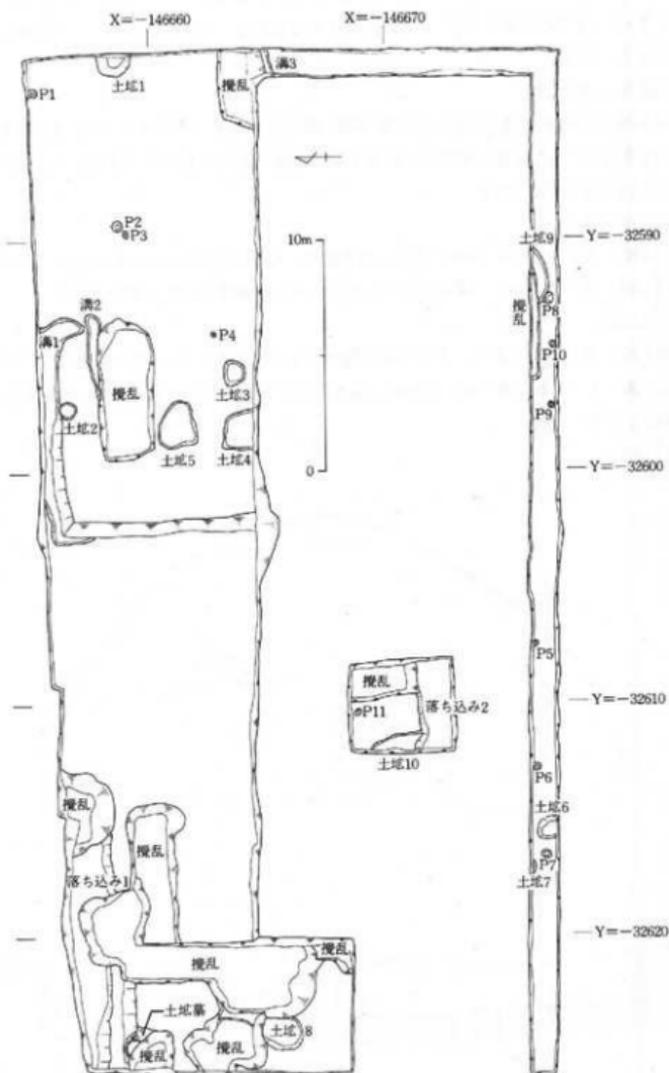
土壇8(第35図)

北東肩が攪乱を受けているが、円形を呈する土壇と考えられる。径1.6m、深さ0.2mを測る。土壇内より弥生土器が出土した。土壇の時期は出土遺物より弥生時代中期と考えられる。

土壇9(第35図)

北肩が調査地外にあり、形状は不明の土壇である。径2.4m以上、深さ0.2mを測る。土壇内より土師器、弥生土器などが出土した。土壇の時期は出土遺物より中世と考えられる。

土壇10(第35図)



第35図 遺構実測図

南肩は落ち込み2に切れ、西肩は調査地外にある。形状は不明の土壇である。径2.1m以上、深さ0.1mを測る土壇である。土壇内より土師器高杯などが出土した。土壇の時期は5世紀後半と考えられる。

落ち込み1(第35図)

北肩と西肩が調査地外にあり、形状は不明の落ち込みである。深さ0.3mを測る。落ち込み内より須恵器杯、土師器皿、瓦器椀、製塩土器、土錘などが出土した。落ち込みの時期は出土遺物より13世紀と考えられる。

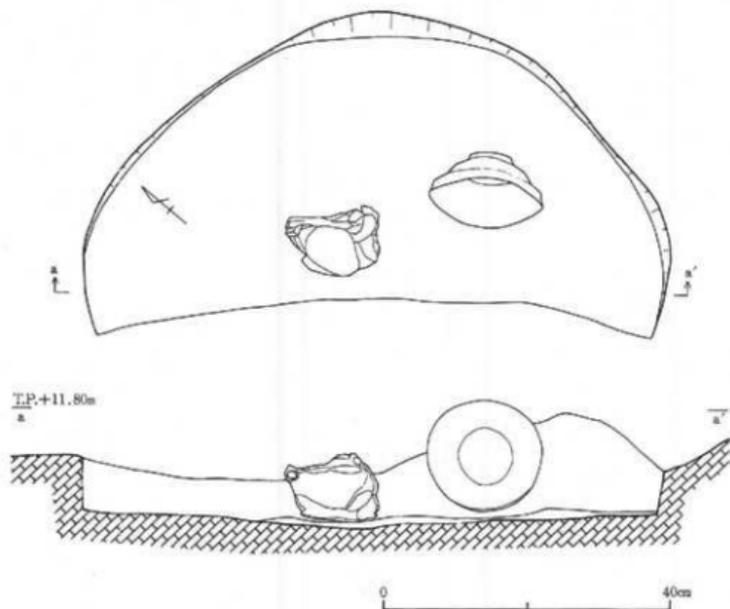
落ち込み2(第35図)

東肩は攪乱を受けており、南肩と西肩が調査地外にある。形状は不明の落ち込みである。深さ0.3mを測る。落ち込み内より遺物は出土しなかったので詳細な時期は不明である。

溝1(第35図)

東西方向に伸びる溝であり、北肩が調査地外にある。全長9.9m、幅0.8m以上、深さ0.4mを測る。溝内より瓦器羽釜・椀、土師器、須恵器などが出土した。溝の時期は出土遺物より13～14世紀と考えられる。

溝2(第35図)



第36図 土壇基実測図

東西方向に伸びる溝であり、南肩が擾乱を受ける。幅0.6m、深さ0.1mを測る。溝内より遺物は出土しなかったので詳細な時期は不明である。

溝3(第35図)

東西方向に伸びる溝である。北肩が擾乱を受ける。第28次調査の溝7の続きと考えられる。幅0.3m以上、深さ0.4mを測る。溝内より弥生土器が出土した。溝の時期は出土遺物より弥生時代中期と考えられる。

土塚墓(第36図)

楕円形を呈すると考えられる土塚墓である。南西部約45度は擾乱を受ける。上面は削平を受けており頭骨の一部が残る。頭位は北東である。長さ0.4m以上、幅0.8m、深さ0.1mを測る。頭骨東より供献土器と考えられる白磁碗が出土した。土塚墓の時期は出土遺物より13世紀と考えられる。

ピット(第35図)

円形、楕円形を呈するピット1～11がある。径0.2～0.3m、深さ0.1～0.3mを測る。ピット8～11より土師器、須恵器、瓦器などが出土した。ピットの時期は中世と考えられる。

3. 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は弥生時代～中世に至る時期のものがある。遺物は土塚、土塚墓などの遺構と遺物包含層より出土した。遺物は土器と土製品がある。土器は各遺構と遺物包含層に分けて説明を記す。土製品はまとめて説明を記す。

土器

土塚10(第37図)

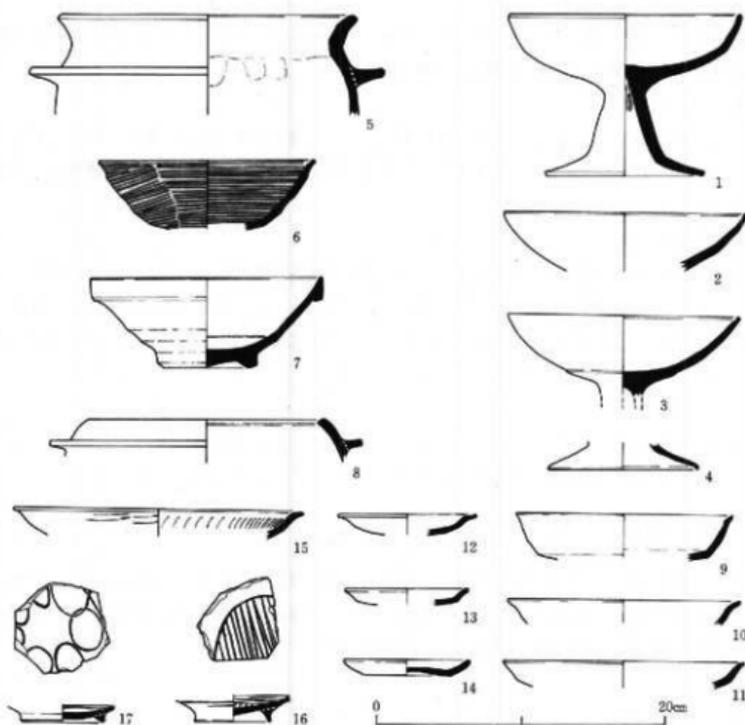
古墳時代の土師器が出土した。高杯の器種がある。1は杯が浅い碗状を呈する。体部が内弯気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。脚部は柱状部が裾広がりになり、裾部でさらに広がる。裾端部は面をもつ。体部と脚部の内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。2・3は体部が内弯気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は内側へ肥厚する。体部下半の外面に段がつく。風化が著しく調整法は不明。4は内弯気味に裾部が立ち上がる。裾端部は内側へやや肥厚する。内外面はヨコナデ調整する。1～4は生駒西麓産。

土塚1(第37図)

中世の土師器と黒色土器が出土した。

土師器 土師器は羽釜の器種がある。5は羽釜である。やや張る体部より口縁部が大きく外反する。口縁端部は面をもつ。鋳はやや外上方へ伸び、端部が丸く終る。体部内外面はナデ調整、口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。

黒色土器 黒色土器は碗の器種がある。6は碗である。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終り、沈線を施す。内外面は密なヘラミガキ調整する。外面は分割のヘラミガキ。内外面は黒色を呈する。



第37図 土埴10・1、土埴墓、溝1、落ち込み1出土土器実測図

土埴墓(第37図)

中世の磁器が出土した。磁器は白磁の椀がある。7は椀である。体部が外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は幅広の玉縁状を呈する。底部は断面形が台形を呈する高台を削り出す。体部外面の下半は回転ヘラケズリ調整、他はロクロナデ調整する。口縁部から体部上半の外面と内面は施釉する。釉は乳灰色を呈する。

溝1(第37図)

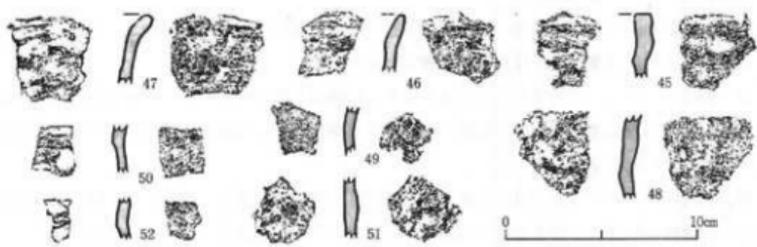
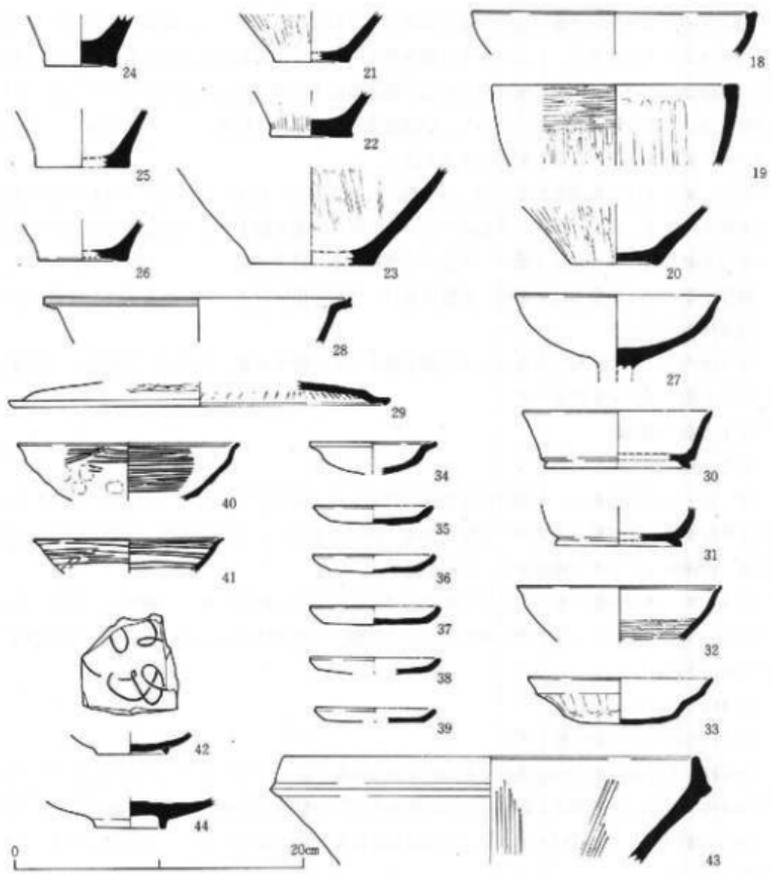
中世の瓦器が出土した。瓦器は羽釜の器種がある。8は羽釜である。口縁部が内弯し、口縁端部が面をもつ。銜は水平方向に伸び、端部が面をもつ。内外面はヨコナデ調整する。

落ち込み1(第37・38図)

奈良時代以降の須恵器、土師器、瓦器、製塩土器が出土した。

須恵器 須恵器は杯の器種がある。9は杯である。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は尖り気味に終る。内外面は回転ナデ調整する。

土師器 土師器は皿の器種がある。10～15は皿である。10・11・15は大皿であり、12～14は



第38図 落ち込み1、包含層出土土器実測・製塩土器拓影

小皿である。10～13は平底に近い丸底の底部より口縁部が外反する。口縁端部は丸く終る。内外面はヨコナデ調整する。13はやや上げ底を呈する底部より口縁部が内弯気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。15は口縁部がゆるく外反し、口縁端部が丸く終る。外面はヘラミガキ調整、内面はヨコナデ調整する。内面に放射状の暗文を施す。

瓦器 瓦器は椀の器種がある。16・17は椀の底部である。16は断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。高台は高い。見込みにジグザグ状の暗文を施す。17は断面形が逆台形を呈する高台を貼り付ける。高台は低い。見込みに連結輪状の暗文を施す。

製塩土器 51は製塩土器である。器壁は厚い。体部外面は指オサエ、内面はナデ調整する。

包含層出土の土器

包含層内より弥生時代～中世に至る土器が出土した。弥生土器、古墳時代の土器、奈良時代以降の土器に分けて説明を記す。

弥生土器(第38図)

弥生土器は鉢と底部がある。

鉢 18・19は鉢である。体部が内弯気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は面をもつ。

18は風化が著しく調整法は不明。生駒西麓産。19は外面をヘラミガキ調整、内面の体部をナデ調整、口縁部をヨコナデ調整する。生駒西麓産。

底部 20～26は底部である。平底かやや上げ底を呈する。風化が著しく調整法が不明なものが多い。体部内外面はヘラミガキ調整、ハケメ調整、ナデ調整する。20・22～26は生駒西麓産。21は非河内産。

古墳時代の土器(第38図)

古墳時代の土器は土師器がある。

土師器 土師器は高杯の器種がある。27・28は高杯である。27は体部が内弯気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。風化が著しく調整法は不明。生駒西麓産。28は外上方へ伸びる体部より口縁部が外折する。口縁端部は面をもつ。風化が著しく調整法は不明。非河内産。

奈良時代以降の土器(第38図)

奈良時代以降の土器は土師器、須恵器、瓦器、陶器、磁器、製塩土器が出土した。

土師器 土師器は蓋、椀、杯、皿の器種がある。

蓋 29は蓋である。天井部がやや丸味をもち、口縁部が強く外反する。口縁端部は内側へ肥厚する。天井部外面はヘラケズリ調整、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。内面に放射状の暗文を施す。

椀 32は椀である。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終り、沈線を施す。体部外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。

杯 33は杯である。平底に近い丸底の底部より体部が外反気味に立ち上がる。口縁部はゆるく外反し、口縁端部は丸く終る。体部外面は指オサエ、内面はナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産。

皿 34～39は小皿である。34は丸底の底部より口縁部が強く外反する。口縁端部は内側へやや肥厚する。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。35～39は平底に近い丸底の底部より口縁部が内弯気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終る。底部外面は指オサエ、見込みはナデ調整する。口縁部内外面はヨコナデ調整する。

須恵器 須恵器は杯の器種がある。30・31は杯である。体部が外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は丸く終る。底部は断面形が逆台形を呈する高台がつく。内外面は回転ナデ調整する。

瓦器 瓦器は碗の器種がある。40～42は碗である。40・41は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面をもち、沈線を施す。体部外面は指オサエの後、やや粗いヘラミガキ、内面はやや密なヘラミガキ調整する。42は底部である。断面形が逆三角形を呈する高台を貼り付ける。高台は低い。見込みに連結輪状の暗文を施す。

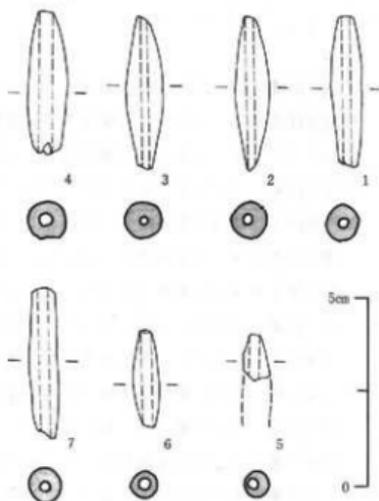
陶器 陶器は備前焼の摺鉢がある。43は摺鉢である。体部が大きく外上方へ伸び口縁部に至る。口縁端部は上方へ拡張し、幅広の面をもつ。内外面はロクロナデ調整する。内面に原体数8本のおろし目を施す。

磁器 磁器は青磁の底部がある。44は底部である。断面形が逆台形を呈する高台を削り出す。内外面はロクロナデ調整する。底部裏面から体部下半の外面と内面の見込みと体部の境は無施釉。他は施釉。釉は淡青緑色を呈する。

製塩土器 45～50・52は製塩土器である。器形の判明するものはない。器壁は厚く、体部外面は指オサエ、内面はナデ調整する。

土製品(第39図)

土製品は土鍾がある。1～7は土鍾である。両小口で径が最も小さく、中央部に最大径を有する。長軸に小孔を貫通させる。1は全長4.0cm、最大径0.8cm、重さ2.8g、2は全長4.0cm、最大径0.9cm、重さ2.9g、3は全長4.0cm、最大径1.0cm、重さ2.9g、4は残存長3.8cm、最大径1.0cm、重さ3.5g、5は残存長1.2cm、最大径0.7cm、重さ0.5g、6は全長2.5cm、最大径0.7cm、重さ1.1g、7は全長3.9cm、最大径0.8cm、重さ2.7gを測る。3・4は落ち込み1、他は遺物包含層より出土。時期は中世である。



第39図 土製品実測図

V. まとめ

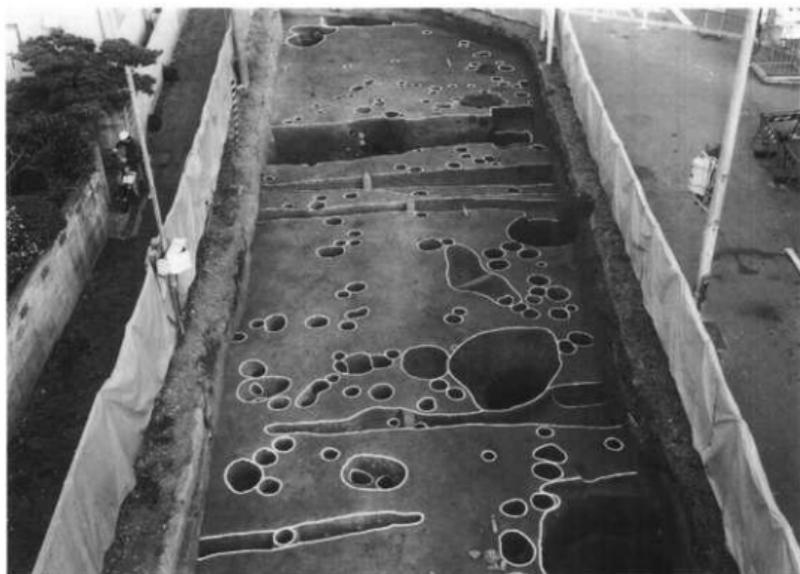
西ノ辻遺跡は今回の調査で第28・29次を数える。近年、近鉄東大阪線建設工事や第2阪奈有料道路建設工事に先だって大規模な発掘調査が実施され、当遺跡の範囲や性格が明らかになりつつある。今回、実施した発掘調査では弥生時代～室町時代に至る遺構及び遺物を検出した。調査で得られた知見を列記してまとめたい。

1. 検出した遺構は弥生時代、古墳時代、平安時代～室町時代の3時期がある。弥生時代と古墳時代の遺構は第2遺構面、平安時代～室町時代の遺構は第1遺構面で検出した。第2遺構面は第1遺構面の遺構で削平を受けていた。各時期の遺構は調査地の全域で確認されたが、特に第28次調査地に集中しており、第29次調査地は少なかった。遺構の集中度は後世の擾乱に関係なく、本来より第29次調査地は遺構の少ない地点であったと考えられる。
2. 弥生時代中期の遺構は方形にめぐる溝を検出した。方形周溝墓と考えられるが主体部は不明である。西ノ辻遺跡では第7次調査で7基、第26次調査で2基が確認されている。今回の調査で新たに2基が確認され、計11基となった。今回検出した1・2号方形周溝墓の内、2号方形周溝は中世の削平を受け、溝底が土壇状に残っていた。また、1・2号方形周溝内より弥生土器が比較的によく出土した。弥生土器は溝の上、中層に多く含まれており、第7・26次調査と同様の状況であった。今回の方形周溝墓を検出した地点と第7・26次調査地の間には当時期の谷筋が確認されており、当地点は北に位置する。今後、当遺跡の墓域を考える上で貴重な資料である。
3. 古墳時代の遺構は性格を決定できるものが少なく、不明確な土壇や溝などがあつた。遺物量は比較的多く、5世紀後半～6世紀初頭のものがある。周辺に集落等の存在が考えられる。
4. 平安時代～室町時代の遺構は多量の柱穴、井戸、土壇、溝などがあり、集落跡と考えられる。井戸は地表下4～5mのものが多く、湧水点が低かったと考えられる。また、土壇1は方形を呈し、遺物が少ないことや粘土層に掘られていることなどから粘土採掘坑と考えられる。時期は15世紀である。第29次調査地は集落関連の遺構は少ないが、13世紀の土壇墓を検出した。土壇墓の保存状態は擾乱を受けて悪いが、人骨の一部と供献土器と考えられる白磁碗1を検出した。当遺跡や周辺の神並、鬼虎川、植附、水走遺跡でも木棺墓や土壇墓が確認されており、集落内での墓制を考える上では貴重な資料である。
5. 出土遺物は弥生時代～室町時代の土器、埴輪、木製品、石製品、金属製品、土製品、瓦、動物遺体などがある。土製品の中でも中世の土鉢の出土量が多く、当遺跡の性格を考える上で貴重な資料である。

圖 版

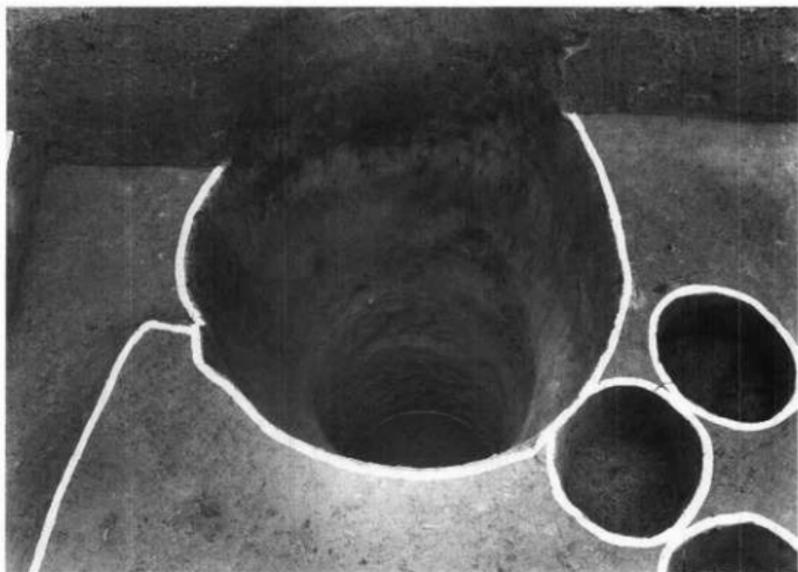


1. 遺構全景(第1遺構面)

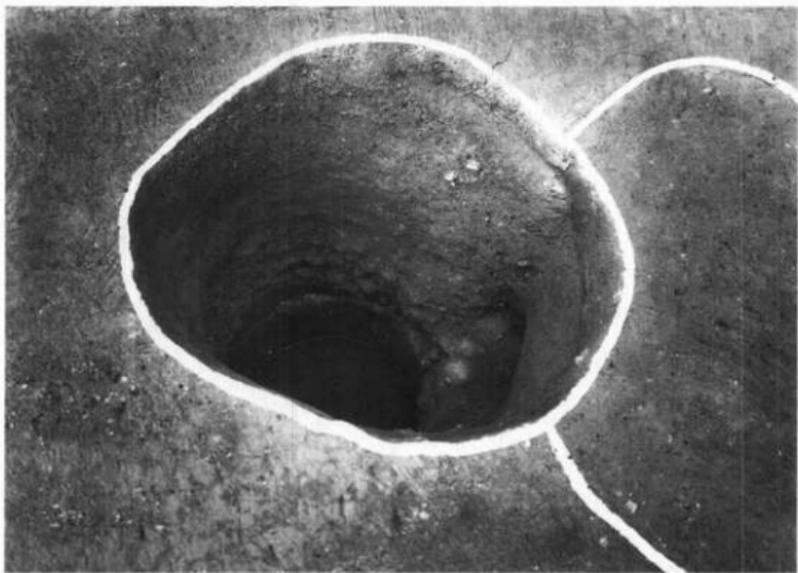


2. 遺構全景(第1遺構面)

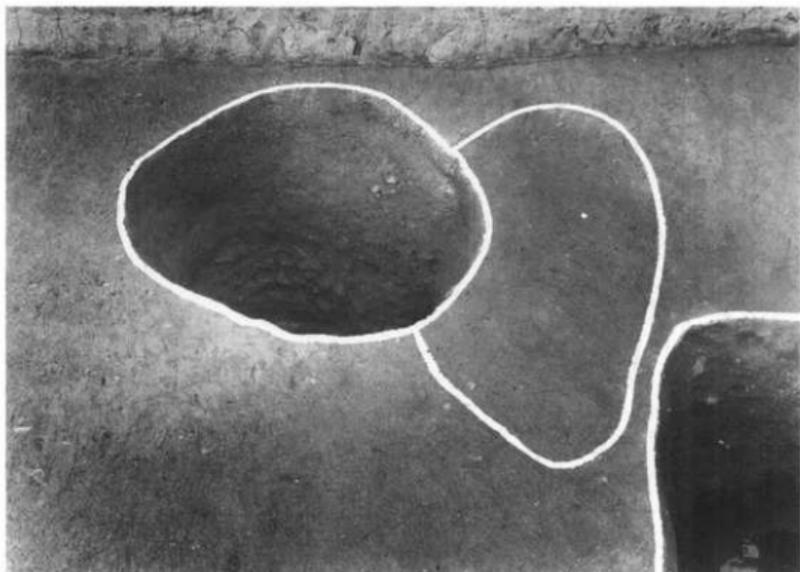
図版 2
遺構(第28次調査)



1. 井戸1



2. 井戸2

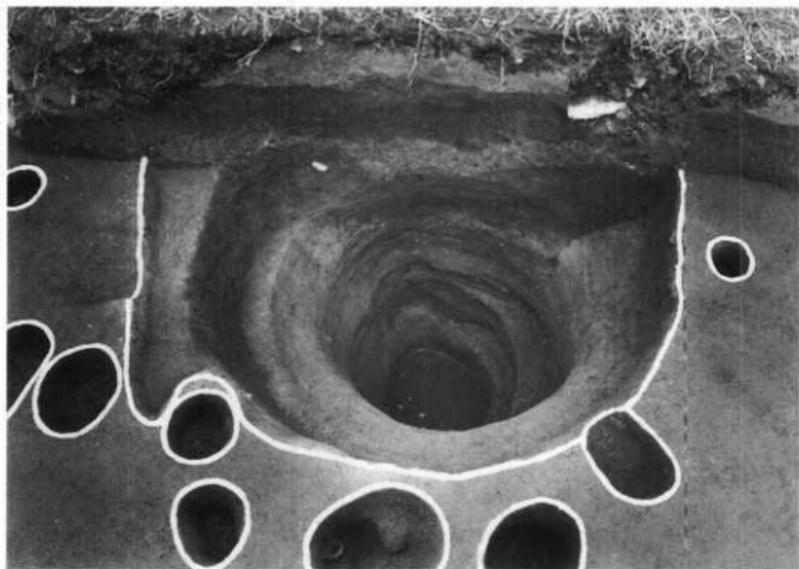


1. 井戸 2・3

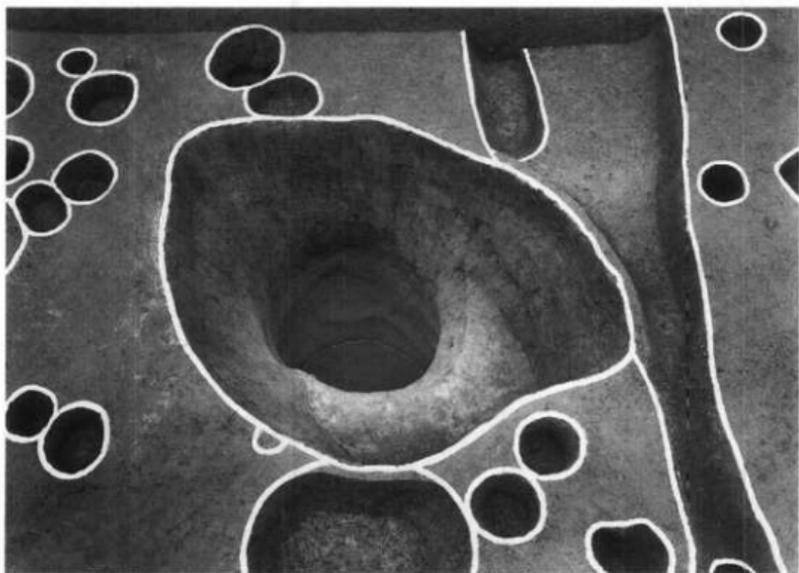


2. 井戸 2・3

図版 4
遺構(第28次調査)



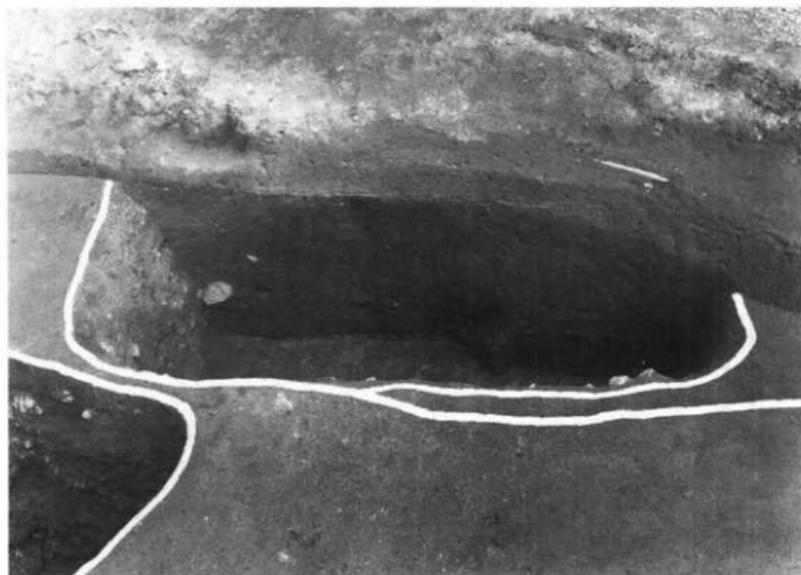
1. 井戸4



2. 井戸5



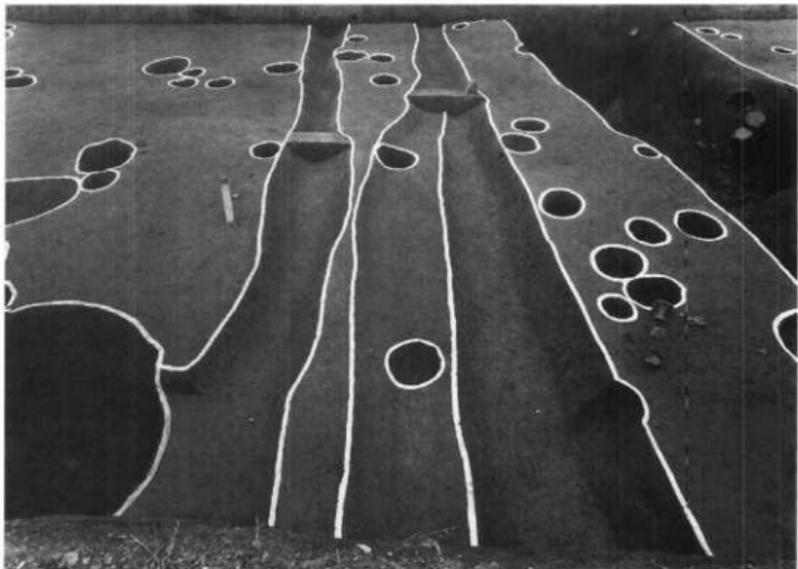
1. 土城 1



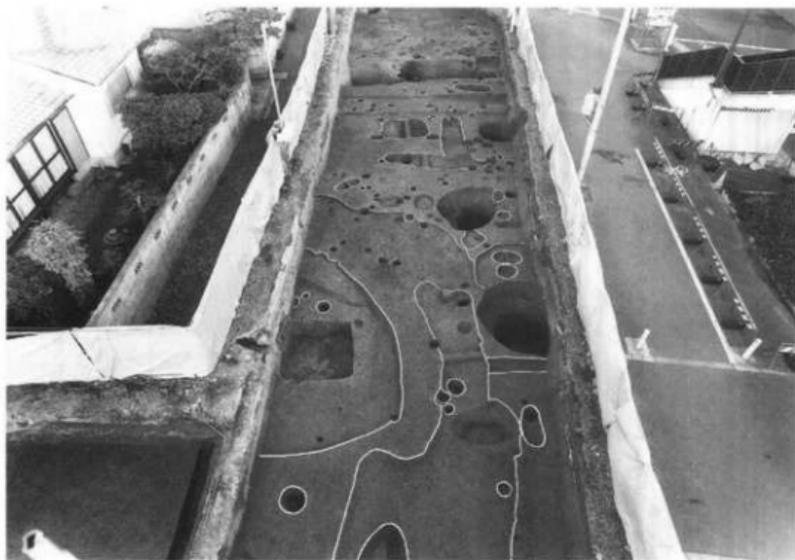
2. 土城 4



1. 土壇2、溝1



2. 溝2・3



1. 遺構全景(第2遺構面)



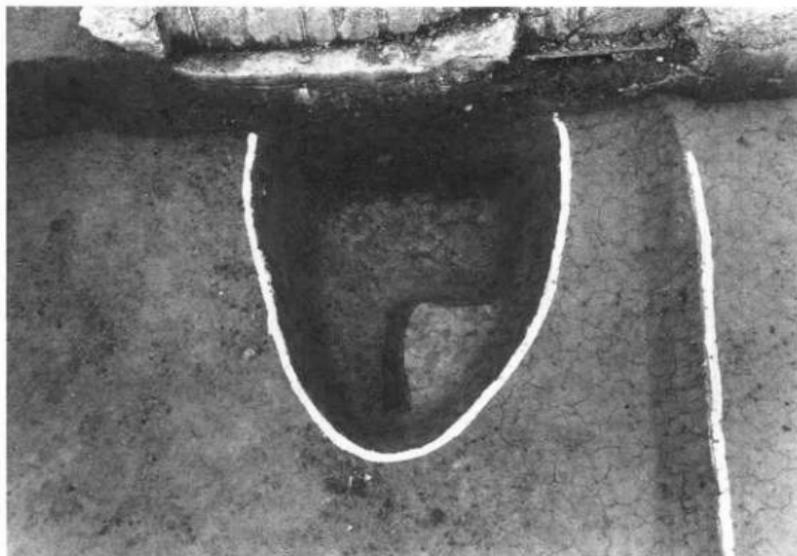
2. 溝10、土坑14



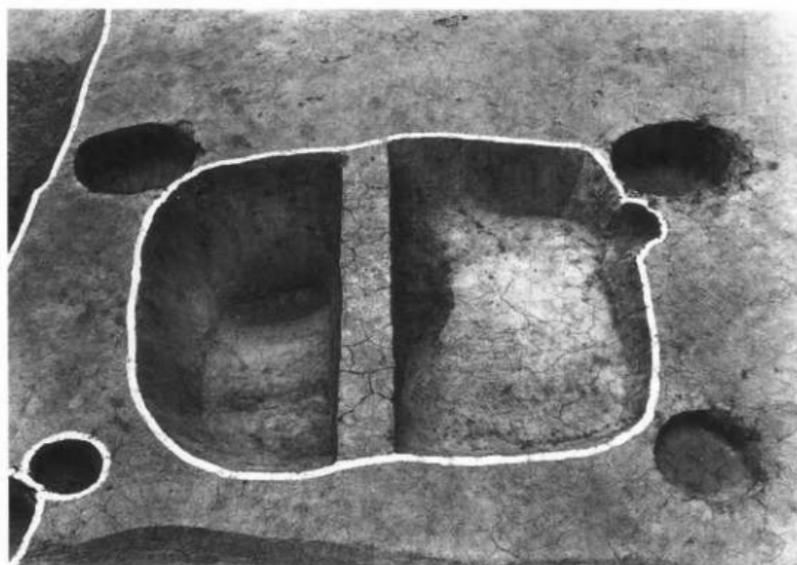
1. 溝10内土器出土状況



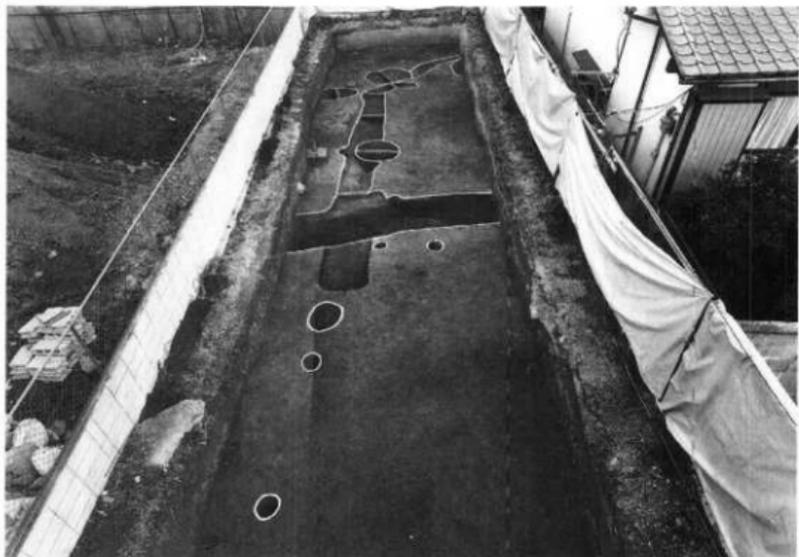
2. 溝10内土器出土状況



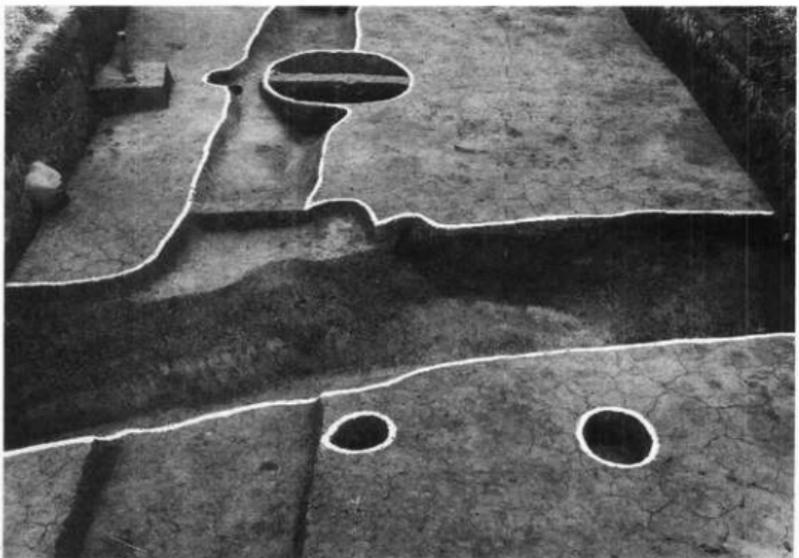
1. 土塚9



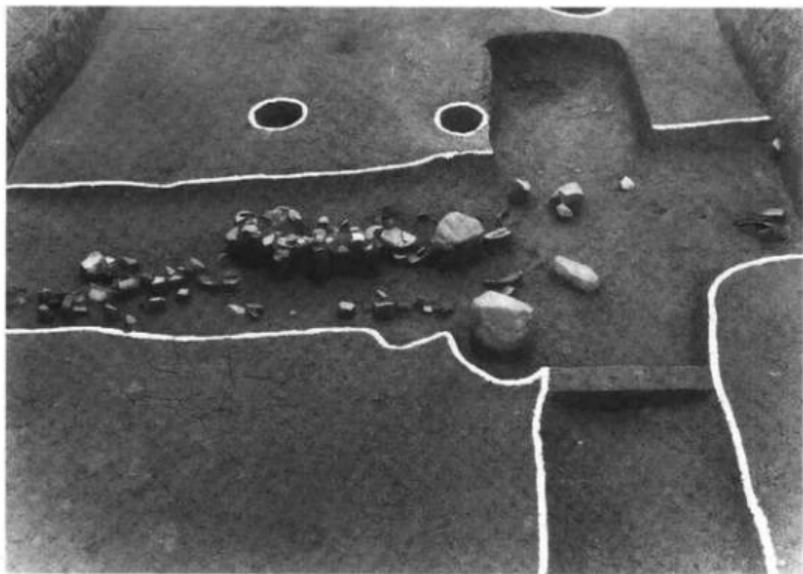
2. 土塚15



1. 1号方形形周溝墓



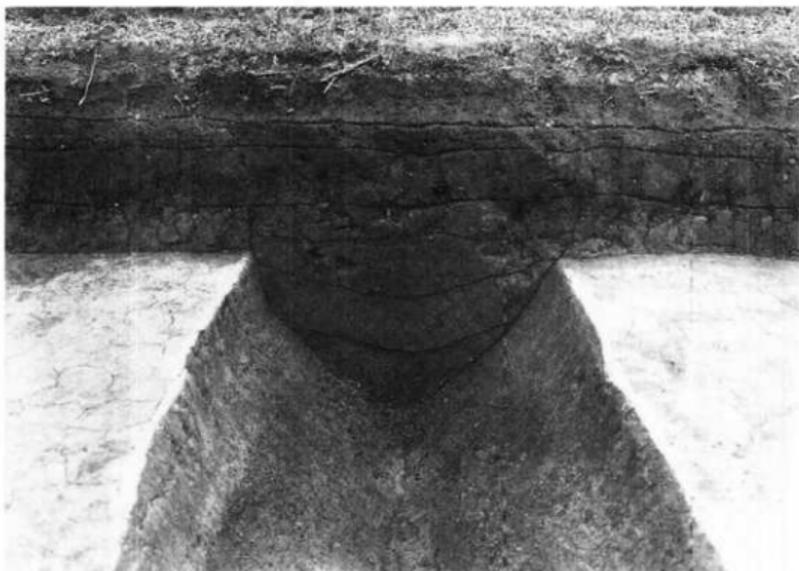
2. 1号方形周溝墓南周溝(溝7)



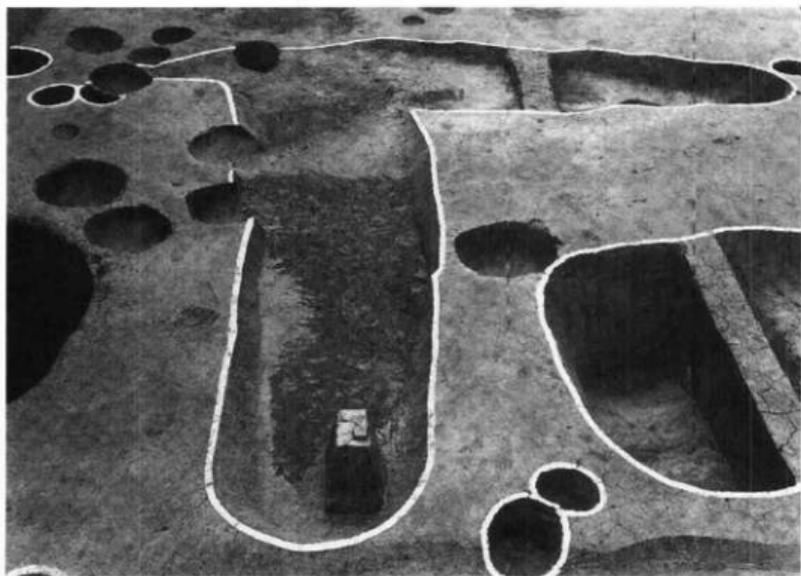
1. 1号方形周溝墓南周溝(溝7)内土器出土状況



2. 1号方形周溝墓南周溝(溝7)内土器出土状況



1. 1号方形周溝墓南周溝(溝7)東壁断面



2. 2号方形周溝墓



14



13



19



7



17



4



52



18



54



63



41



40



61



215



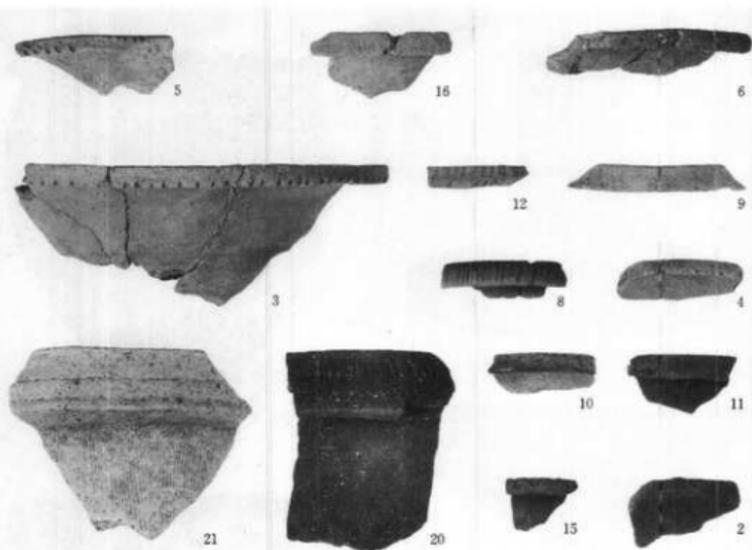
39



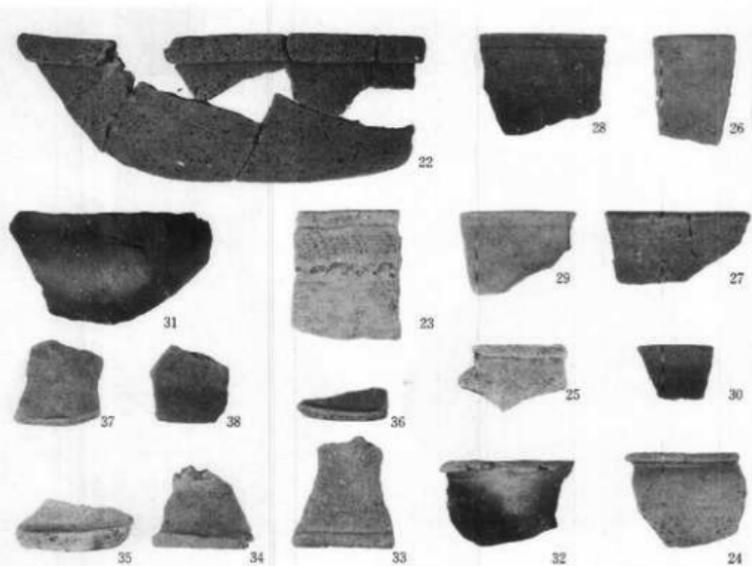
216'



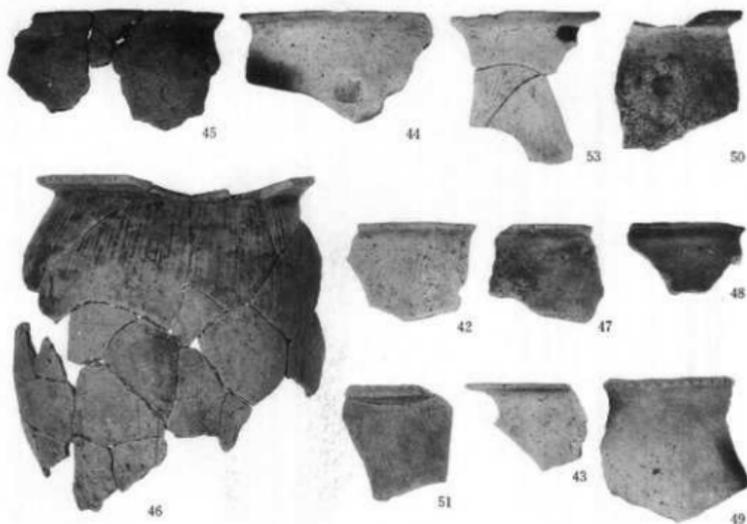
216



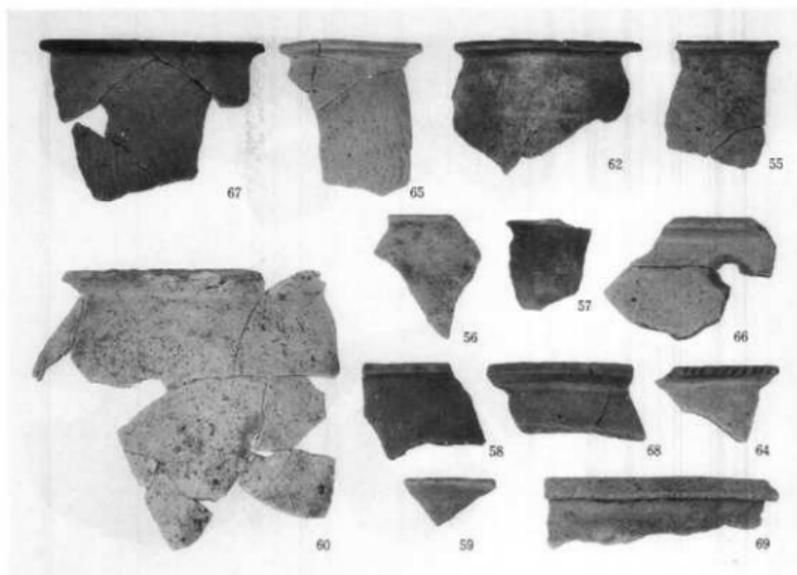
1. 1号方形周溝墓出土土器 弥生土器壺



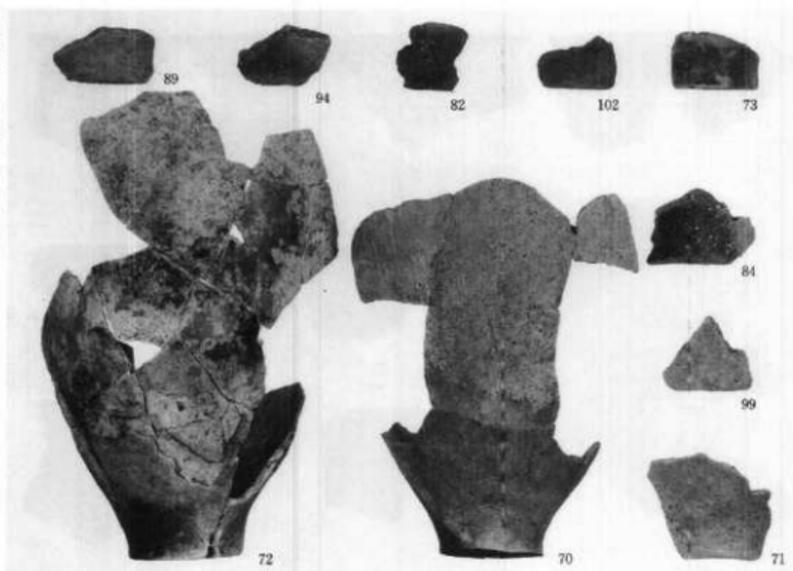
2. 1号方形周溝墓出土土器 弥生土器鉢・高杯・壺蓋・甕蓋



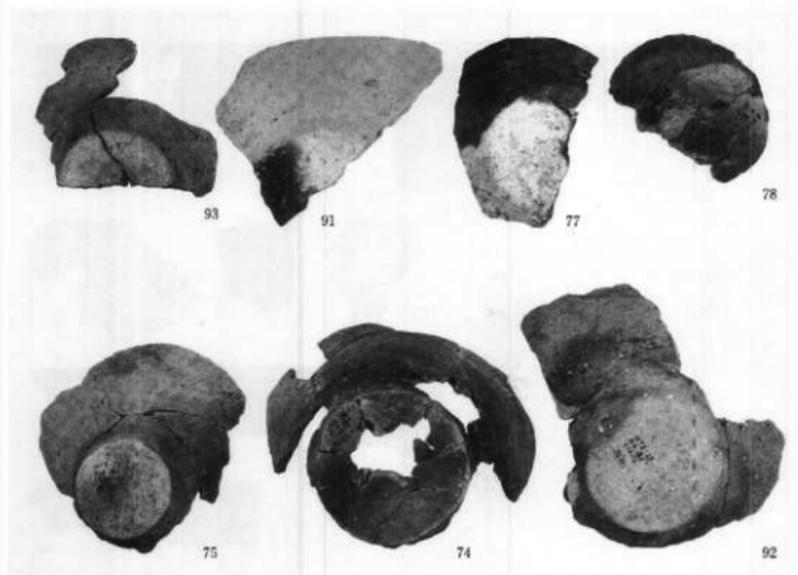
1. 1号方形周溝墓出土土器 弥生土器類



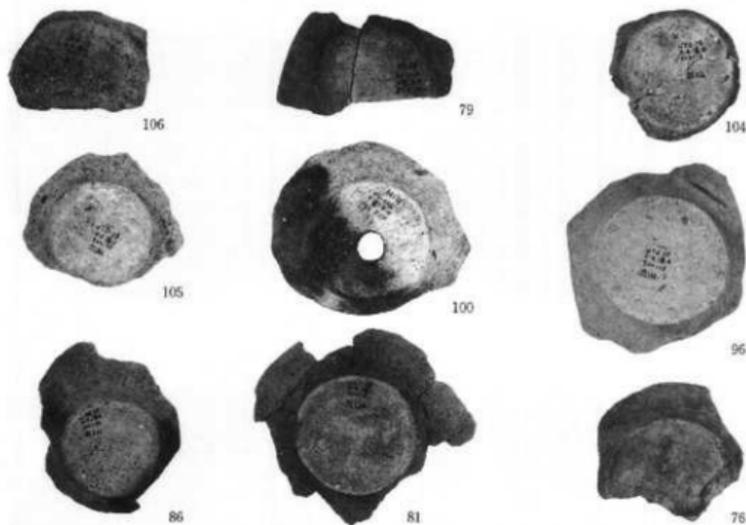
2. 1号方形周溝墓出土土器 弥生土器類



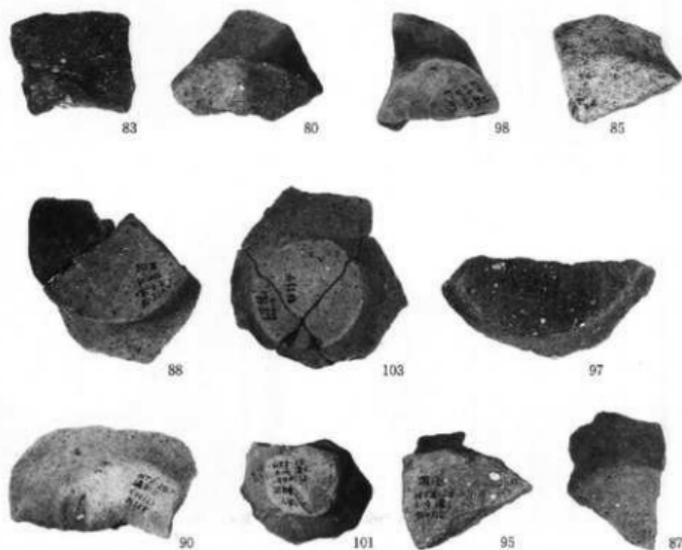
1. 1号方形周溝墓出土土器 弥生土器底部



2. 1号方形周溝墓出土土器 弥生土器底部



1. 1号方形周溝墓出土土器 弥生土器底部



2. 1号方形周溝墓出土土器 弥生土器底部



142



134



137



133



127



128



140



110



140'



118



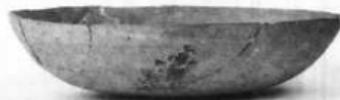
139



119



138



120



116



107



117



109



126

1. 溝10出土土器 土師器高杯、須恵器蓋



112



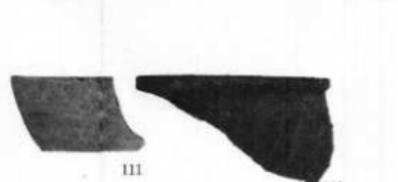
113



108



115



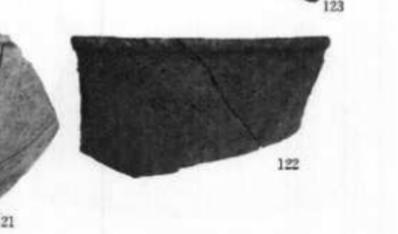
111



123

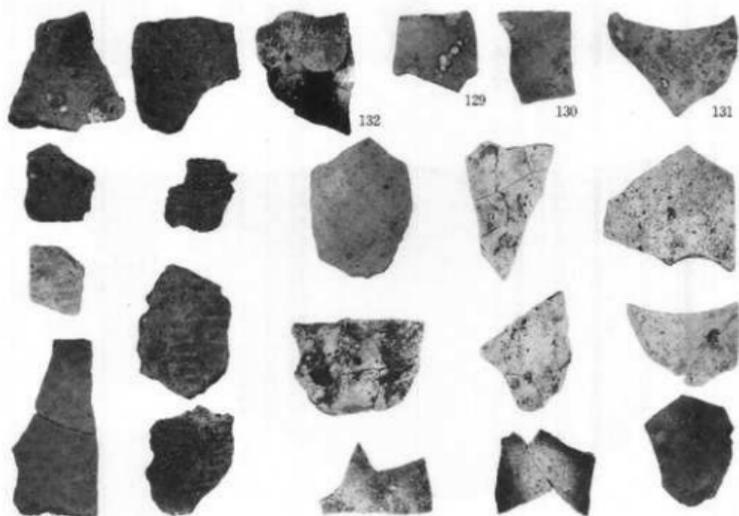


121

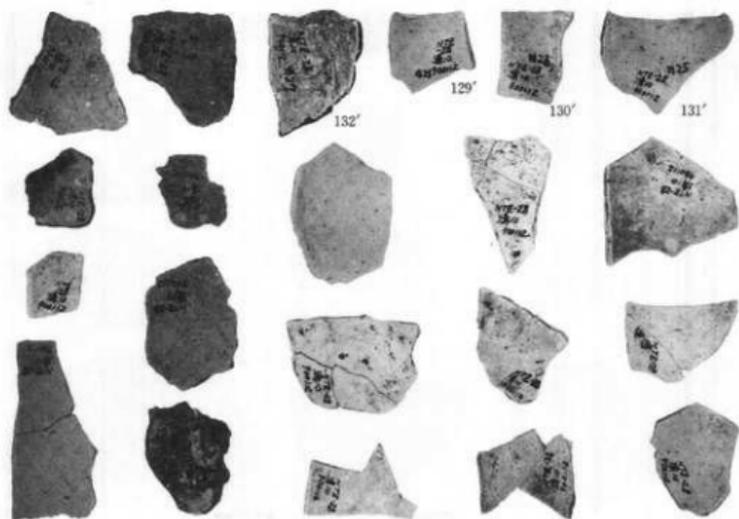


122

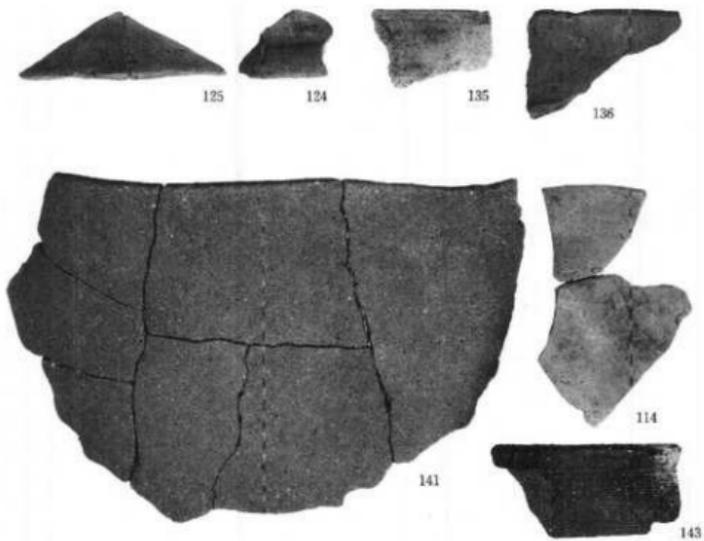
2. 溝10出土土器 土師器高杯、須恵器蓋



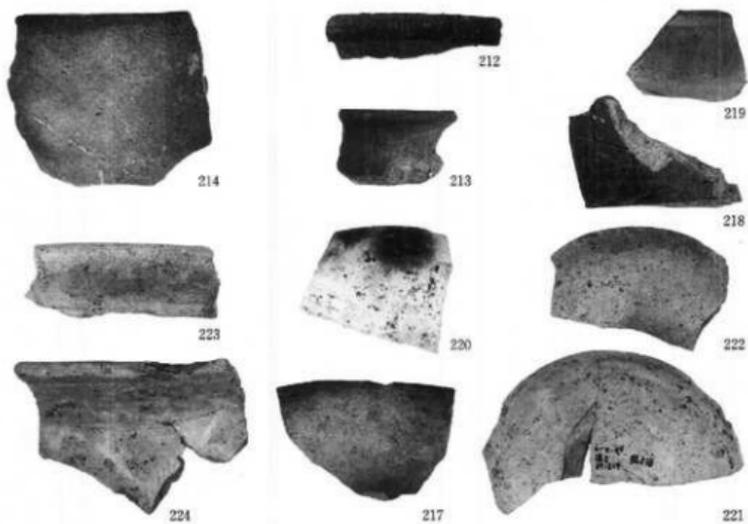
1. 溝10出土土器 製磁土器(表)



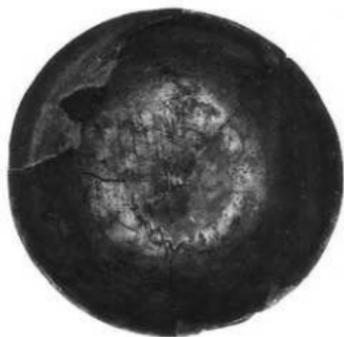
2. 溝10出土土器 製磁土器(裏)



1. 溝10出土土器 土師器高杯・甕・瓶、弥生土器鉢



2. 2号方形周溝墓、溝2出土土器 弥生土器甕・鉢・鉢、土師器皿・羽釜・甕・壺、黑色土器椀、陶器底部



174'



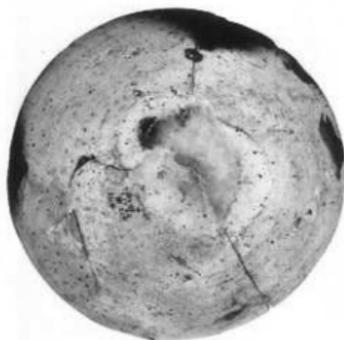
168'



174



168



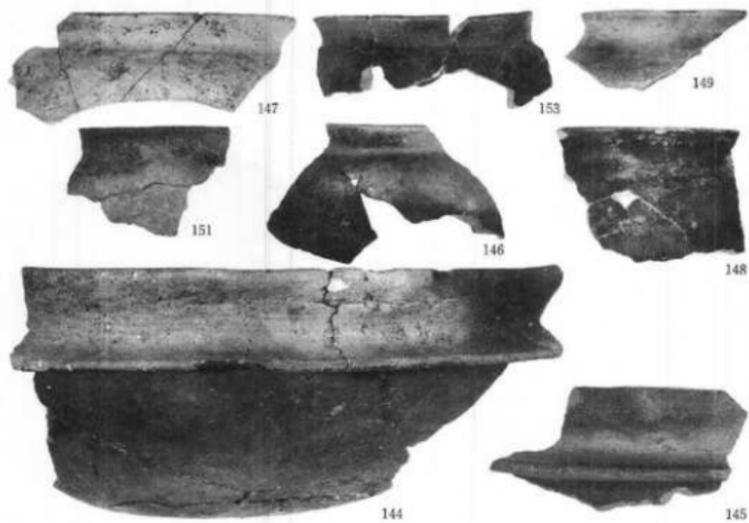
174''



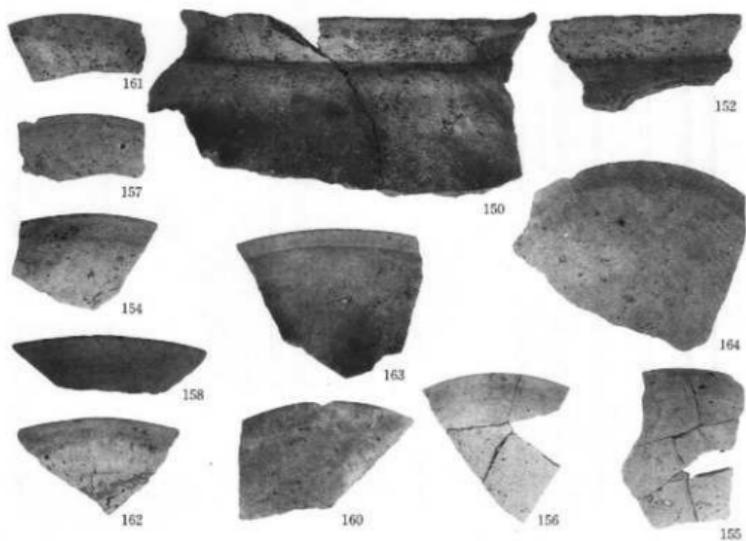
168''



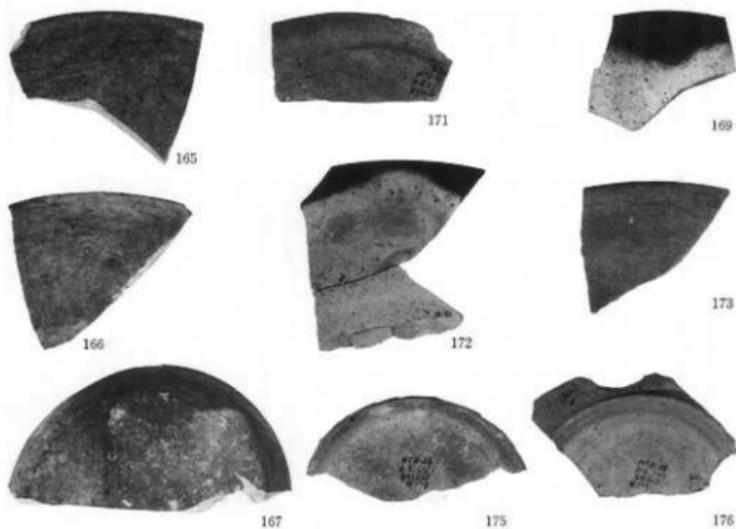
1. 溝1・2出土土器 緑釉陶器碗、土師器碗、黒色土器碗、黒書土器、瓦器皿



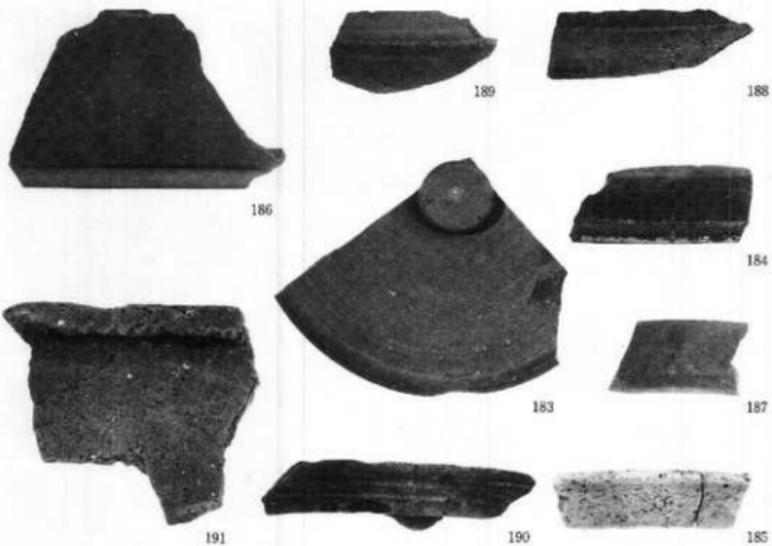
2. 溝1出土土器 土師器甕・羽釜・銅付鍋



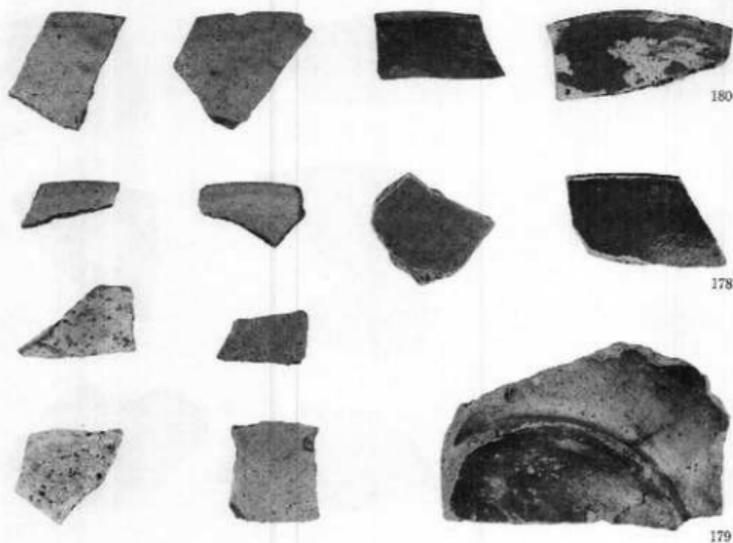
1. 溝1出土土器 土師器甕・杯・碗・皿



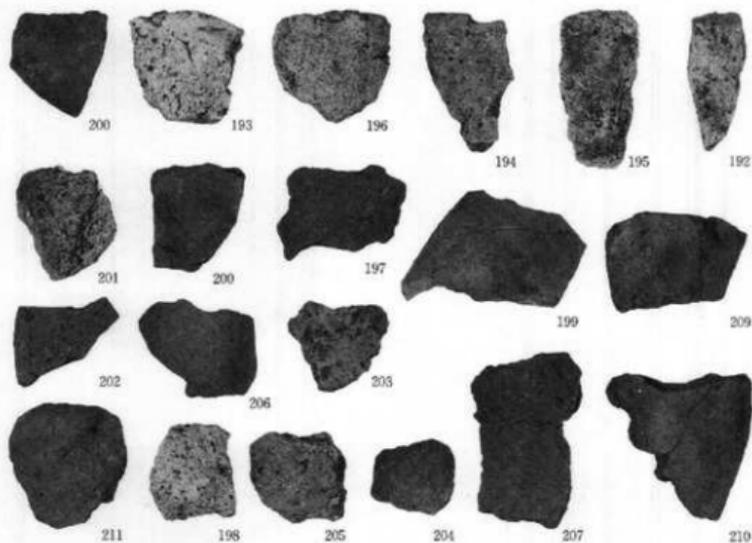
2. 溝1出土土器 瓦器碗・皿、黒色土器碗



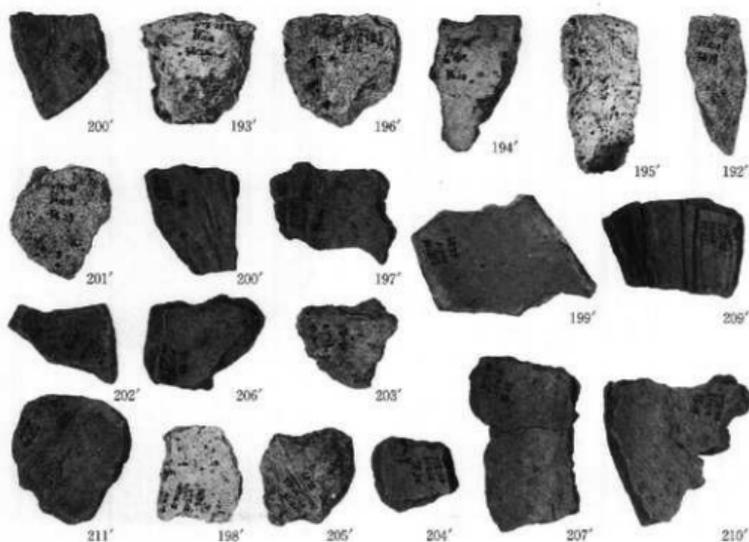
1. 溝1出土土器 弥生土器壺・甕、須恵器杯・皿・蓋



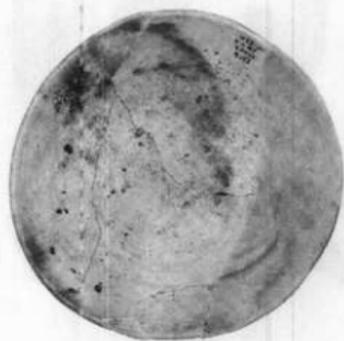
2. 溝1出土土器 緑釉陶器碗・皿



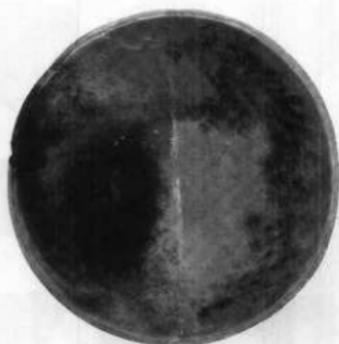
1. 溝1出土土器 製塩土器(表)



2. 溝1出土土器 製塩土器(裏)



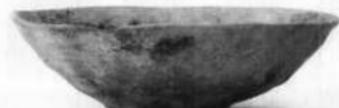
240*



250*



240



250



242*



250*



242



250



300'



300



300''



304



275



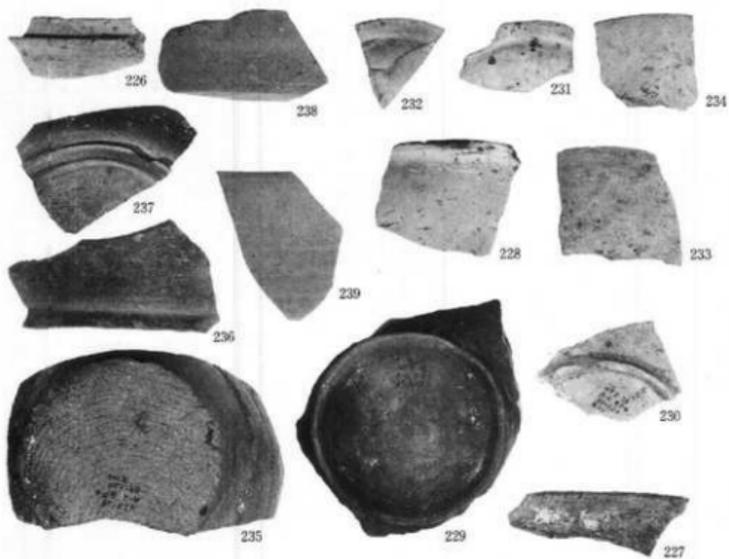
329



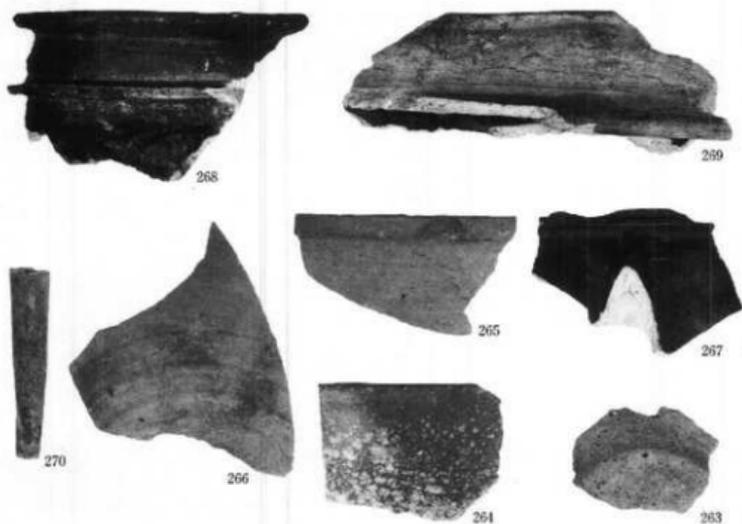
306



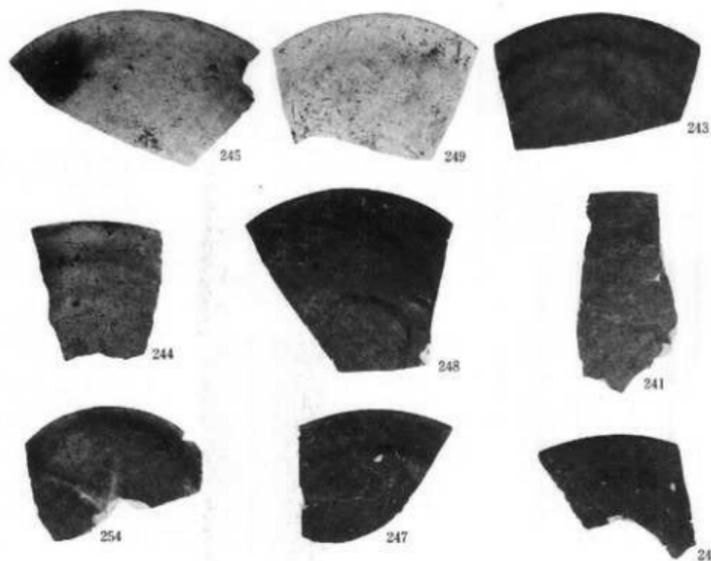
308



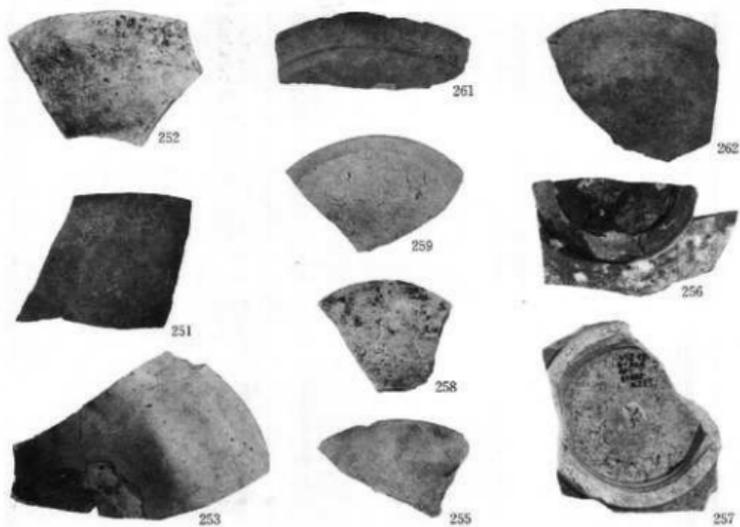
1. 土埧2・14出土土器 須惠器杯・壺・鉢、土師器杯・皿、黑色土器碗、弥生土器甕



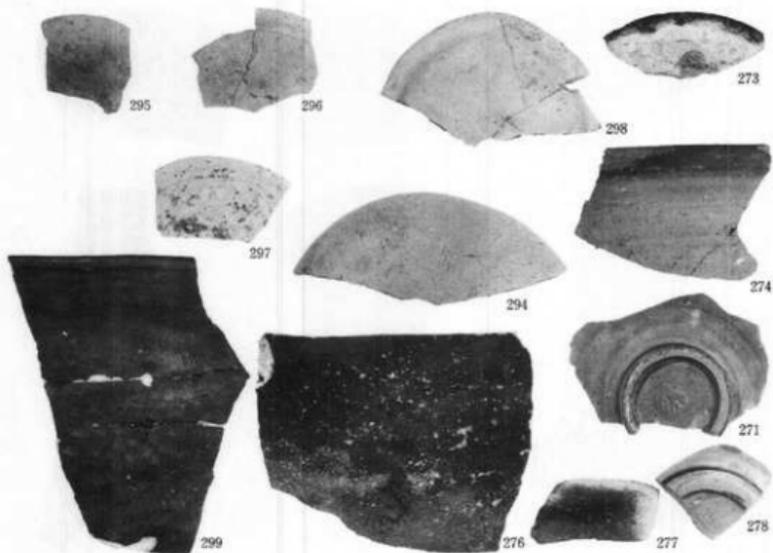
2. 土埧4出土土器 土師器羽釜、瓦器羽釜・摺鉢、須惠器椀鉢、弥生土器底部



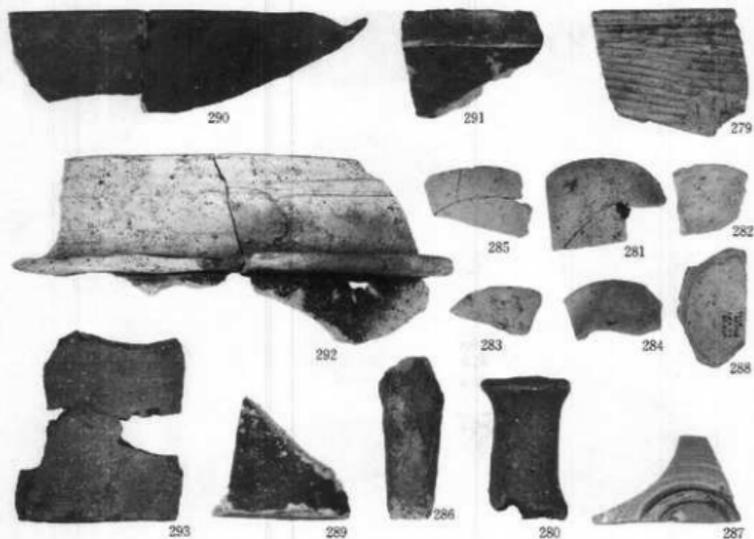
1. 土坑4出土土器 瓦器碗・皿



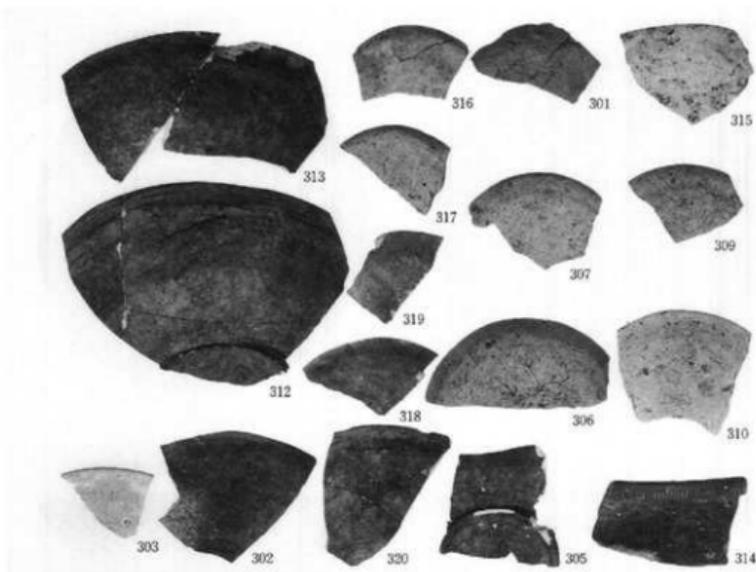
2. 土坑4出土土器 瓦器碗・皿、土師器碗、青磁碗、白磁碗



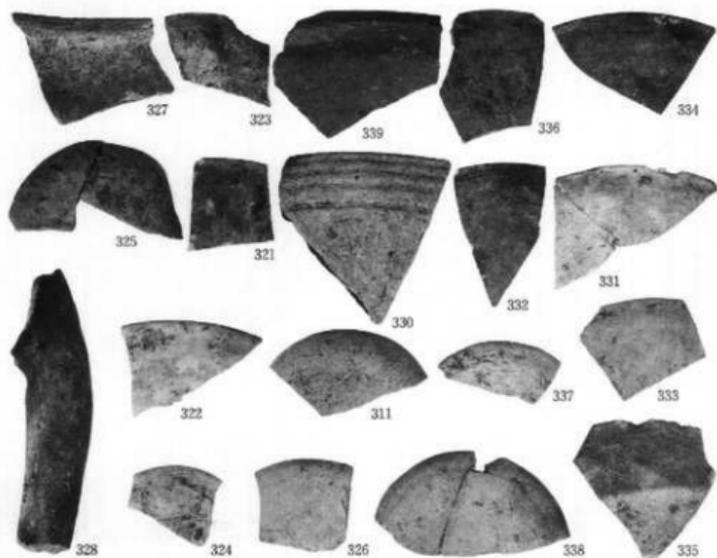
1. 井戸1~3・5出土土器 土師器皿、瓦器皿・摺鉢、須恵器摺鉢、青磁椀



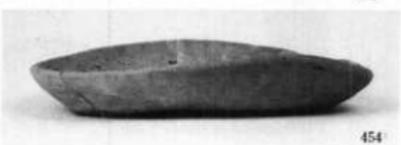
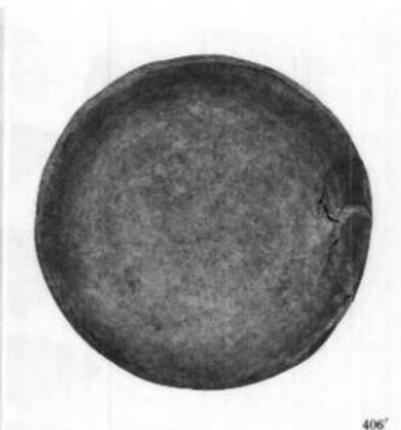
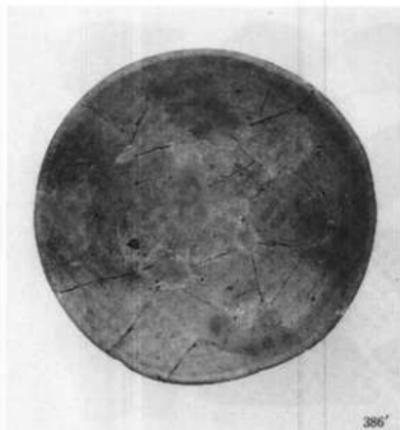
2. 井戸4出土土器 瓦器羽釜・摺鉢・甕、土師器皿、青磁椀、緑釉陶器底部、弥生土器高杯



1. ビット20・28・31・35・43・45・53・57・91出土土器 瓦器椀・皿、土師器皿、白磁皿、赤生土器鉢



2. ビット65・92・143・144出土土器 瓦器椀・皿・羽釜、土師器皿・甕、須恵器椀鉢、赤生土器鉢



包舍層出土土器 瓦器碗、土師器皿



467



459



341



359



344

1. 包含層出土土器 弥生土器高杯・須恵器杯・蓋・土師器皿



355



356



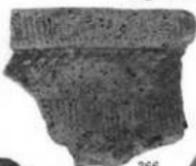
364



365



357



366



363



362



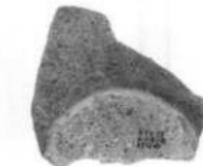
358



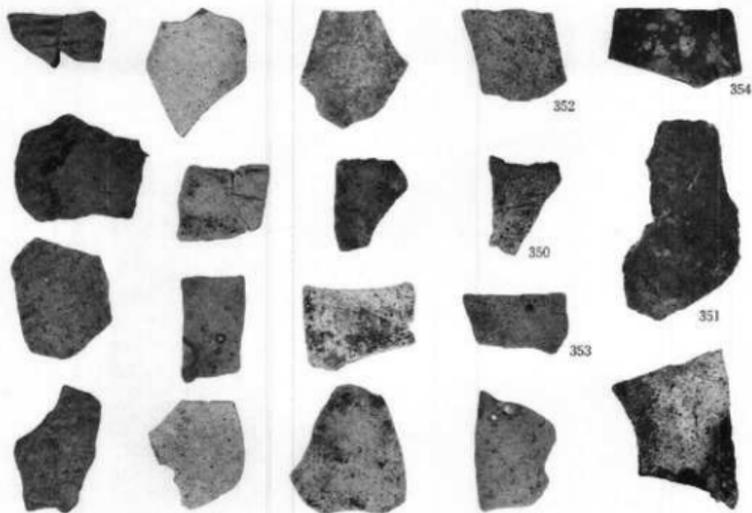
361



360



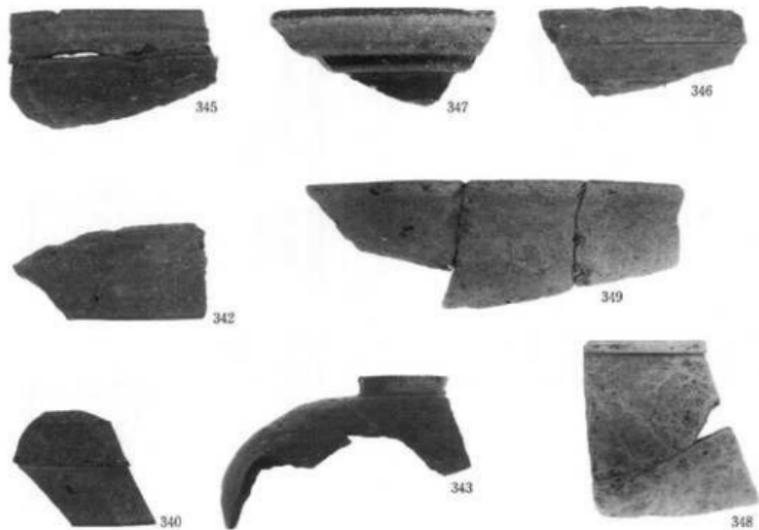
2. 包含層出土土器 弥生土器甕・鉢・高杯・壺蓋・甕蓋・底部



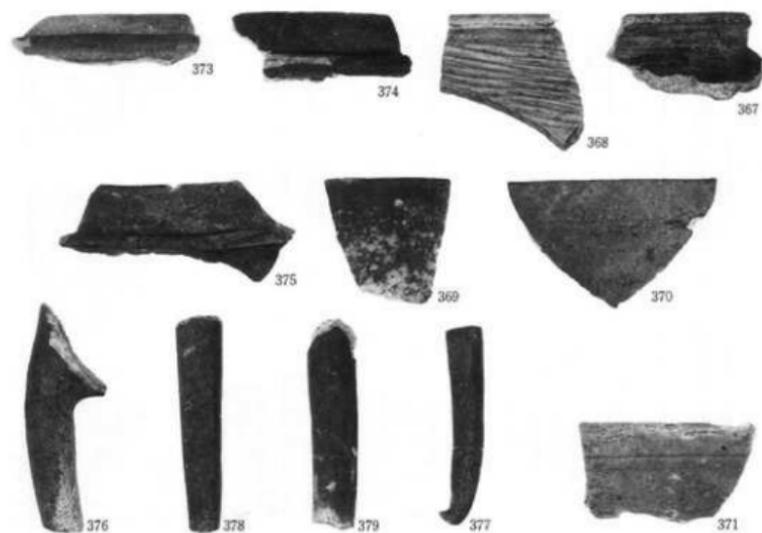
1. 包含層出土土器 製塩土器(表)



2. 包含層出土土器 製塩土器(裏)



1. 包含層出土土器 須恵器杯・蓋・甕、土師器高杯



2. 包含層出土土器 瓦器羽釜・摺鉢・甕



382



383



381



387



388



389



380



385



384

1. 包含層出土土器 瓦器類



403



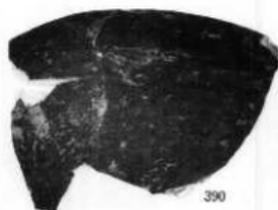
404



391



399



390

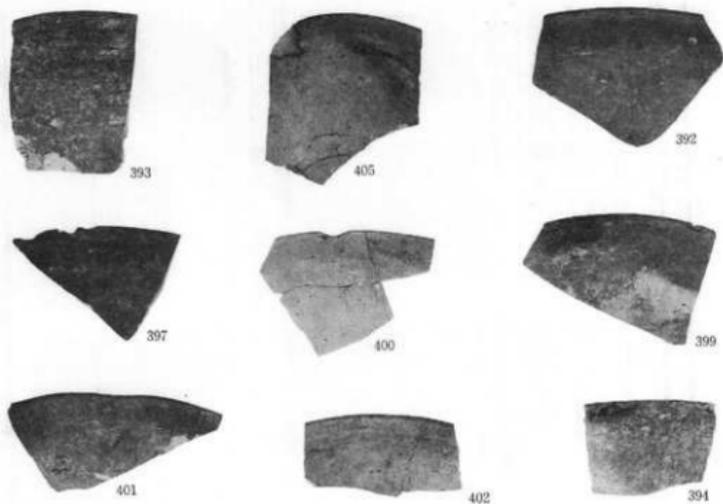


395

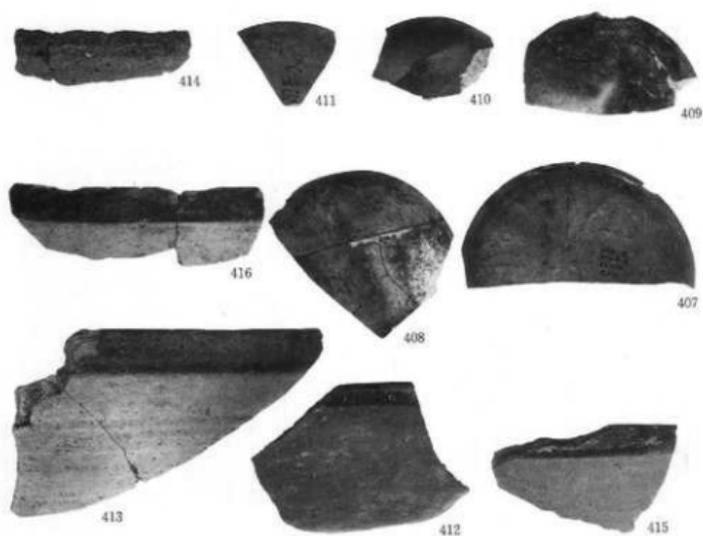


384

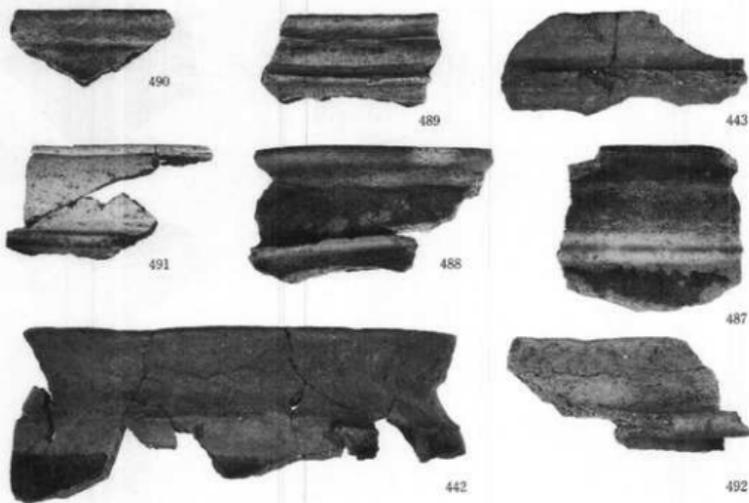
2. 包含層出土土器 瓦器類



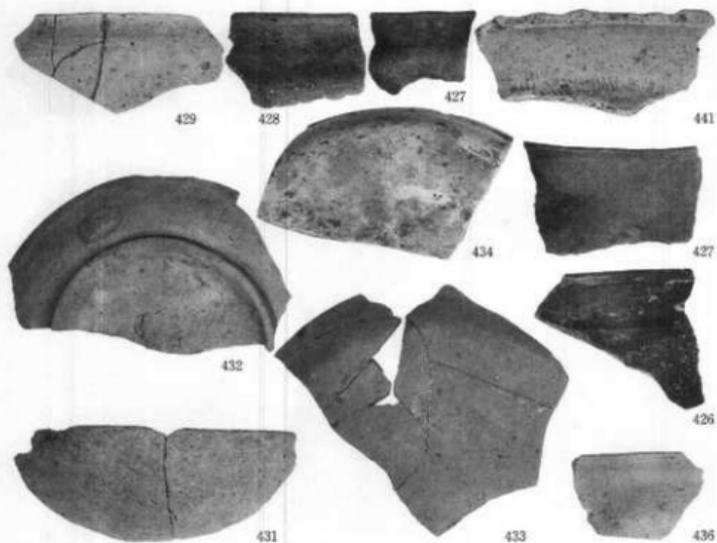
1. 包含層出土土器 瓦器柄



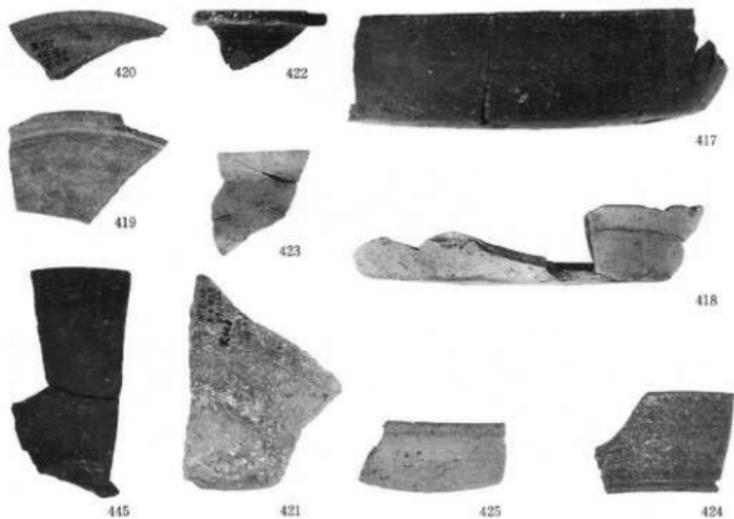
2. 包含層出土土器 瓦器皿、須恵器控鉢



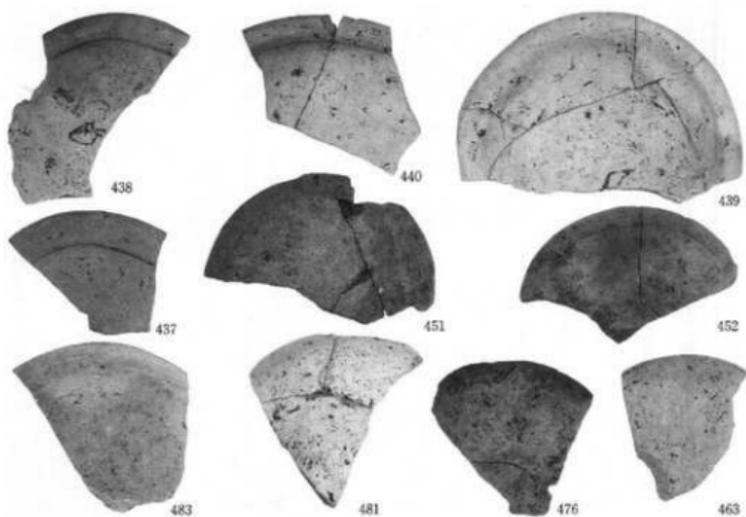
二、包含層出土土器 土師器羽釜



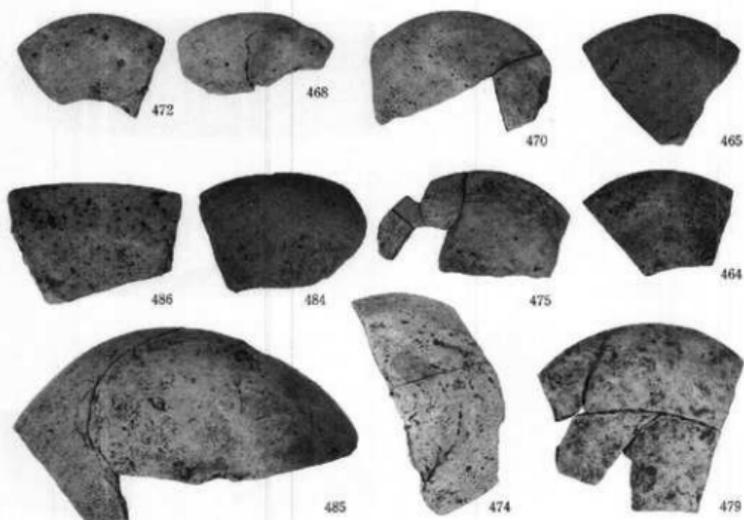
三、包含層出土土器 土師器壺・甕・杯・高杯



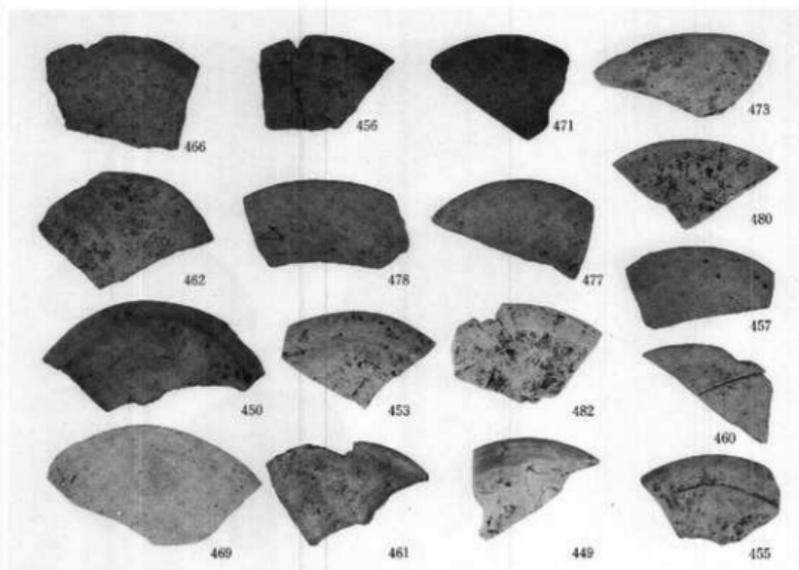
1. 包含層出土土器 須恵器杯・皿・蓋・壺、黑色土器椀



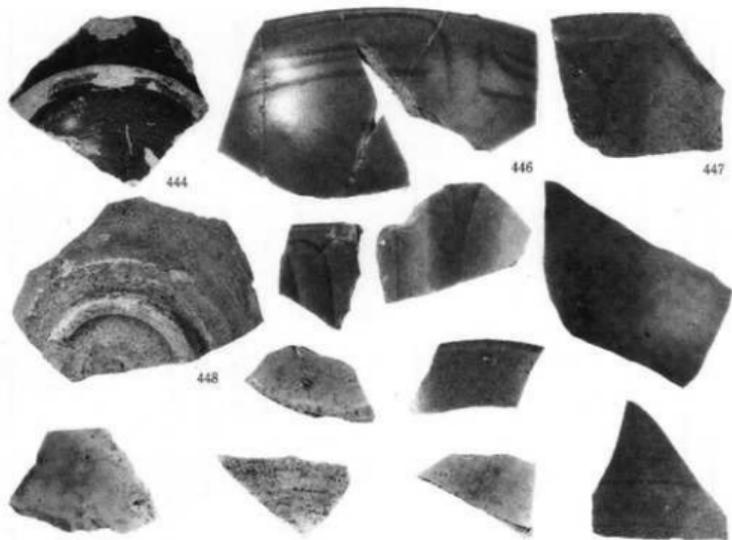
2. 包含層出土土器 土師器皿



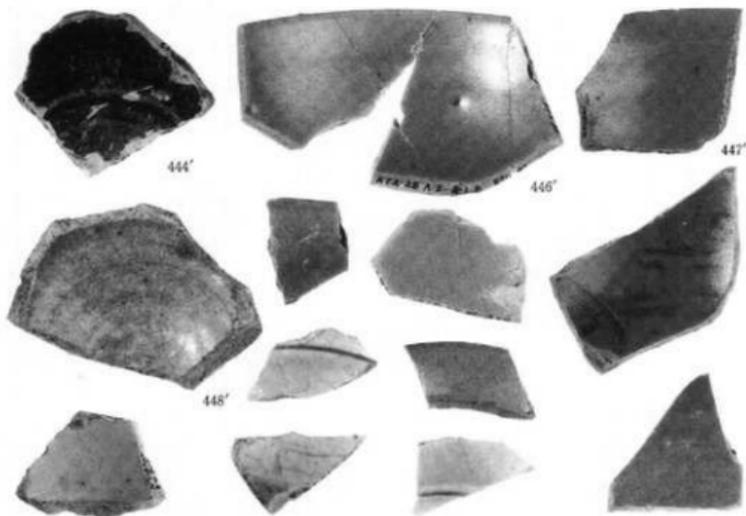
1. 包含層出土土器 土師器皿



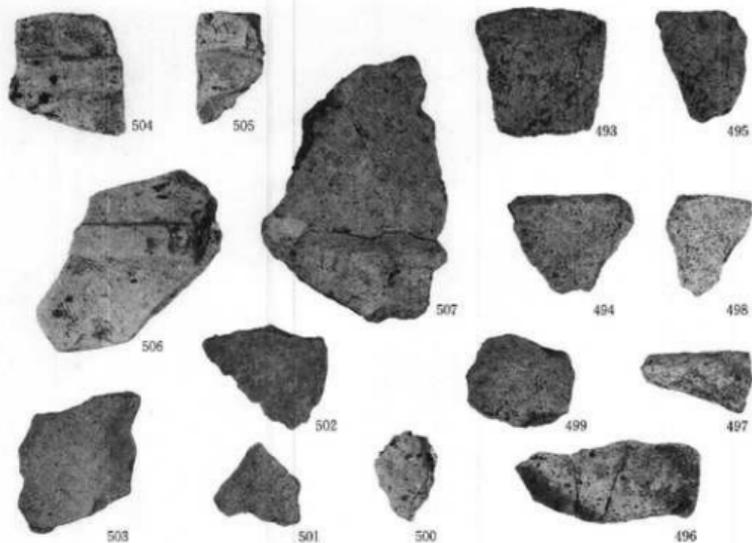
2. 包含層出土土器 土師器皿



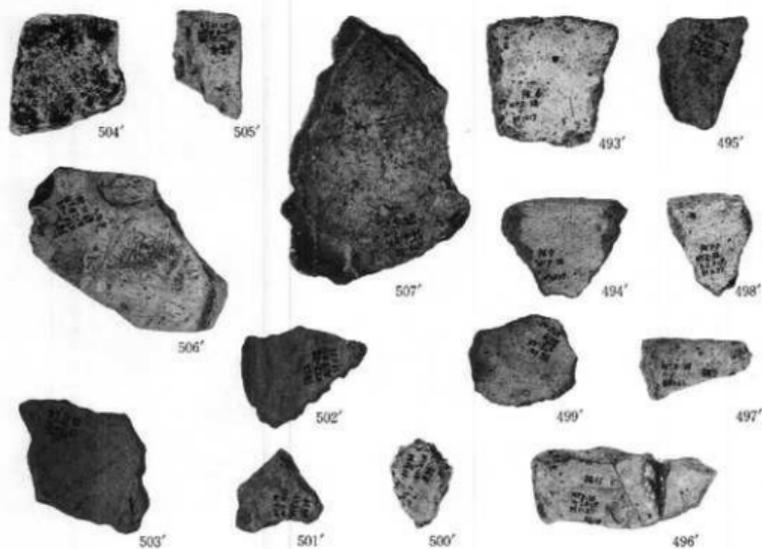
1. 包含層出土土器 青磁碗・皿、白磁碗、綠釉陶器底部、陶器底部(表)



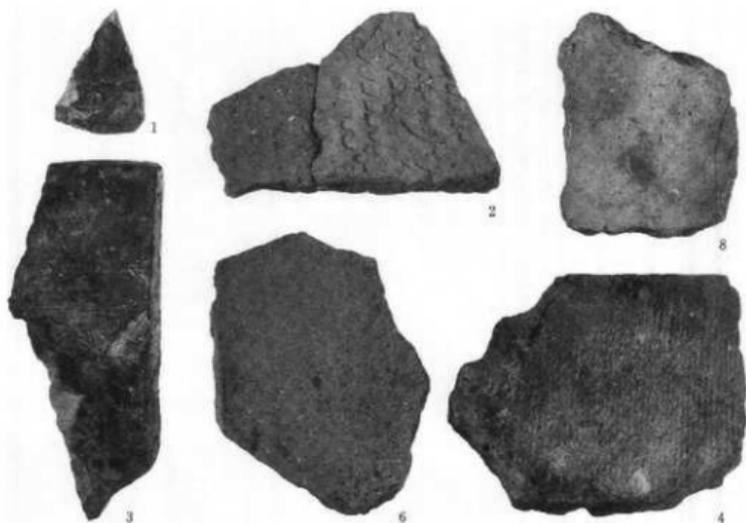
2. 包含層出土土器 青磁碗・皿、白磁碗、綠釉陶器底部、陶器底部(裏)



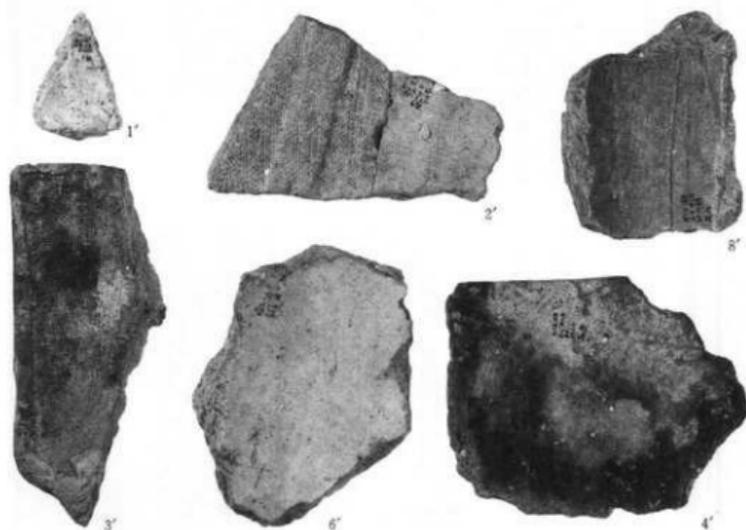
1. 埴輪 円筒埴輪(表)



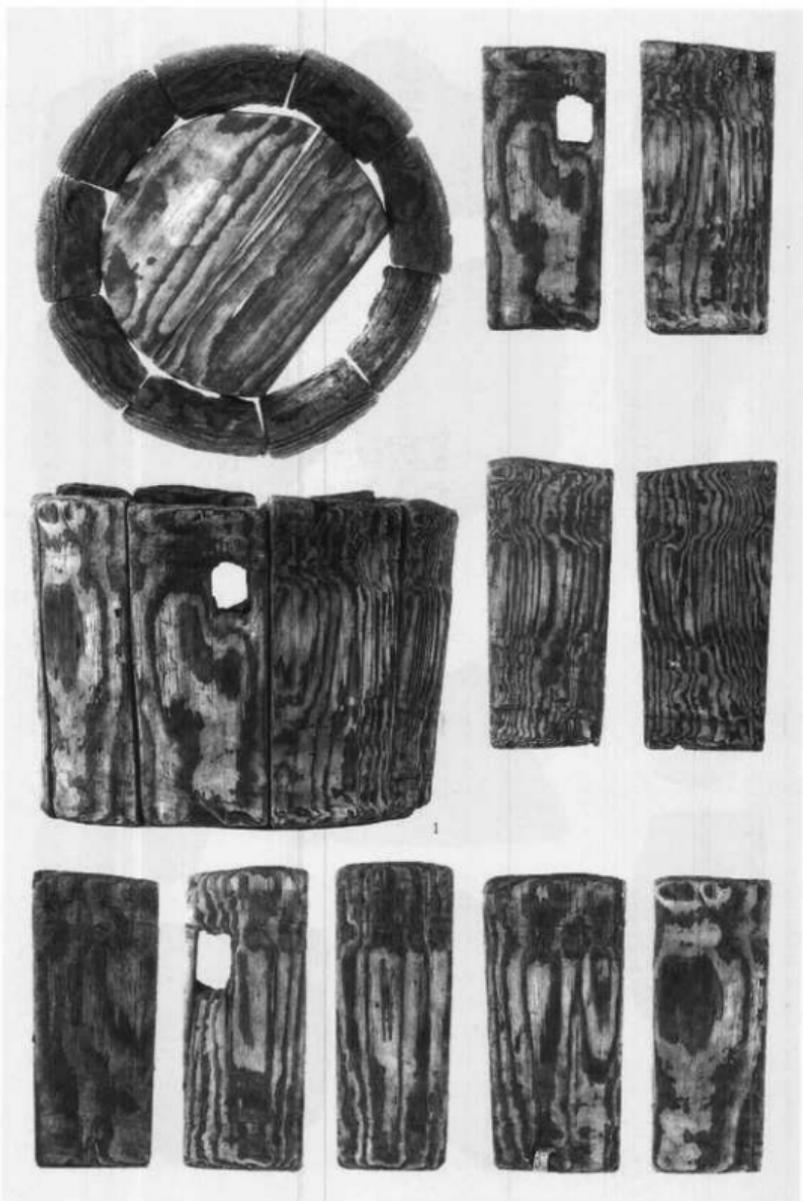
2. 埴輪 円筒埴輪(裏)



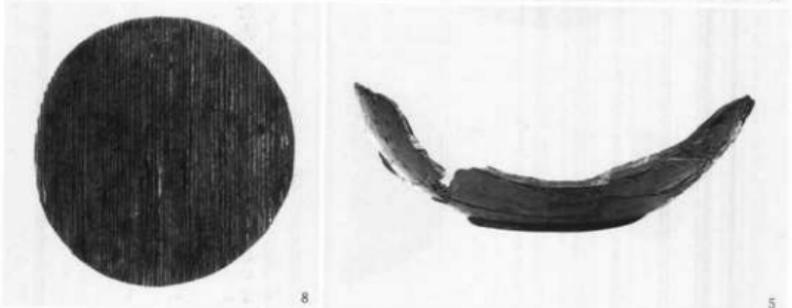
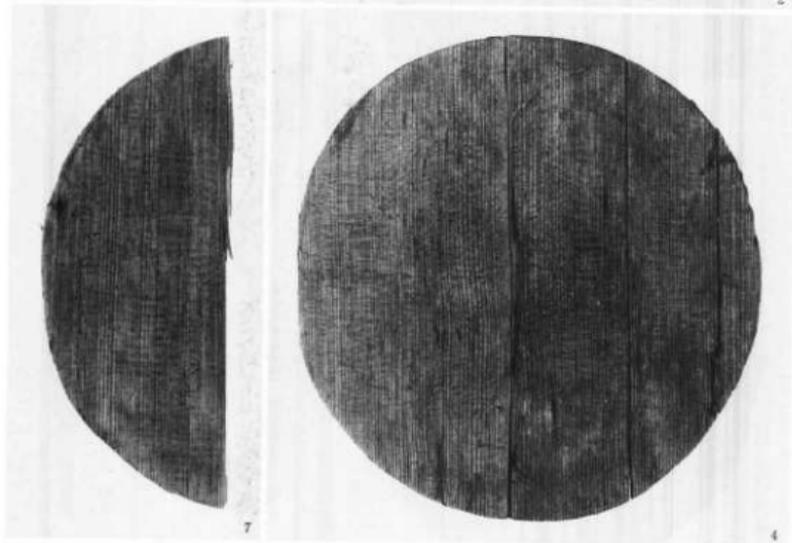
1. 瓦 軒丸瓦・平瓦・丸瓦(表)



2. 瓦 軒丸瓦・平瓦・丸瓦(裏)



木製品 釣具





25



24



6



9



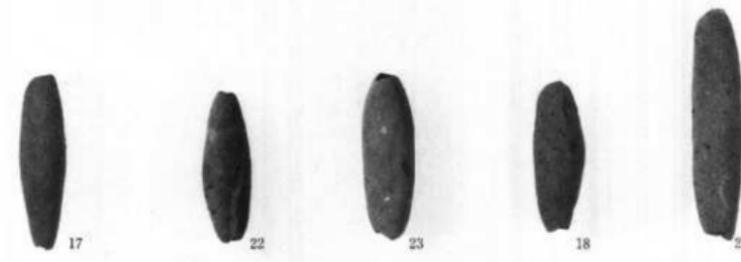
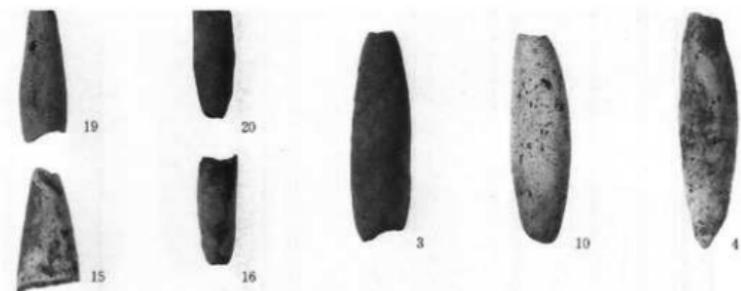
15

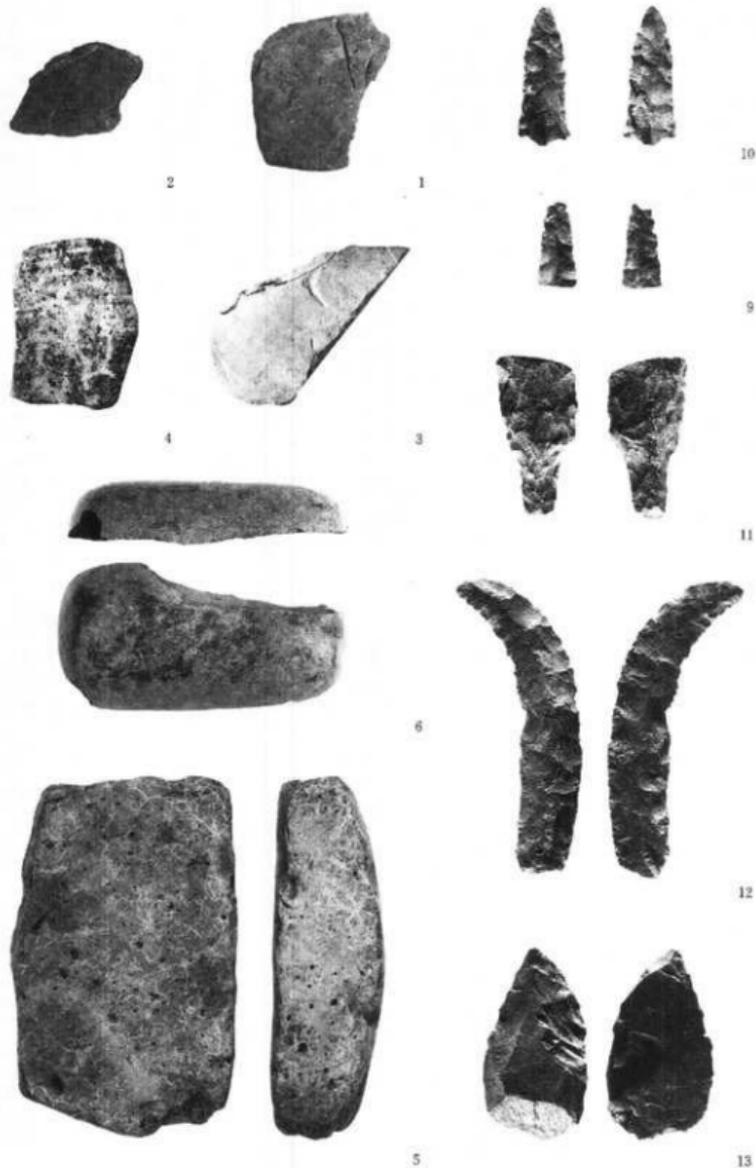


14

木製品 容器底板・漆器碗・用途不明板、土製品 紡錘車・円板状土製品、金属製品 銭貨・鉄釘、動物遺体 鹿角

図版 51
遺物(第28次調査)





石製品 石鏃・石錐・石小刀・不定形石器・石磨丁・砥石・用途不明石器



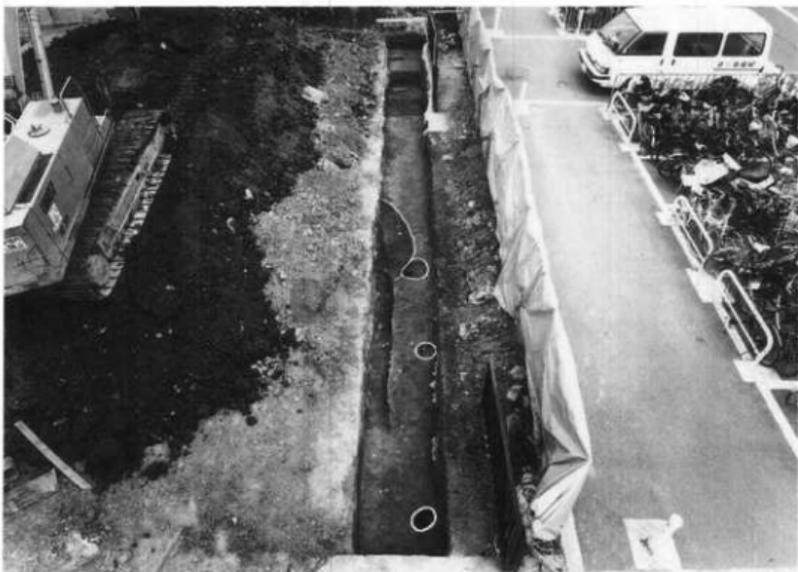
1. 遺構全景(中央区)



2. 遺構全景(中央区)



1. 遺構全景(南側区)



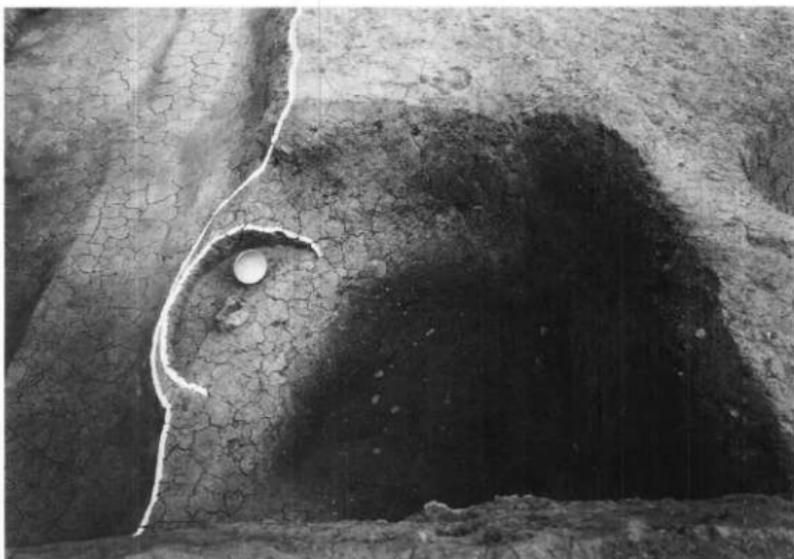
2. 遺構全景(南側区)



1. 遺構全景(南側区)



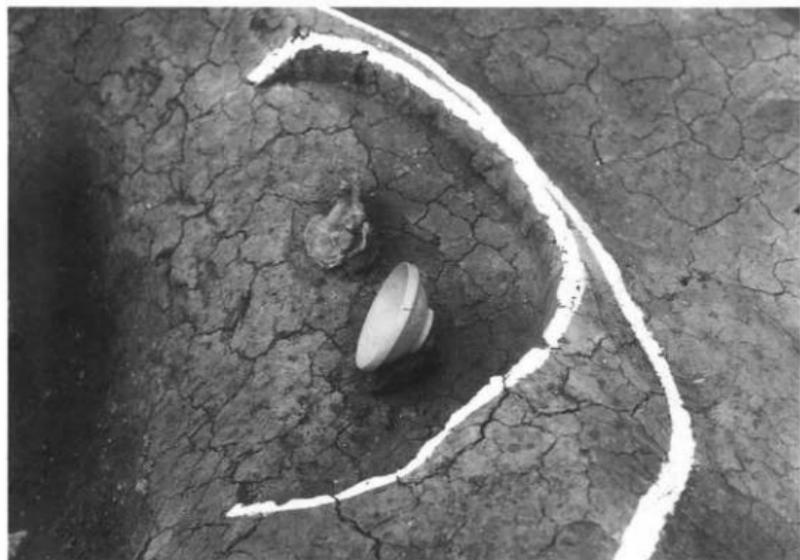
2. 遺構全景(東側区)



1. 落ち込み1、土壇墓



2. 土壇墓



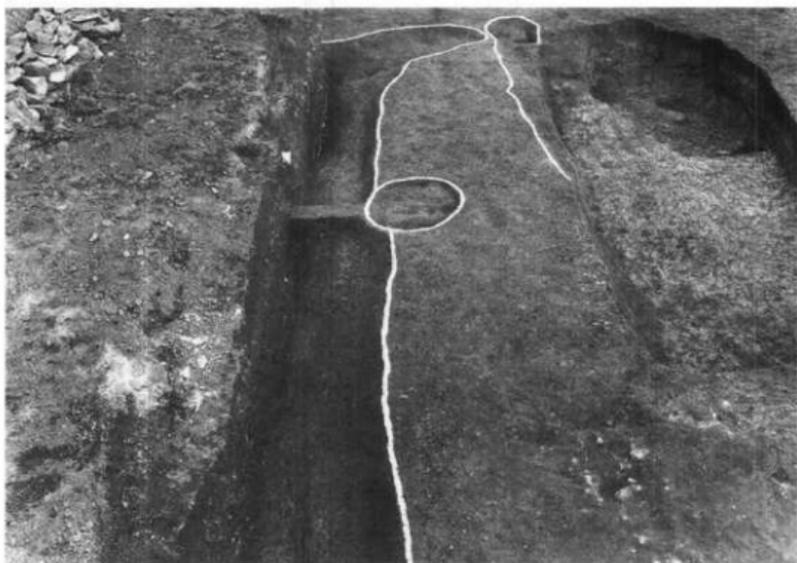
1. 土壇墓



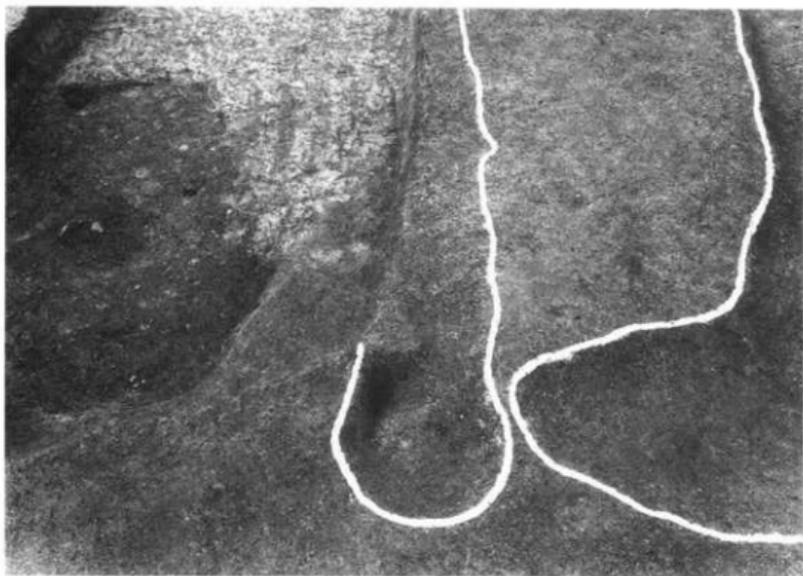
2. 土壇墓



1. 溝1・2、土壇2~5



2. 溝1、土壇2



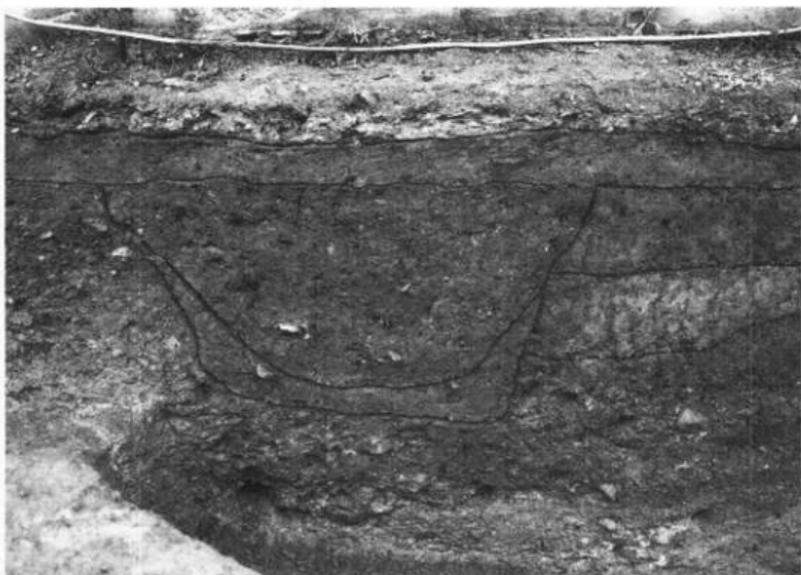
1. 溝1・2



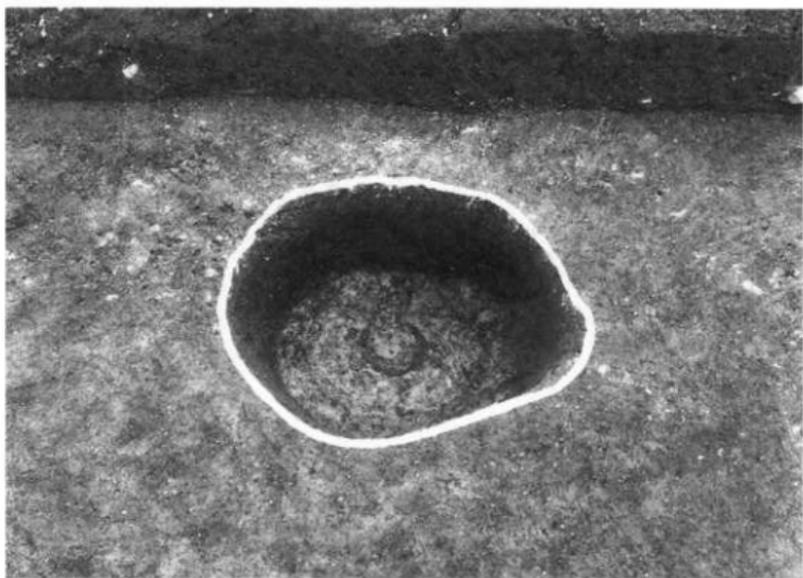
2. 溝3



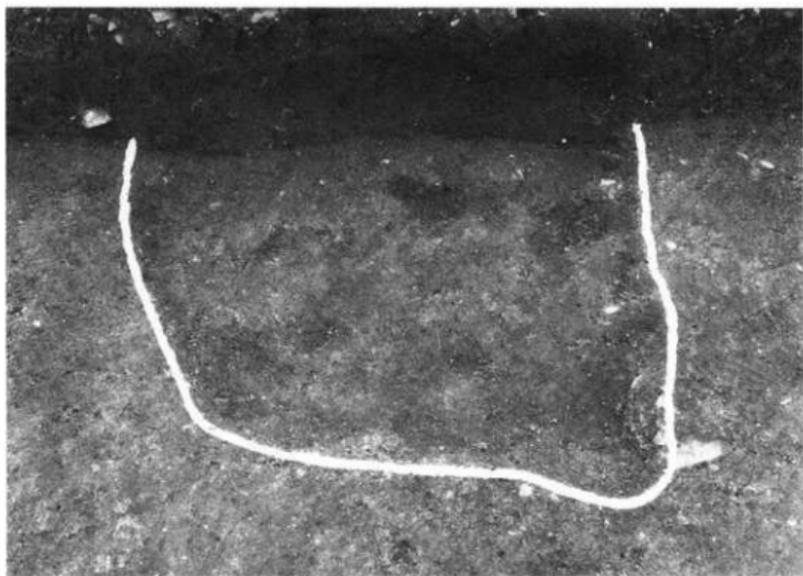
1. 土城1



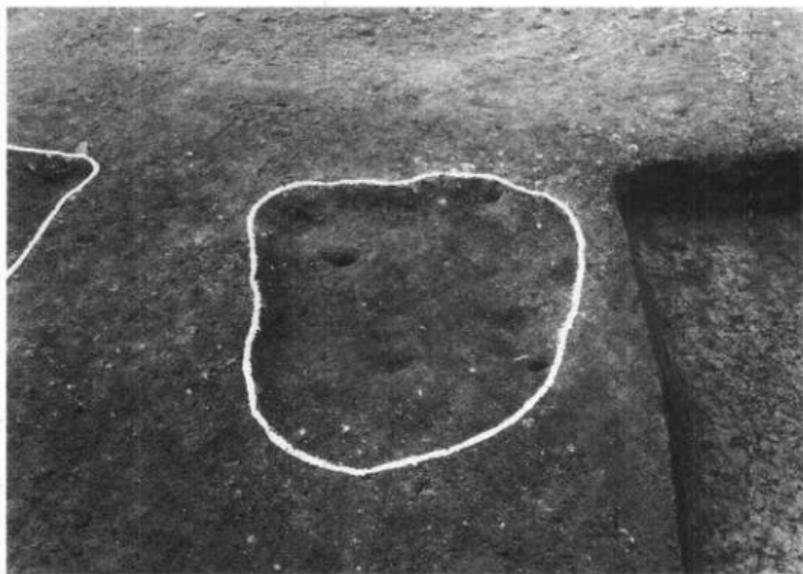
2. 土城1東壁断面



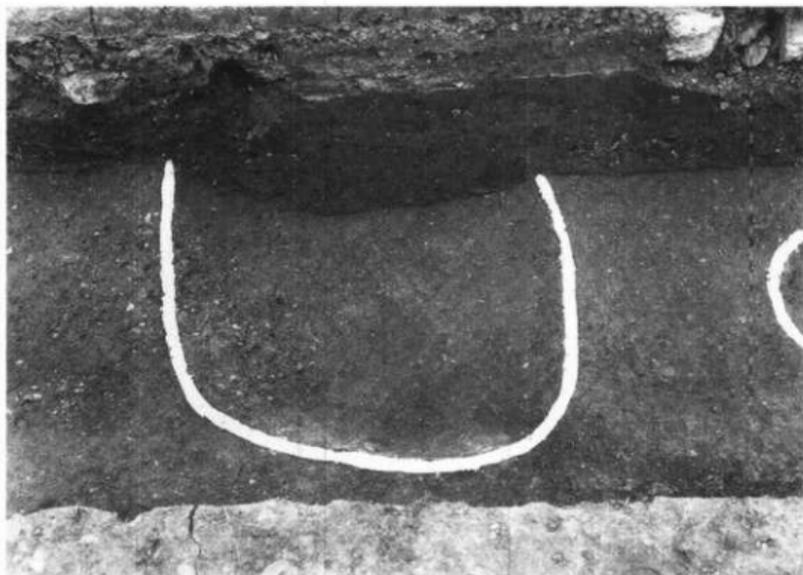
1. 土壇 3



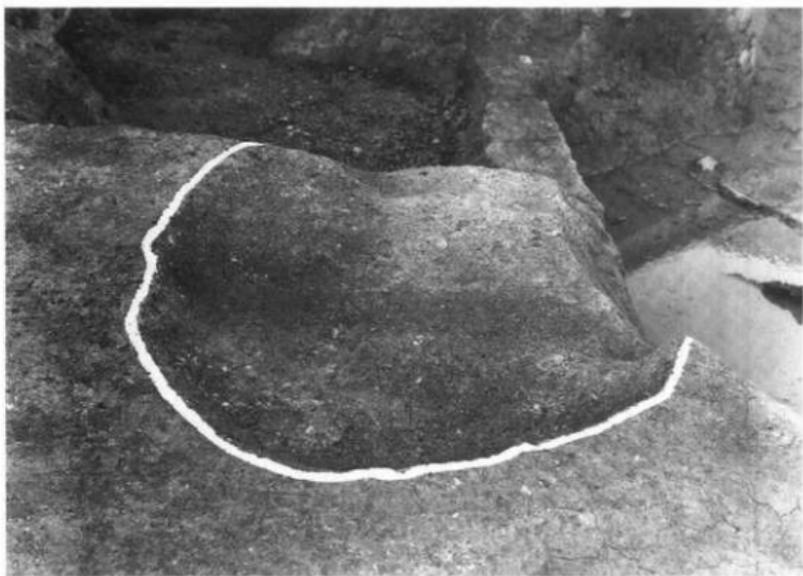
2. 土壇 4



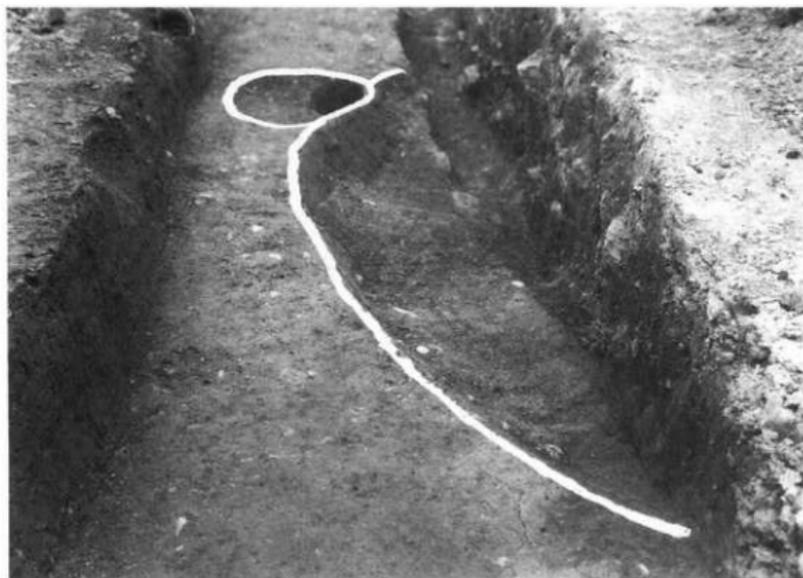
1. 土壇 5



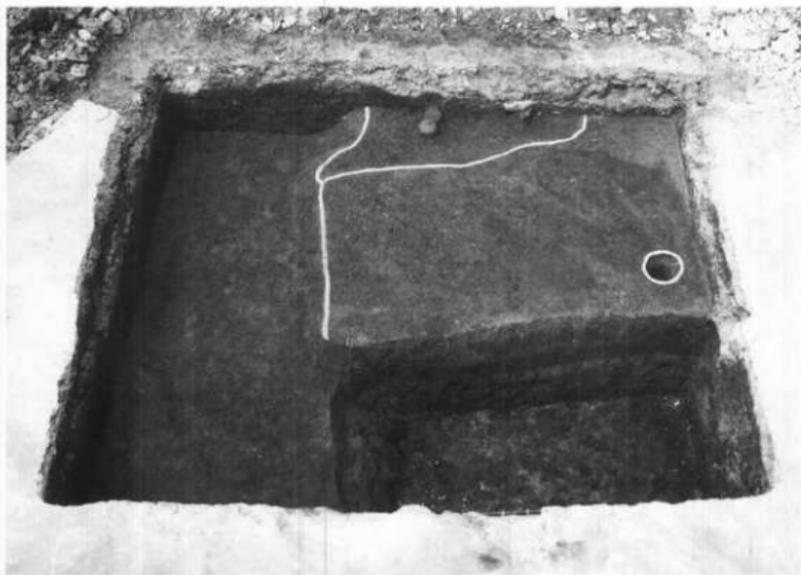
2. 土壇 6



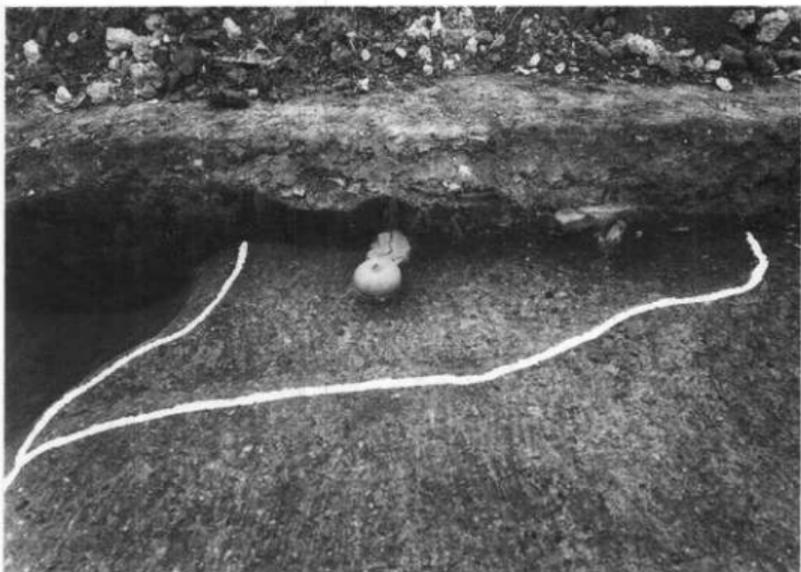
1. 土壇 8



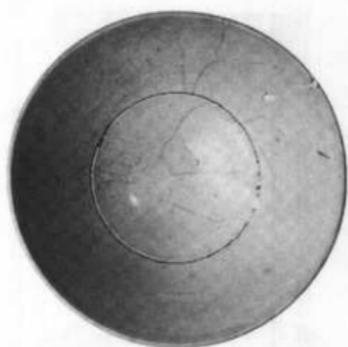
2. 土壇 9



1. 土壇10、落ち込み2



2. 土壇10



7



1



7



27



7



3



37



35

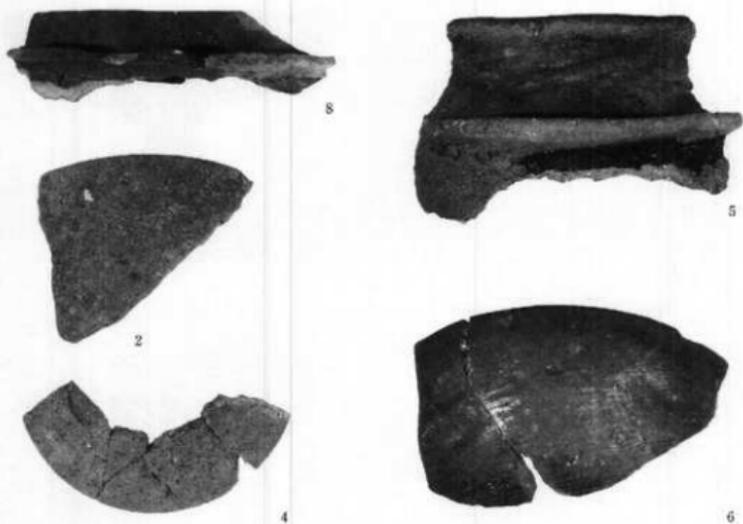


36

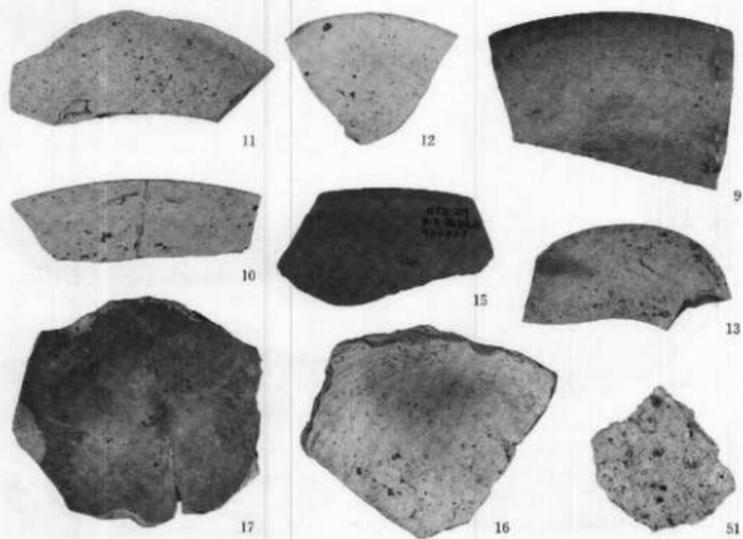


14

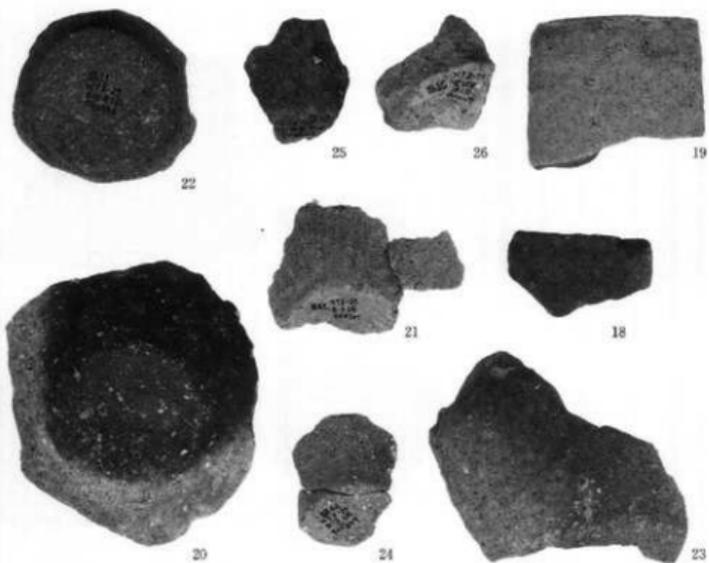
土壇墓、土壇10、落ち込み1、包含層出土土器 土師器高杯・皿、白磁碗



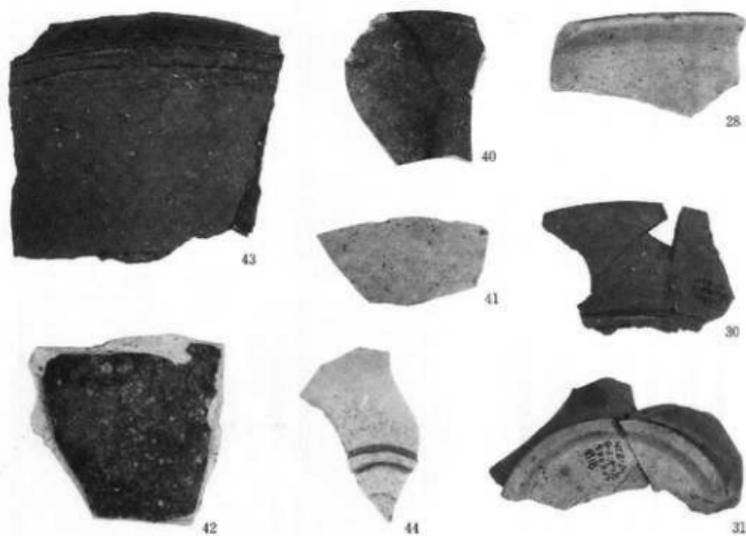
1. 溝1・土壇1・10出土土器 土師器高杯・羽釜、黒色土器椀、瓦器羽釜



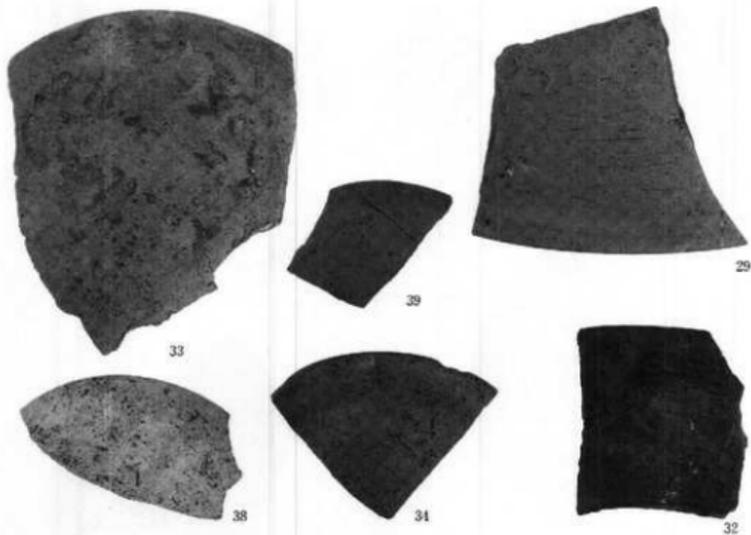
2. 落ち込み1出土土器 瓦器椀、須恵器杯、土師器皿、製塩土器



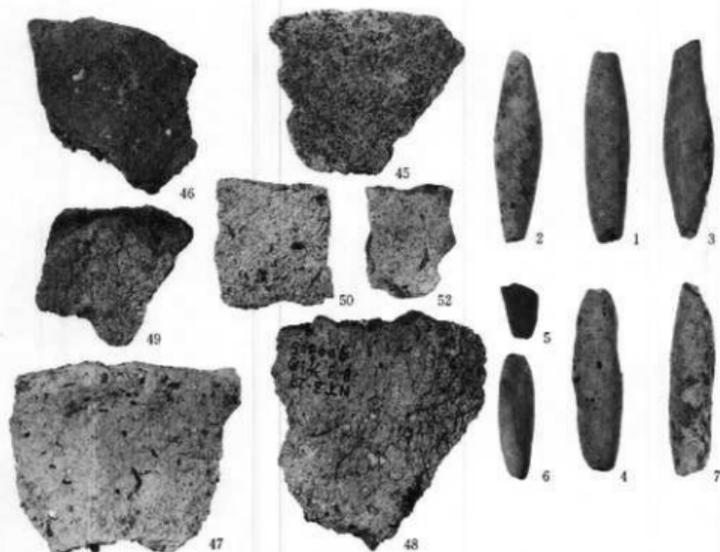
1. 包含層出土土器 弥生土器鉢・底部



2. 包含層出土土器 須恵器杯、土師器高杯、瓦器椀、青磁椀、備前焼摺鉢



1. 包含層出土土器 土師器杯・碗・皿・蓋



2. 包含層出土土器 裂壊土器、土製品 土錘

西ノ辻遺跡第28・29次発掘調査報告

発行日 1991年9月

発行所 財団法人東大阪市文化財協会

印刷所 明文堂工業株式会社